TOTO

施工説明書

レストパル

L型　壁排水

【手洗器Mサイズ】
まるごと収納タイプ（UWB1C1/2）
収納タイプ（UWB1D1/2）
まるごと収納タイプ/立管対応タイプ（UWB1C8/9）
収納タイプ/立管対応タイプ（UWB1D8/9）

【手洗器Sサイズ】
まるごと収納タイプ（UWB5C1/2）
収納タイプ（UWB5D1/2）
まるごと収納タイプ/立管対応タイプ（UWB5C8/9）
収納タイプ/立管対応タイプ（UWB5D8/9）

◆“ウォシュレット”はTOTOの登録商標です。

製品の機能が十分発揮できるように、この施工説明書の内容にそって正しく取り付けてください。
本書は手洗器が左勝手を基準に説明しております。

下記商品の取り付けは、各商品に同梱の施工説明書を参照してください。
〈ウォシュレット・タオル掛け（壁付タイプ）・手すり・化粧鏡〉

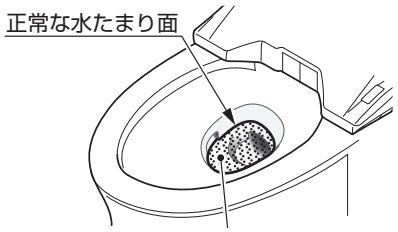
重要なお知らせ〔工事店様へ〕

試運転を必ず実施してください。

大洗浄をしたあと、水たまり面の状態を確認してください。

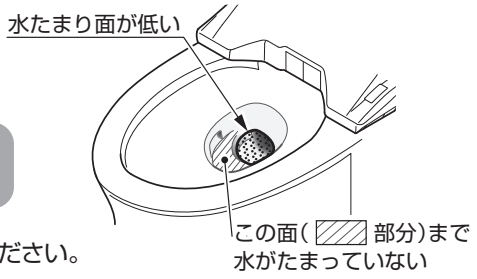
正常な状態

設定変更は不要です。
（設定を行うと、洗浄不良になる場合があります。）



水たまり面が低い状態

設定変更を行ってください。
（洗浄水量を変えずに水たまり面を正常な状態にすることができます。）



水たまり面が低い場合の対応方法

参照 P.87を参照してください。

〈水たまり面の判断に迷ったときは…〉
ペットボトルやバケツなどで徐々に水をたし、水たまり面が上昇しない場合は正常です。

※水たまり面が低いと汚物付着の原因になります。
排水管に曲がりが多かったり、通気が不十分だったりすると、水たまり面が低下する場合があります。

自治体によって洗浄水量の規制がある場合

大洗浄4.8L、小洗浄3.6L、eco小洗浄3.4L仕様を下記水量に変更することができます。

大洗浄6L、小洗浄4.8L、eco小洗浄4.6L仕様への切替方法 参照 P.89を参照してください。

大洗浄8L、小洗浄6L、eco小洗浄5.5L仕様への切替方法 参照 P.90を参照してください。

工事店様へ

■取扱説明書の最終ページの保証書に、必要事項を記入のうえ、必ずお客様にお渡ししてください。
お渡しできない場合は、目立つ場所に置いてください。
■取り付け後、ウォシュレットの機能、使いかたなどについてお客様にご説明をお願いいたします。
■新築などでお客様に引き渡すまでに時間があるときは、電源プラグを抜いておいてください。

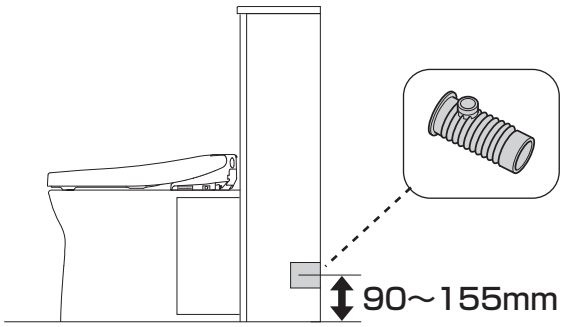
設置するタイプにより施工手順が異なります

お施主様のお宅は、どのタイプですか？

給排水

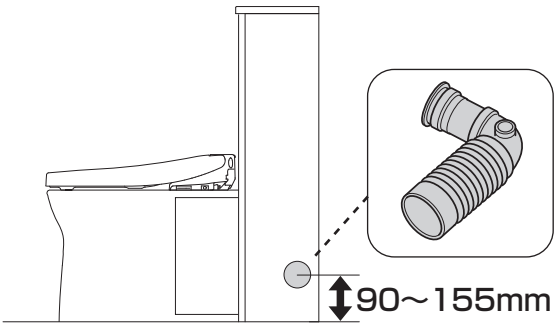
後ろ抜き

給水新設 | 既存給水流用（リモデル用）



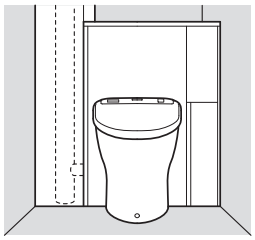
左右抜き

給水新設 | 既存給水流用（リモデル用）

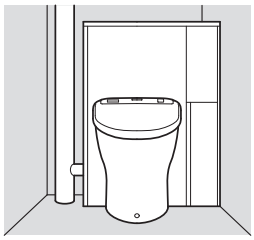


立管対応タイプ

立管が左の場合

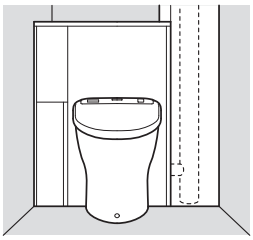


隠ぺいタイプ

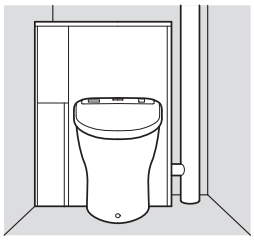


露出タイプ

立管が右の場合

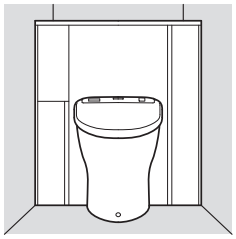


隠ぺいタイプ



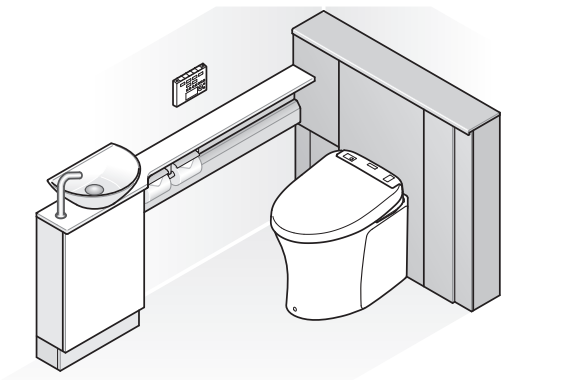
露出タイプ

立管なし

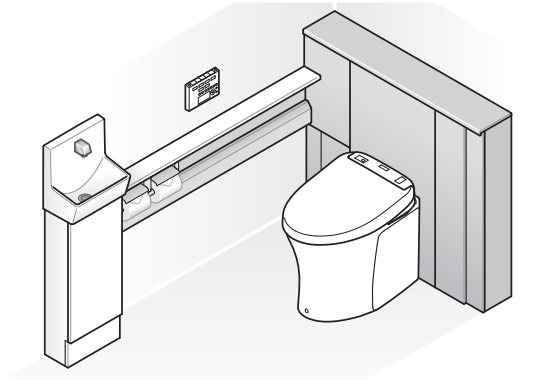


手洗器タイプ

Mサイズ



Sサイズ



もくじ

安全上のご注意 ▶4

1 取り付け前のご注意 ▶6

1 設置寸法について 6
2 キャビネットの可動範囲について 7
3 給排水位置について 7
4 補強材について 11
5 電気配線について 22
6 幅木について 24
7 窓枠などについて 24
8 必要工具 24
9 壁裏補強材なしの場合のオプション品 24

2 部品の確認 ▶25

3 部材の取り付け① ▶32

1 側板(立管対応)・エンドパネル(オプション品) 32
2 後横桟・壁側板 34
3 止水栓・分岐金具（給水新設の場合／既存給水流用の場合） 38
4 大便器の仮固定 43
5 セットタンク 45
6 コアキャビネット（後ろ抜き／左右抜き／立管対応の場合） 46
7 大便器の本固定 49
8 洗浄レバー 49
9 ウォシュレット 51
10 固定扉 54
11 棚板・扉 56

手洗器Mサイズの場合 58
12-M 手洗器キャビネット、カウンター
13-M 配管ブラケット
14-M 手洗器

手洗器Sサイズの場合 72
12-S 手洗器キャビネット、カウンター
13-S 配管ブラケット
14-S 手洗器

15 試運転・確認 86
16 天板 93

4 器具類の取り付け ▶96

1 紙巻器 96
2 タオル掛け 97
3 リモコン 97

5 部材の取り付け② ▶98

安全上のご注意 安全のために必ずお守りください。

お取り付け前にこの「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取り付けてください。
ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容となりますので、必ずお守りください。
●表示と意味はつぎのようになっています。

⚠ 警告	誤った取り扱いをすると、「死亡又は重傷を負う可能性が想定される」内容です。	🚫	してはいけない「禁止」の内容です。
⚠ 注意	誤った取り扱いをすると、「人が傷害を負う可能性および物的損害※の発生が想定される」内容です。	❗	必ず実行していただく「強制」の内容です。

※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

⚠ 警告

禁止

- **修理技術者以外の人は絶対に分解したり、修理・改造は行わない**
  火災や感電の原因となります。
- **ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない**
  感電の原因となります。
- **アース(D種接地)工事がされていることを確認する**
  アース工事がされていないと故障や漏電のとき、感電する原因となります。
  アース工事は、お近くの工事店に依頼してください。
- **浴室など水がかかったり湿気の多い場所には設置しない**
  火災や感電の原因となります。
  商品本体・ねじ類の腐食により、落下してけがやときに死亡の原因となります。
- **水道水および飲用可能な井戸水・地下水以外は使用しない**
  皮膚の炎症などを起こす原因となります。
- **電源プラグやコードが傷んだりコンセントの差し込みがゆるいままで使用しない**
  火災や感電の原因となります。
- **指定する電源(交流100V)以外では使用しない**
  火災の原因となります。
- **ガタついているコンセントは使わない**
  火災や感電の原因となります。
- **電源コード・電源プラグが破損するようなことをしない**
  傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたり、挟み込んだり、加熱したりしない
  傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。
- **給水および排水管の真下部にコンセントを設置しない**
  結露水などにより、コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。
- **屋外および傾斜のあるような壁面、振動の激しい場所に取り付けない**
  取り付けが不安定になり、倒れたり落下してけがやときに死亡の原因となります。
- **器具取付用のねじ固定部の壁裏には、配管・配線を通さない**
  火災や感電の原因となります。
  水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。
- **雷が発生しているときは、電源プラグに触れない**
  感電の原因となります。
- **コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしない**
  たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。
- **ウォシュレットの給水ホースをコンセントに接触させない**
  結露水などにより、コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。

必ず守る

- **電源プラグは根元まで確実に差し込む**
  火災や感電の原因となります。
- **壁固定ねじ取付位置には、必ず壁裏を補強する**
  商品の転倒、落下によりけがやときに死亡の原因となります。
- **コンセント位置・電源コードの取り回しは、本説明書に記載された位置・方法・注意事項を厳守する**
  結露水などにより、コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。
- **電源プラグを抜くときは、必ずプラグ本体を持って引き抜く**
  コードを引っ張るとプラグやコードが傷んで、火災や感電の原因となります。
- **取り付け面がタイル・コンクリート壁の場合は、コンクリート用プラグ(現場手配)を使用する**
  取り付けが不安定になり、落下によりけがやときに死亡の原因となります。
- **工事完了後、商品の傾きやがたつきがないか確認する**
  商品が落下したり、外れたりしてけがやときに死亡の原因となります。
- **商品を取り付ける柱・間柱は、腐食などで強度不足でないことを確認する**
  取付物の転倒・落下によりけがやときに死亡の原因となります。
- **コンセントは水や小水がかからない位置に設置する**
  コンセントに水がかかり、感電・発火の原因となります。

⚠ 警告	必ず守る	**機器の設置は専門業者が行う また、電気工事は関連する法令・法規に従って有資格者（電気工事士）が行う** 火災や感電の原因となります。水漏れして、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。 商品の破損や落下によりけがをするおそれがあります。	**石こうボードの場合は指定のボードアンカーを使用する** 取り付けが不安定になり、落下によりけがやときに死亡の原因となります。

⚠ 注意	禁止	**止水栓を開けたままで給水フィルターをはずさない** 水が噴き出し、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。	**給水ホースが破損するようなことをしない 傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたり、挟み込んだり加熱したりしない** 給水ホースが破損し、水漏れして家財などを濡らす財産損害発生の原因となります。
		商品に強い力や衝撃を与えない 商品の破損や落下によりけがをするおそれがあります。 水漏れして、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。	**カウンターの上に乗って作業しない** カウンターが破損したり落下したりして、けがの原因となります。
	必ず守る	**給水フィルター・給水フィルター付水抜栓を取り付けるときは接続部やフィルターふたを確実に締める** 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。	**設置工事に使用する部材は必ず付属部品および指定部品を使用する** 取り付けが不安定になり、使用中に落下してけがの原因となります。水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。
		工事完了後、給排水管から水漏れがないか確認する 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。	**給水・排水接続に関する作業は、本説明書に記載された方法・注意事項を遵守する** 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。
		カットした面は滑らかに仕上げる 滑らかに仕上げないとお客様の手が触れ、けがをする原因となります。	**給水ホースと分岐金具を正しく接続する** 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。
		商品の取り付け・加工は、本説明書に記載された方法・注意事項を厳守する 商品が破損・落下し、けがのおそれがあります。	**ねじ部の固定については、本説明書に記載された方法・注意事項を遵守する** 商品が破損し、けがをする原因となります。
		商品の壁への固定が完了するまで、もたれたりものを載せたりしないよう十分注意する 商品が倒れたり落下してけがの原因となります。	**水準器を用いて水平に設置する** 収納物が落下してけがの原因となります。
		推奨位置以外に設置する場合は、安全性を十分に確認する 取り付けが不安定になり、使用中に落下してけがの原因となります。	**手洗器等、器具周囲のすきま処理は、本説明書に記載された方法・注意事項を厳守する** 水が浸入し、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。
		凍結のおそれがある地域では、凍結防止工事を行う 凍結すると器具の一部が破損し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。	**便器の水たまり部を見て、封水が切れていないことを確認する** 封水が切れている場合に下水ガスや塩素ガス、硫化水素などによって設備・機器が腐食し、物的損害・傷害の生じるおそれがあります。

1 取り付け前のご注意

1. 取り付けに必要なトイレスペースを確保するとともに、手洗器キャビネットを設置する際は、ドア枠などの干渉により扉が開かなくなる場合がありますので、「設置寸法について」を参考に設置してください。
2. ウォシュレット用電源コードの長さは約1mです。コンセントはこの長さに適した所定の位置に設置しているか確認してください。
3. 給水圧力は、最低必要水圧：0.05MPa(流動時)　最高水圧：0.75MPa(静止時)です。この圧力範囲で使用してください。
4. 施工前に給水取出位置・排水管位置およびコンセント位置が所定の位置であることを確認してください。
5. キャビネットの表面に指定のクッション材・ラベル以外は貼らないでください。
6. ボードアンカーは、引抜強度200N以上のものを使用してください。
7. キャビネット内の丁番調整にオフセットドライバーが必要です。

参照 「水漏れ確認」は、本説明書を参照してください。
「ウォシュレットへの通電」はウォシュレット施工説明書を参照してください。

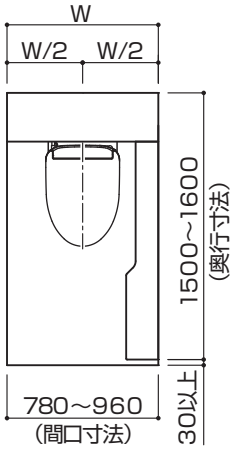
1 設置寸法について

トイレの広さは以下の寸法を確保してください。間口750mm未満には対応できません。

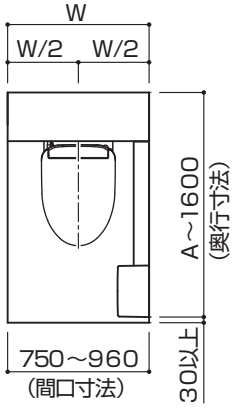
後ろ抜き・左右抜き

・ カウンターは、使い勝手に応じて手洗器位置を設定し、トイレ奥行寸法にあわせて任意の長さにカットできます。

【Mサイズ】



【Sサイズ】

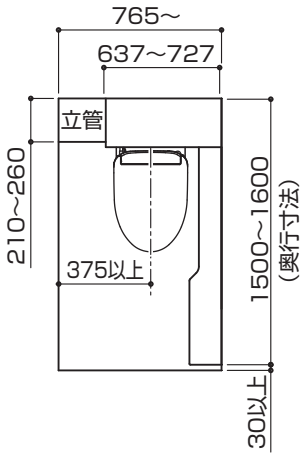


タイプ	間口750～840	間口841～960
A	1265	1190

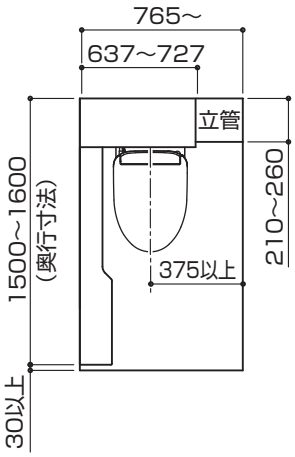
立管対応

・ カウンターは、使い勝手に応じて手洗器位置を設定し、トイレ奥行寸法にあわせて任意の長さにカットできます。

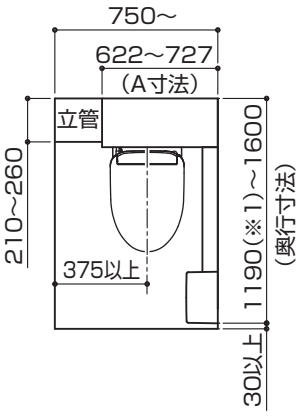
【Mサイズ(左抜き)の場合】



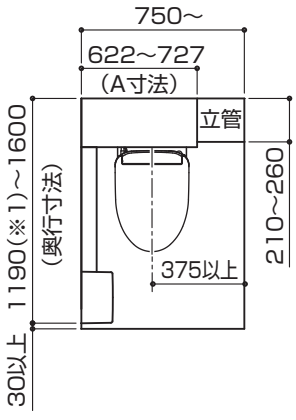
【Mサイズ(右抜き)の場合】



【Sサイズ(左抜き)の場合】



【Sサイズ(右抜き)の場合】

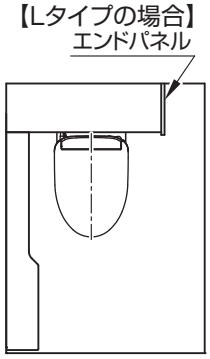


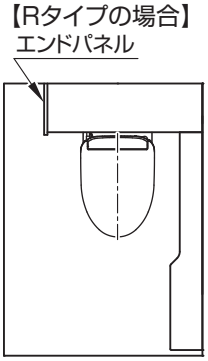
※1　A寸法が622～667mmの場合、
カウンターは1265～となります。

1 設置寸法について（つづき）

エンドパネルを使用する場合

・エンドパネルを利用して、壁とすき間をあけて設置することもできます。
・左右抜きで排水管が干渉する場合や立管対応タイプの場合は、エンドパネルは使用できません。

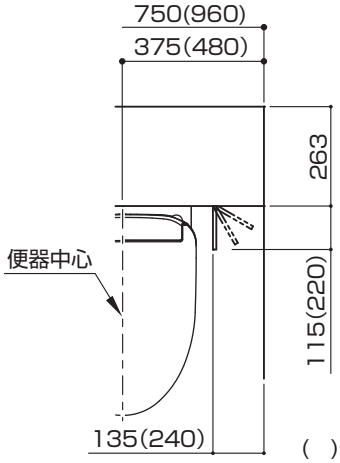
【Lタイプの場合】


【Rタイプの場合】


2 キャビネットの可動範囲について

・大便器キャビネット、手洗器キャビネットは下図の範囲で可動します。
・可動範囲内に障がい物がないことを確認してください。

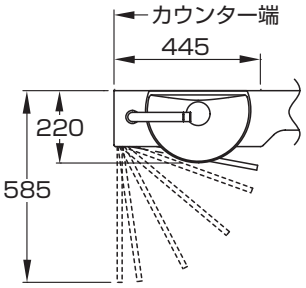
大便器キャビネット



( )は960mmの場合

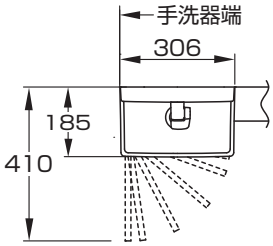
手洗器キャビネット

【Mサイズ手洗器】



※上図は左勝手の場合

【Sサイズ手洗器】



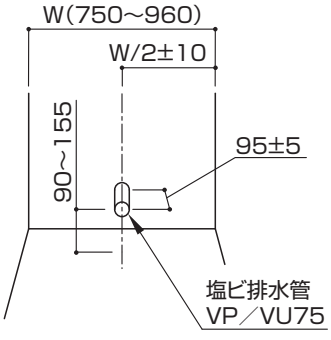
※上図は左勝手の場合

3 給排水位置について

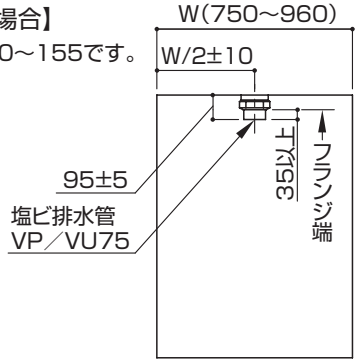
■排水位置

・下図の位置に便器の排水心があることを確認してください。
・排水勾配は必ず1/50以上確保してください。
・便器と排水管はジャバラ管（材質:軟質塩ビ）での接続となります。

後ろ抜きの場合



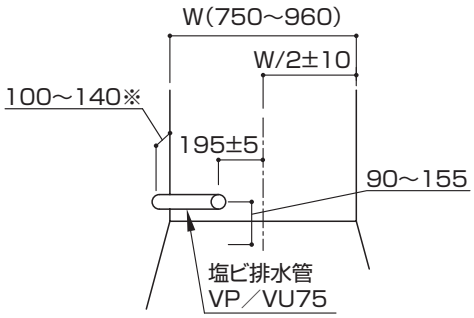
【フランジ付きの場合】
排水位置高さは90~155です。



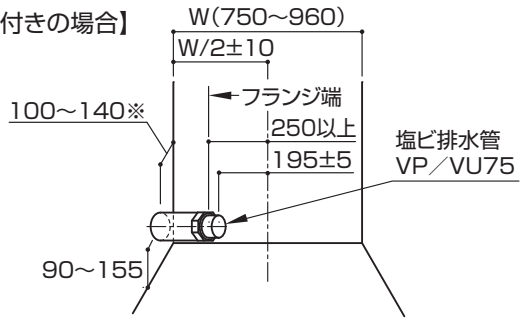
3 給排水位置について（つづき）

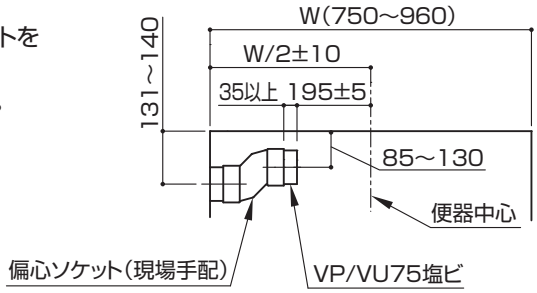
■排水位置(つづき)

左抜きの場合



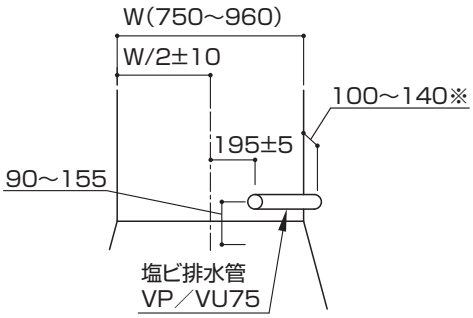
【フランジ付きの場合】



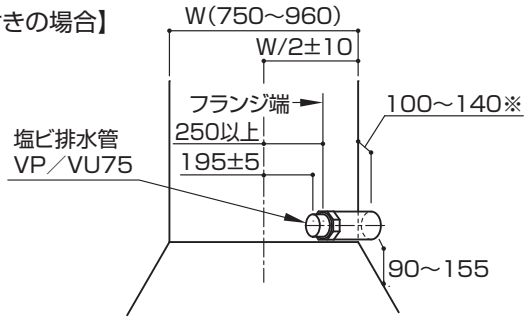


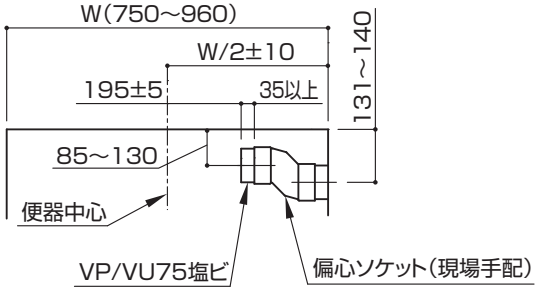
※排水位置が後壁から131～140の場合は、別途偏心ソケットを手配し右図の位置に立ち上げてください。
偏心ソケットは逆勾配にならないように取り付けてください。
※VP/VU100(塩ビ)には接続できません。

右抜きの場合



【フランジ付きの場合】



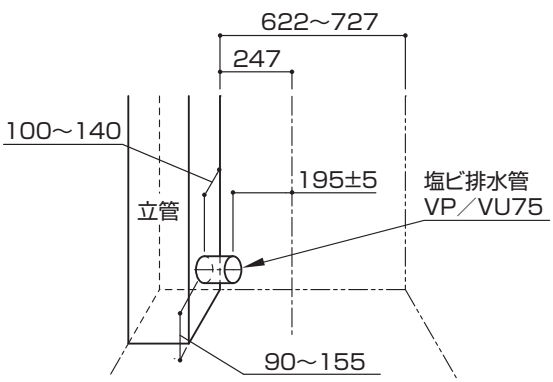


※排水位置が後壁から131～140の場合は、別途偏心ソケットを手配し右図の位置に立ち上げてください。
偏心ソケットは逆勾配にならないように取り付けてください。
※VP/VU100(塩ビ)には接続できません。

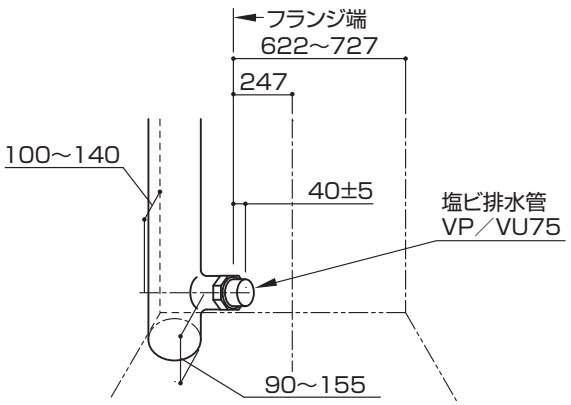
立管対応　左抜きの場合

・VP/VU100（塩ビ）には接続できません。

【隠ぺいタイプの場合】



【露出タイプの場合】



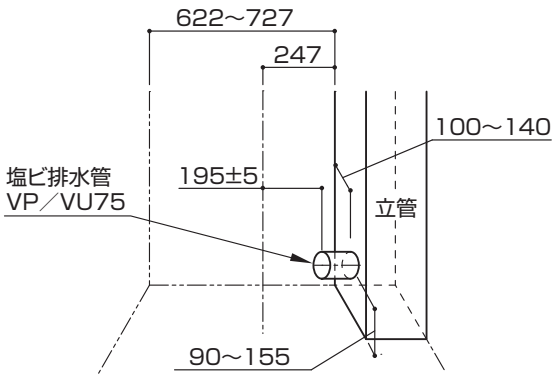
3 給排水位置について（つづき）

■排水位置(つづき)

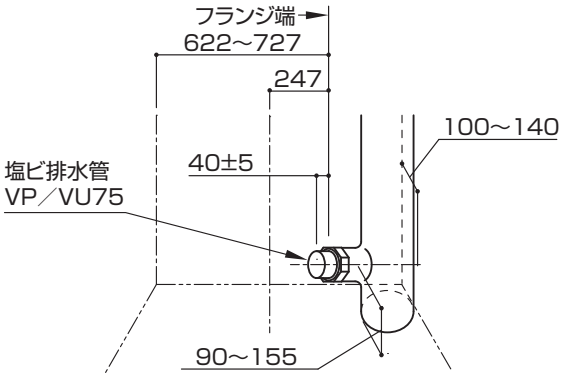
立管対応　右抜きの場合

・VP/VU100（塩ビ）には接続できません。

【隠ぺいタイプの場合】



【露出タイプの場合】

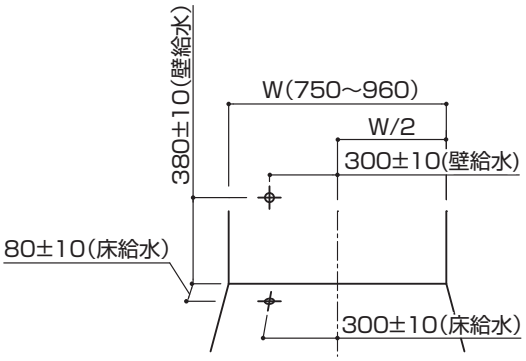


■給水位置

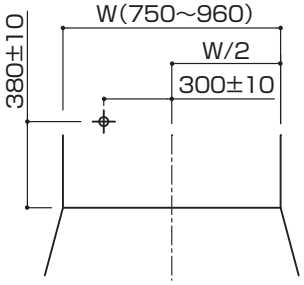
・下図の位置に仕上げ面と同一面に Rc1/2 の給水管を取り出してください。

給排水まるごと工事タイプ

後ろ抜きの場合

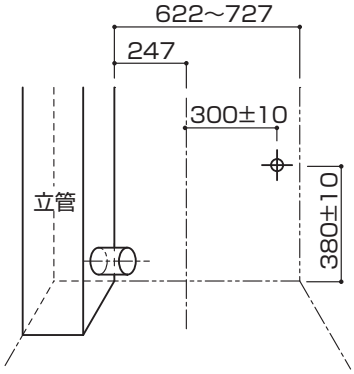


左右抜きの場合

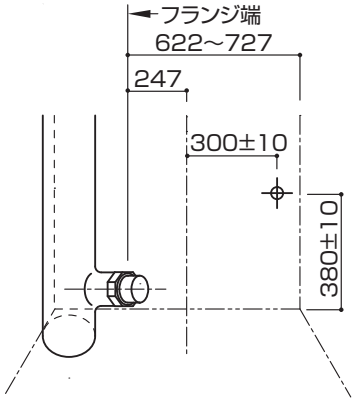


立管対応　左抜きの場合

【隠ぺいタイプの場合】



【露出タイプの場合】

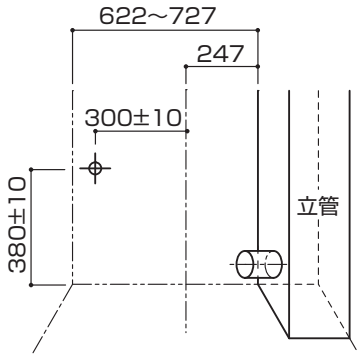


3 給排水位置について（つづき）

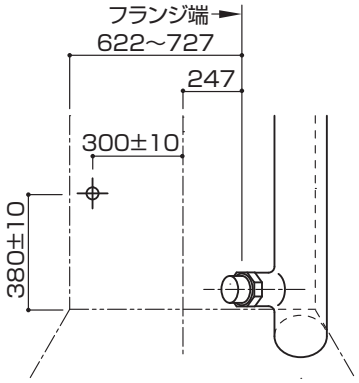
■給水位置(つづき)

立管対応　右抜きの場合

【隠ぺいタイプの場合】



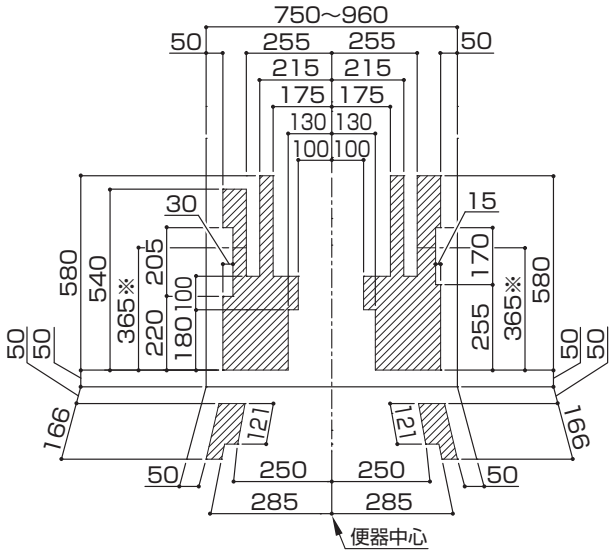
【露出タイプの場合】



給排水そのまま利用タイプ

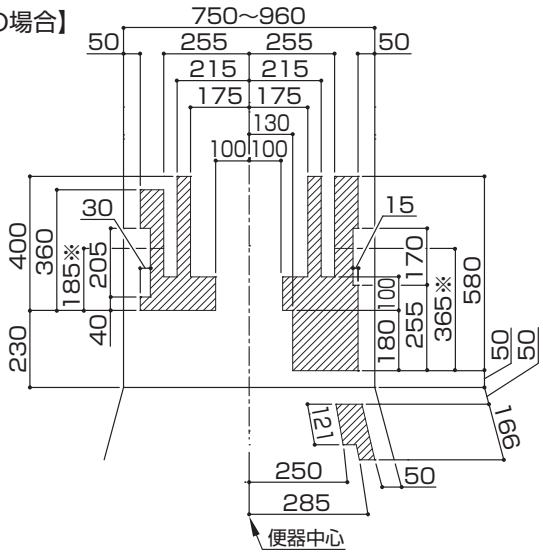
・下図の領域内が対応範囲となります。対応範囲内に給水管の中心があることを確認してください。
　仕上げ面と同一面に給水管（Rc1/2）を取り出してください。
・※印より上に給水位置がある場合は、棚板が取り付けられません。
・給水位置が便器中心より右側の場合は延長ホース（UGTN98L2X50R）を別途手配してください。

後ろ抜きの場合

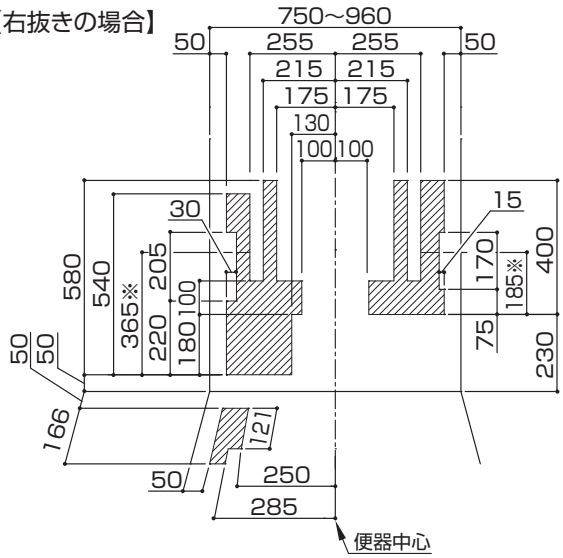


左右抜きの場合

【左抜きの場合】



【右抜きの場合】



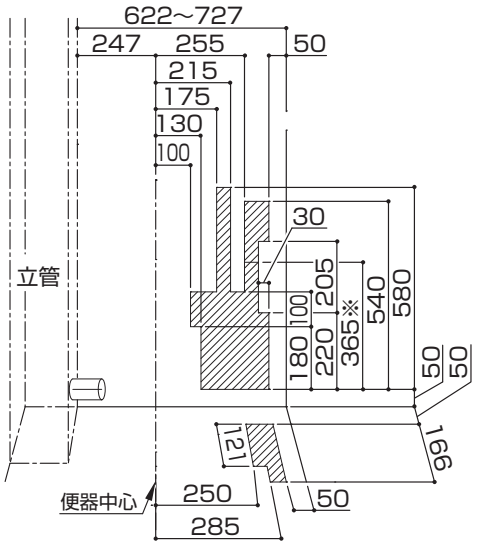
3 給排水位置について（つづき）

■給水位置（つづき）

立管対応　左右抜きの場合

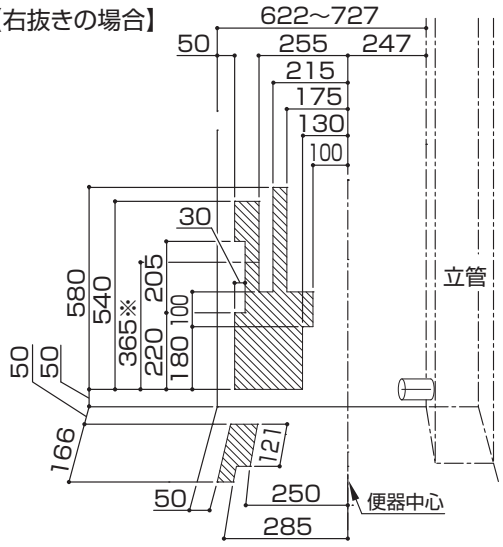
・隠ぺい、露出タイプ共通

【左抜きの場合】



※図は隠ぺいタイプの場合

【右抜きの場合】



※図は隠ぺいタイプの場合

4 補強材について

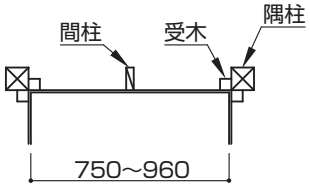
■補強材位置

大便器キャビネット部

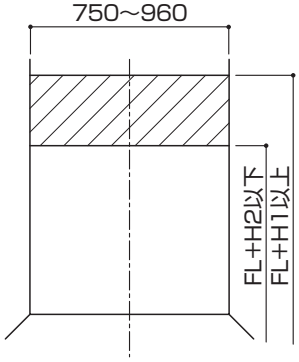
後ろ抜き・左右抜きの場合

【後壁について】

・大便器キャビネットを間柱、受木に固定します。
部屋に間柱および受木が所定の位置にあることを確認してください。

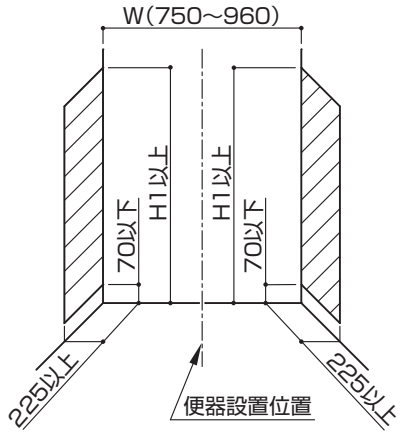


間柱および受木がない場合は、下図の斜線範囲（壁裏）にt12以上の合板（JAS規格相当品）を入れてください。



【横壁について】

・下図の斜線範囲（壁裏）にt12以上の合板（JAS規格相当品）を入れてください。
・壁裏補強なしで施工をする場合は、ボードアンカー（オプション: UGA490B）を使用してください。



まるごと収納タイプ		収納タイプ	
H1	H2	H1	H2
1050	685	900	790

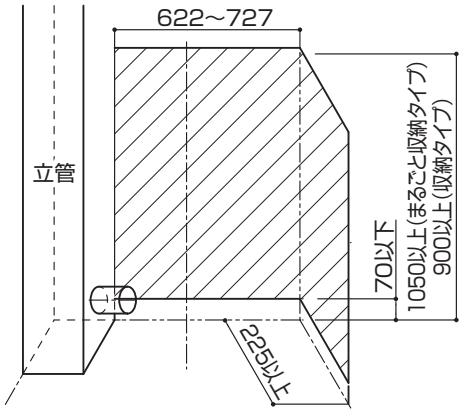
4 補強材について（つづき）

■補強材位置

立管対応　左抜きの場合

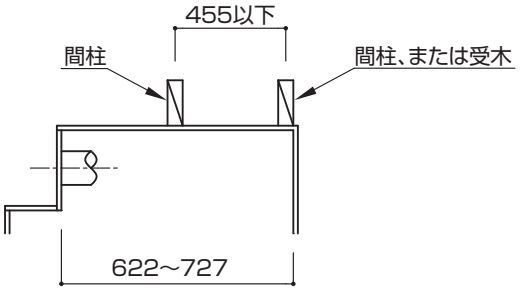
・隠ぺい、露出タイプ共通です。

下図の斜線範囲（壁裏）にt12以上の合板（JAS規格相当品）を入れてください。



※図は隠ぺいタイプの場合

壁裏補強なしで施工する場合は、下図の位置に柱があることを確認のうえ、ボードアンカー（オプション:UGA490B）を使用してください。

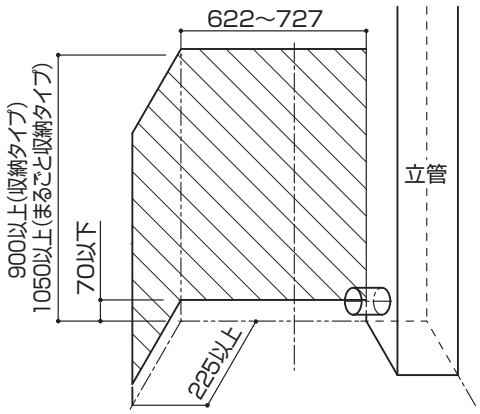


※図は隠ぺいタイプの場合

立管対応　右抜きの場合

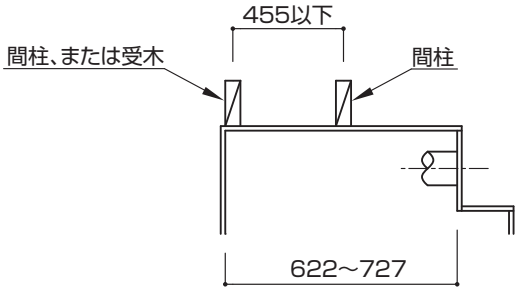
・隠ぺい、露出タイプ共通です。

下図の斜線範囲（壁裏）にt12以上の合板（JAS規格相当品）を入れてください。



※図は隠ぺいタイプの場合

壁裏補強なしで施工する場合は、下図の位置に柱があることを確認のうえ、ボードアンカー（オプション:UGA490B）を使用してください。



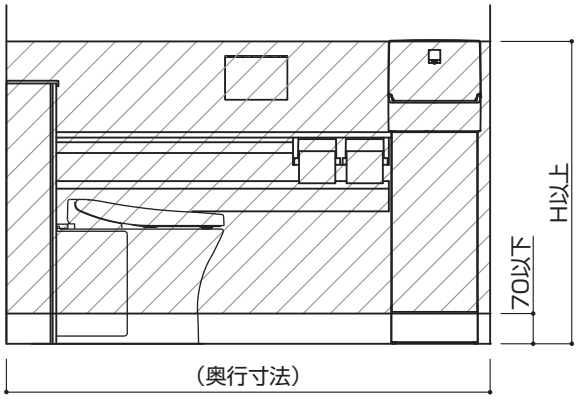
※図は隠ぺいタイプの場合

4 補強材について（つづき）

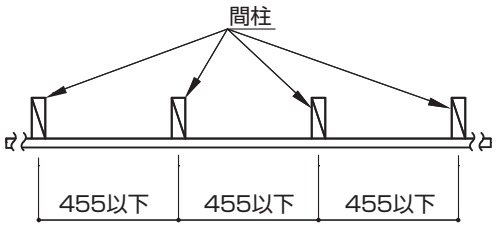
■補強材位置

手洗器部

・下図の斜線範囲（壁裏）にt12以上の合板（JAS規格相当品）を入れてください。
・壁裏補強なしで施工をする場合は、間柱にカウンターを固定します。部屋に間柱が所定の位置にあることを確認してください。
また、柱以外の壁面には、ボードアンカー（オプション:UGA490B）を使用してください。



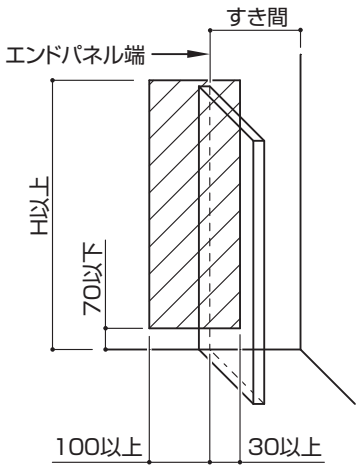
H	
Mサイズ	Sサイズ
700	980



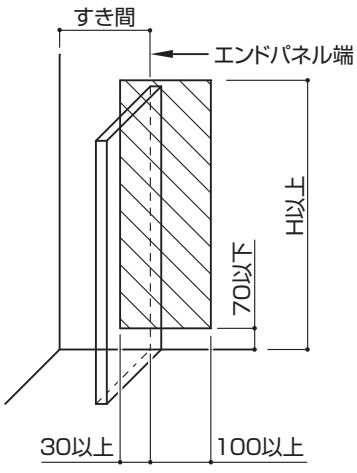
エンドパネル部

・取付位置に、あらかじめ下図に示す補強が必要です。斜線範囲（壁裏）にt12以上の合板（JAS規格相当品）を入れてください。
・左右抜きで排水管が干渉する場合や立管対応の場合は、エンドパネルは使用できません。

【Lタイプの場合】



【Rタイプの場合】



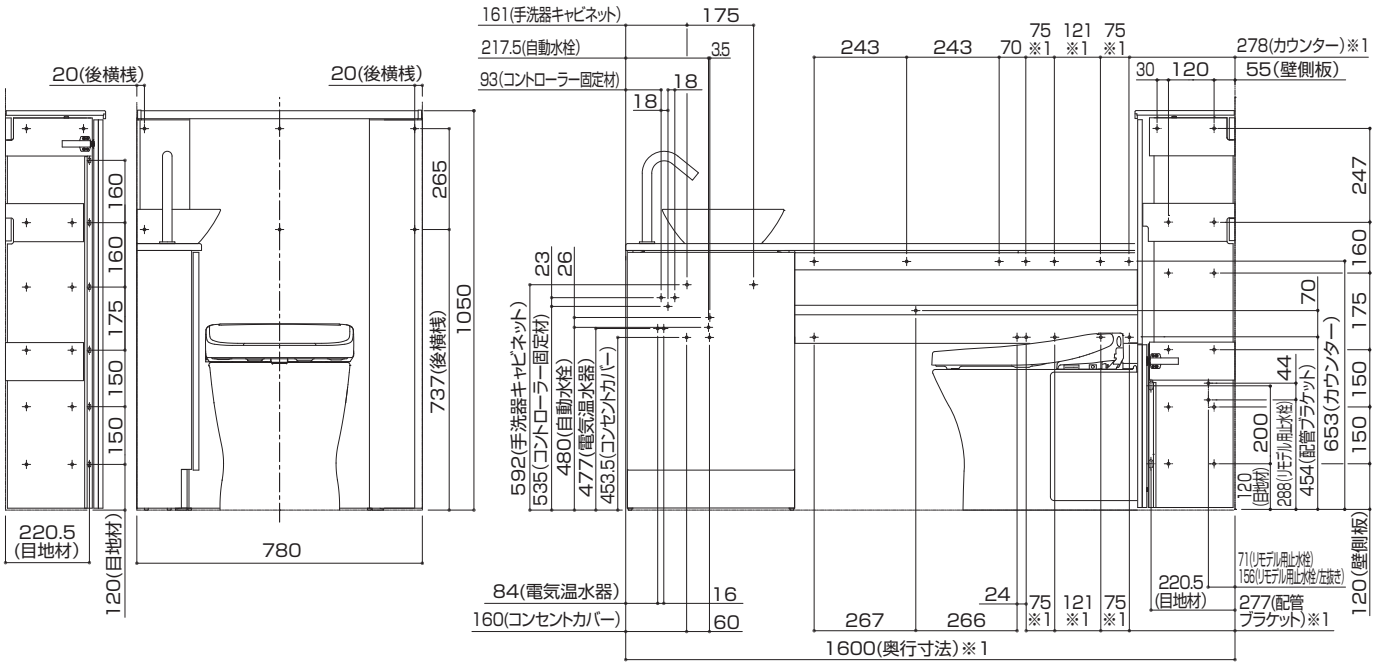
H	
まるごと収納タイプ	収納タイプ
1050	900

4 補強材について（つづき）

■固定ねじ位置（カウンター寸法1600の場合）

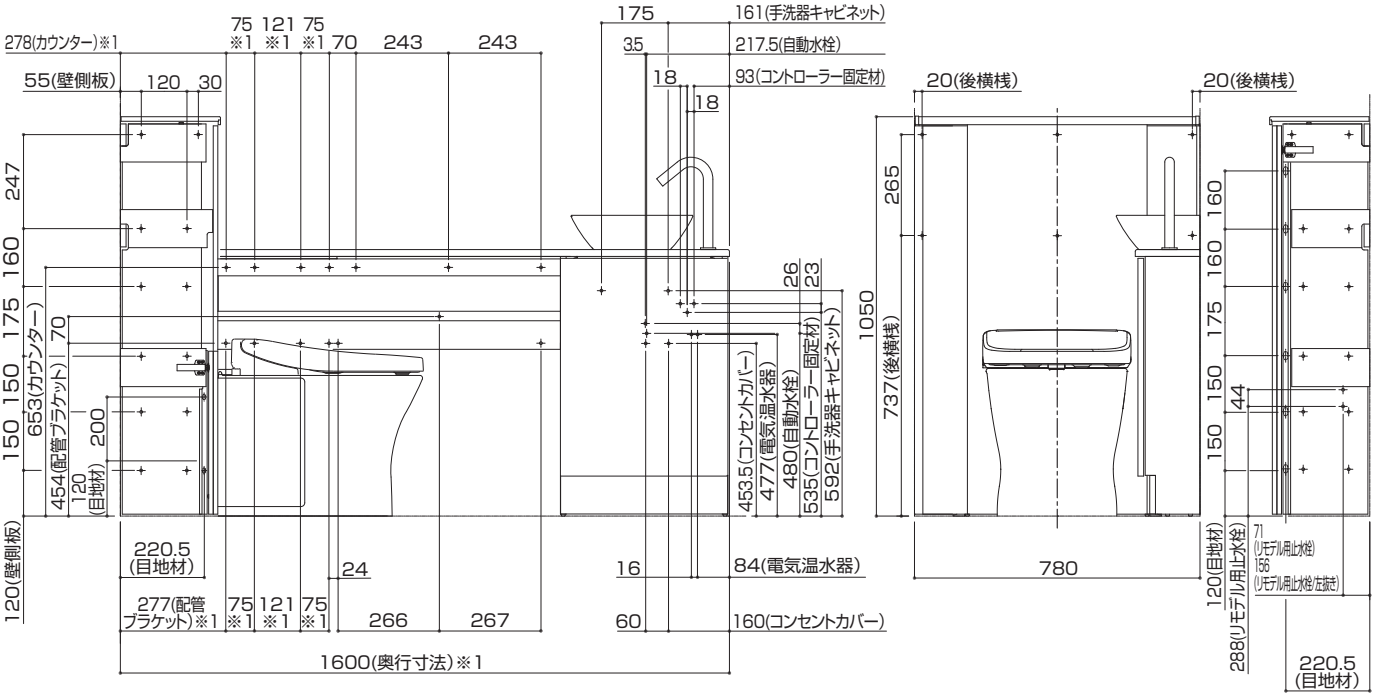
Mサイズ／まるごと収納タイプ

【左勝手の場合】



※1　カウンターをカットする場合は寸法が変わります。

【右勝手の場合】



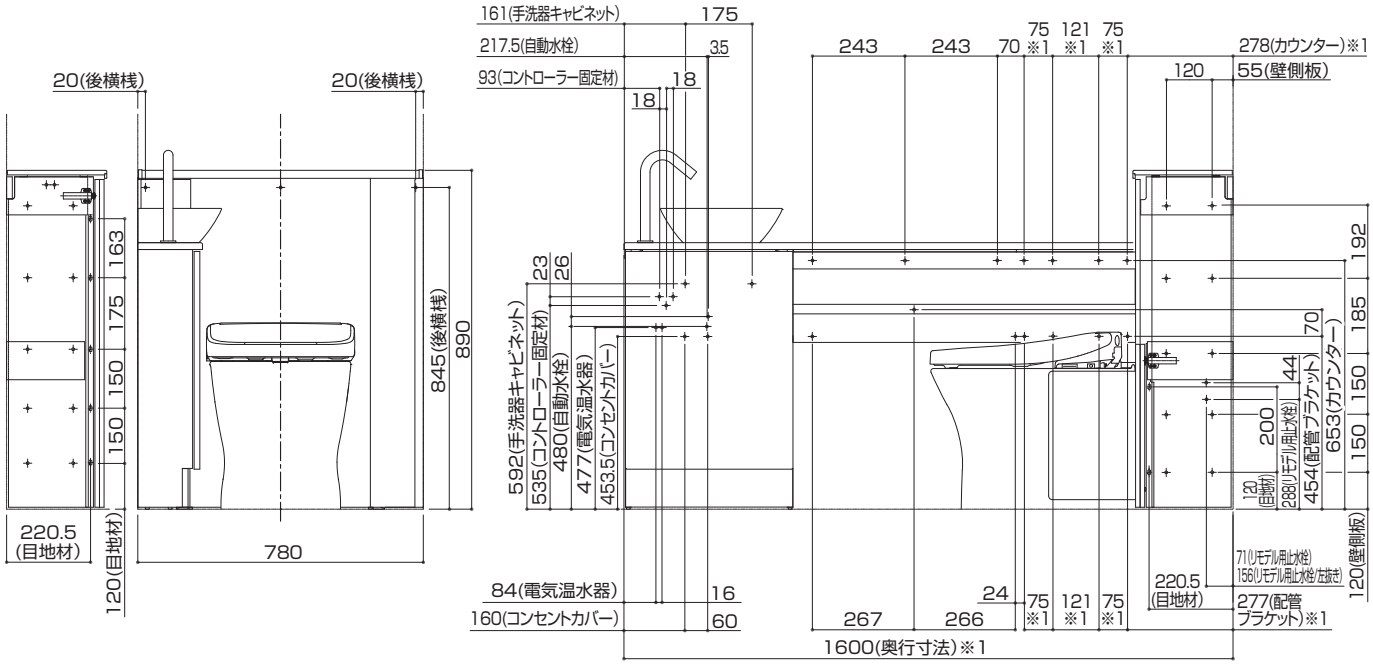
※1　カウンターをカットする場合は寸法が変わります。

4 補強材について（つづき）

■固定ねじ位置（カウンター寸法1600の場合）（つづき）

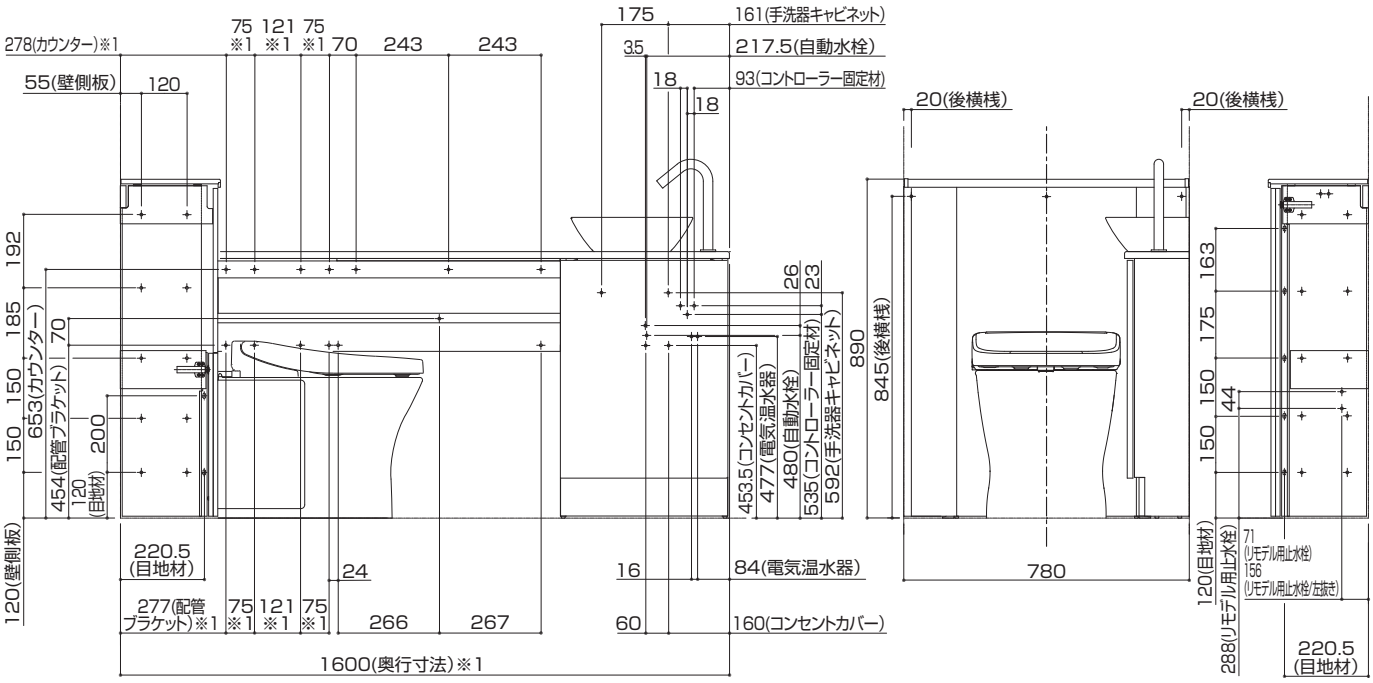
Mサイズ／収納タイプ

【左勝手の場合】



※1　カウンターをカットする場合は寸法が変わります。

【右勝手の場合】



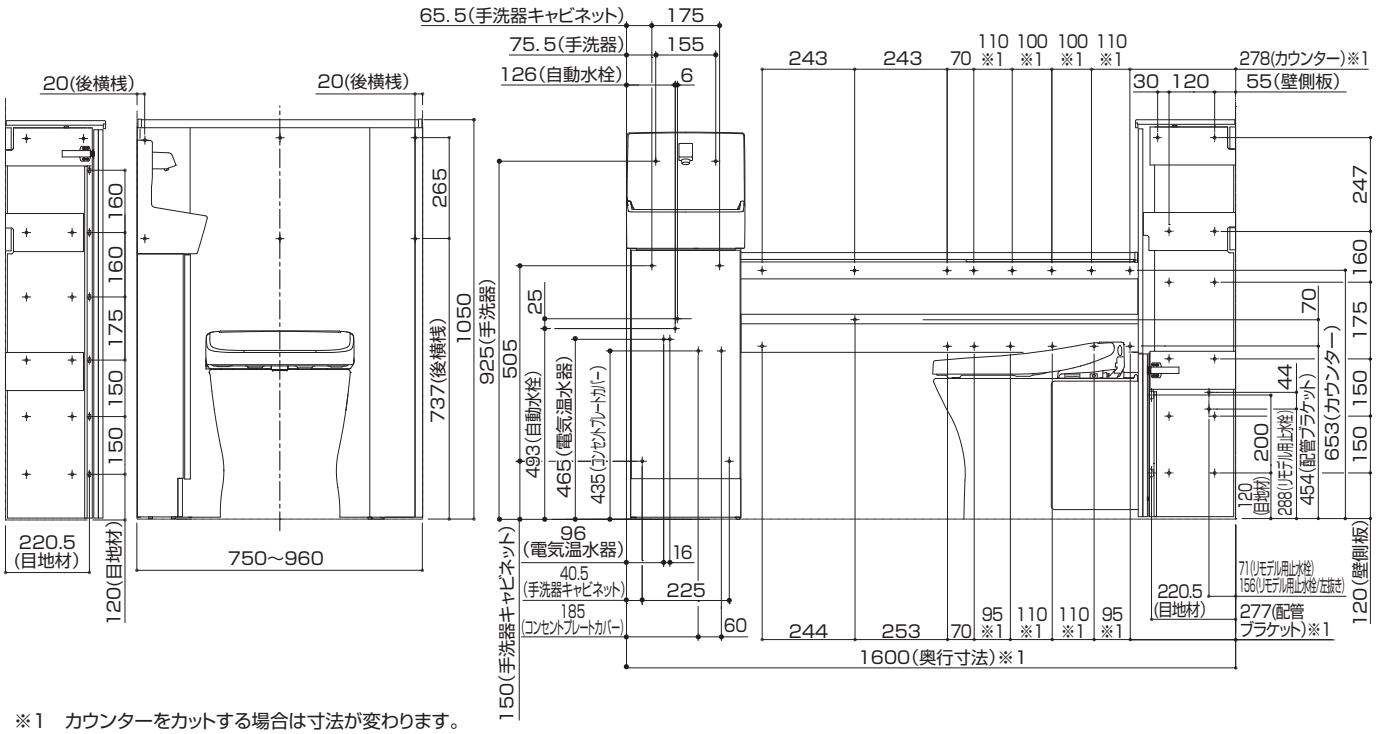
※1　カウンターをカットする場合は寸法が変わります。

4 補強材について（つづき）

■固定ねじ位置（カウンター寸法1600の場合）（つづき）

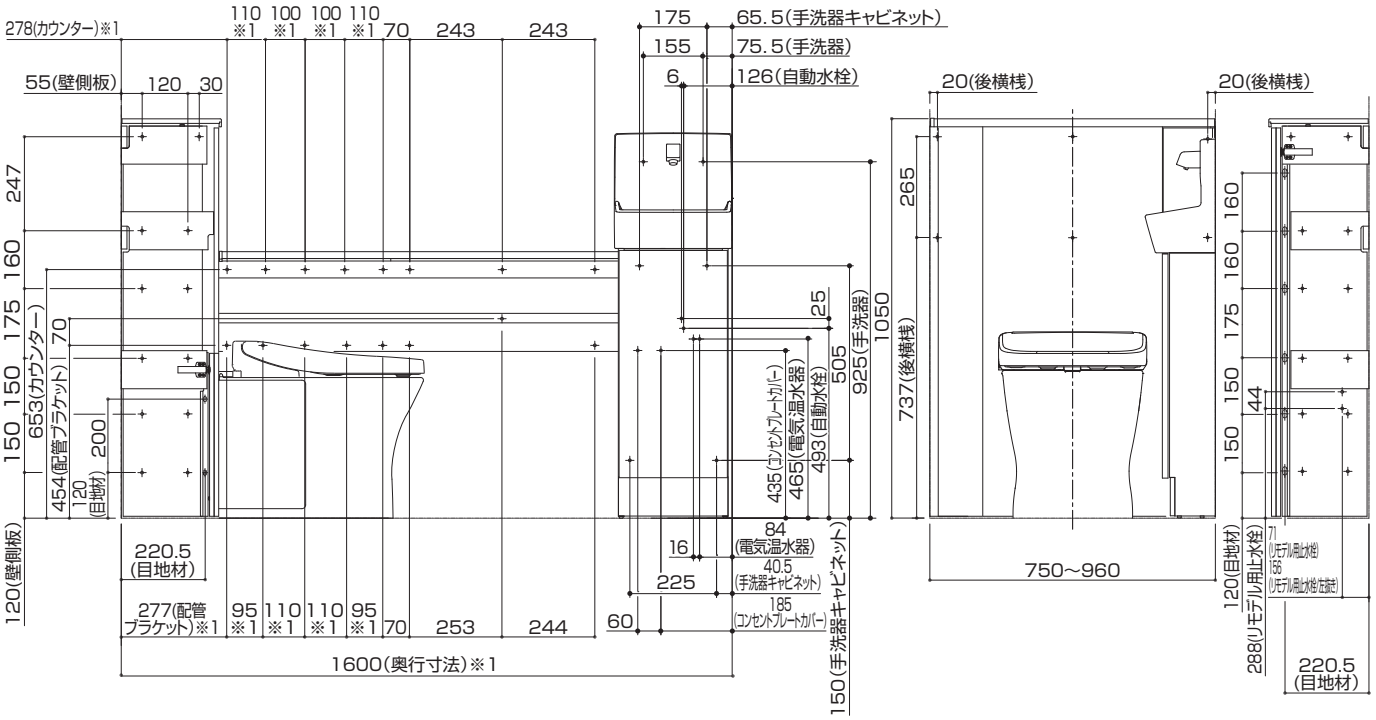
Sサイズ／まるごと収納タイプ

【左勝手の場合】



※1　カウンターをカットする場合は寸法が変わります。

【右勝手の場合】



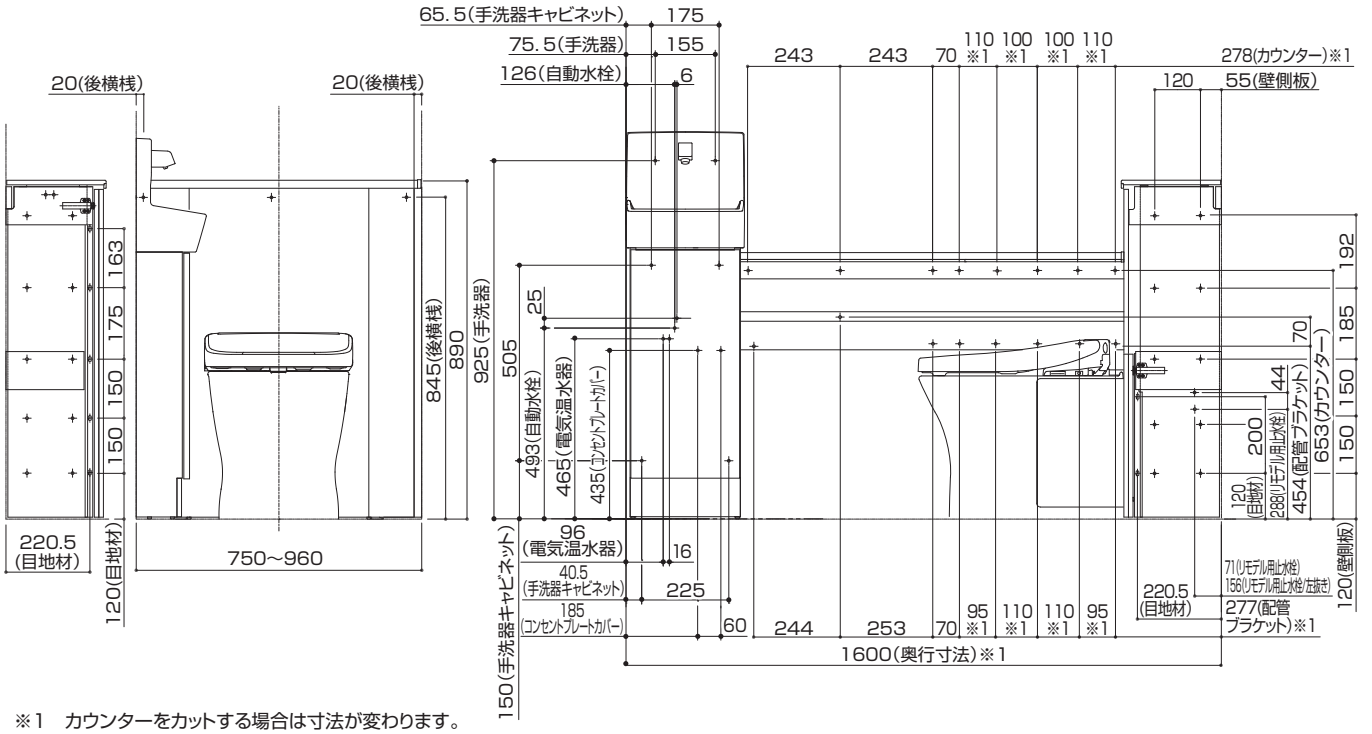
※1　カウンターをカットする場合は寸法が変わります。

4 補強材について（つづき）

■固定ねじ位置（カウンター寸法1600の場合）（つづき）

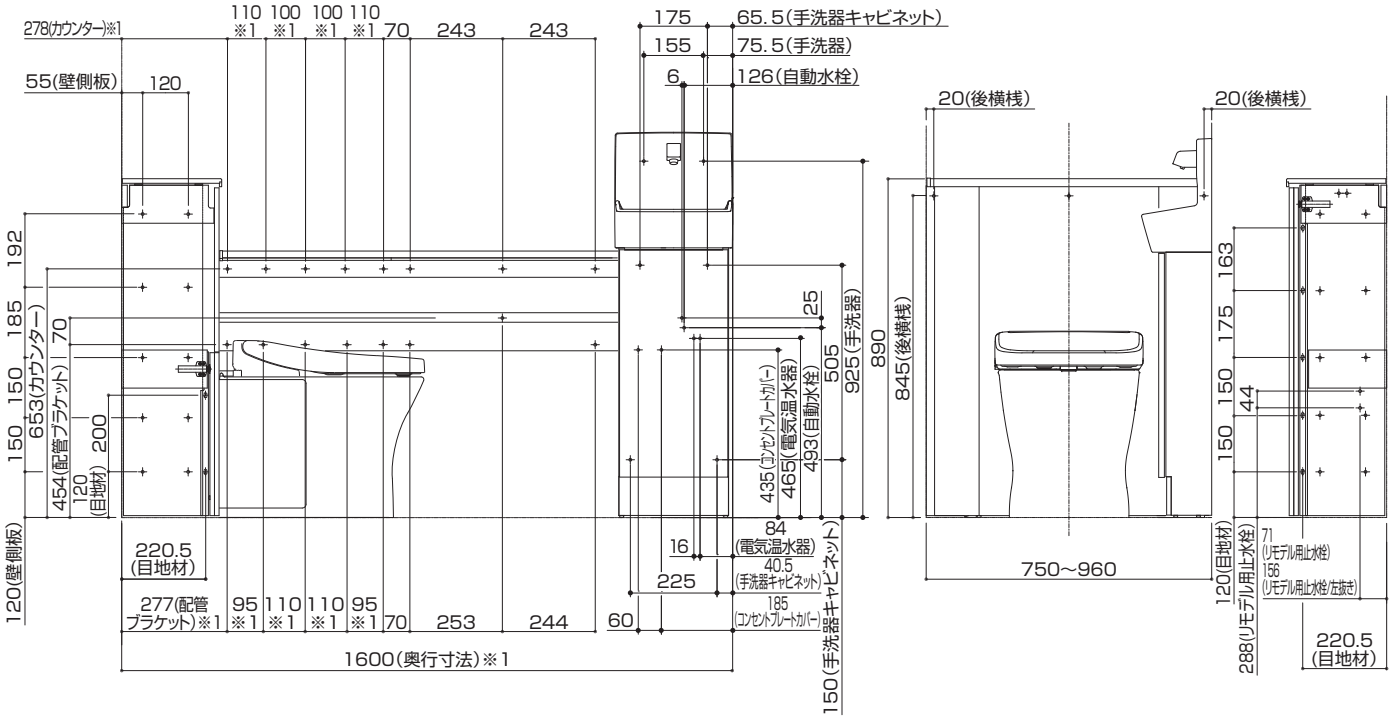
Sサイズ／収納タイプタイプ

【左勝手の場合】



※1　カウンターをカットする場合は寸法が変わります。

【右勝手の場合】



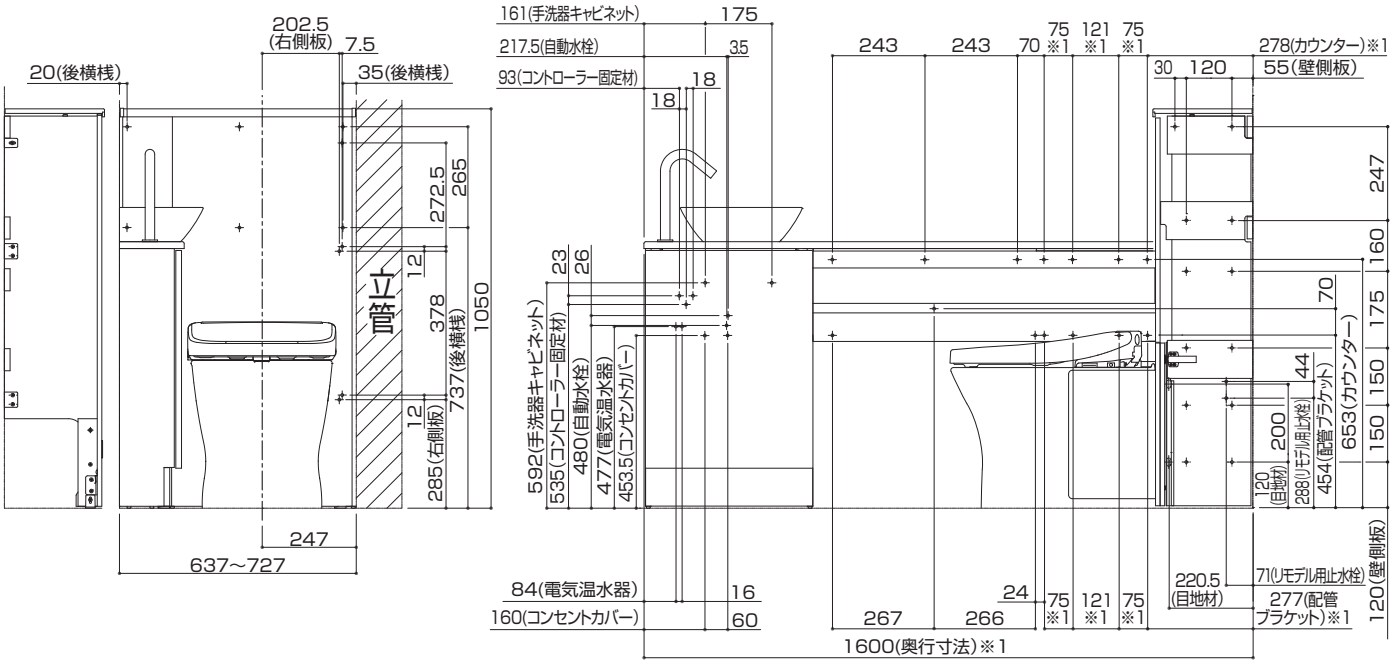
※1　カウンターをカットする場合は寸法が変わります。

4 補強材について（つづき）

■固定ねじ位置（カウンター寸法1600の場合）（つづき）

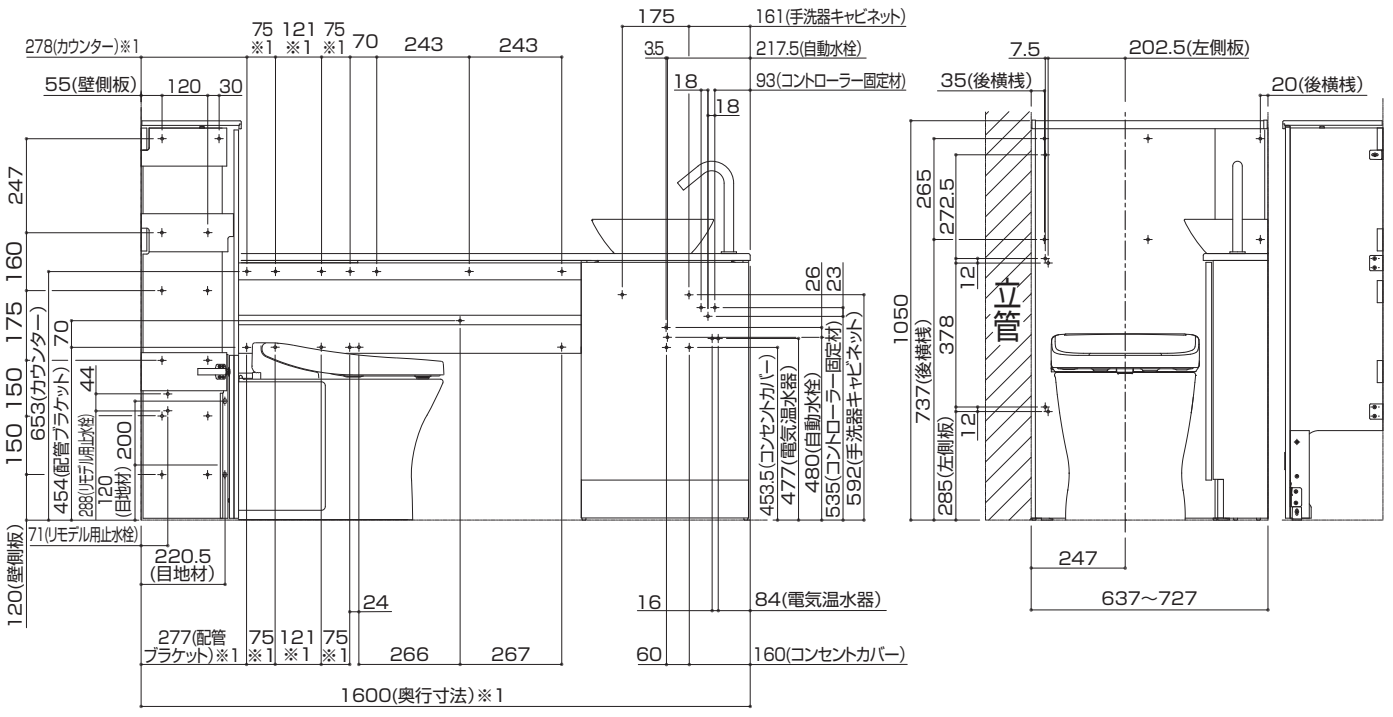
立管対応／ Mサイズ／まるごと収納タイプ

【左勝手の場合】



※1　カウンターをカットする場合は寸法が変わります。

【右勝手の場合】



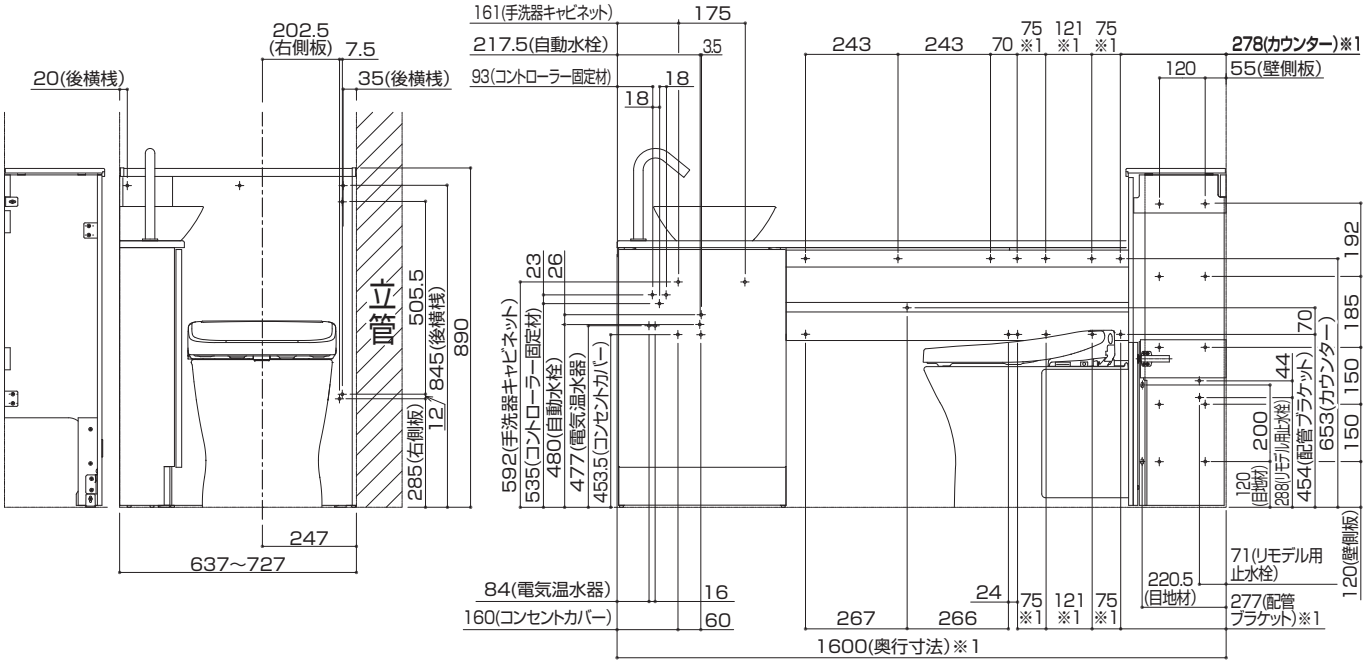
※1　カウンターをカットする場合は寸法が変わります。

4 補強材について（つづき）

■固定ねじ位置（カウンター寸法1600の場合）（つづき）

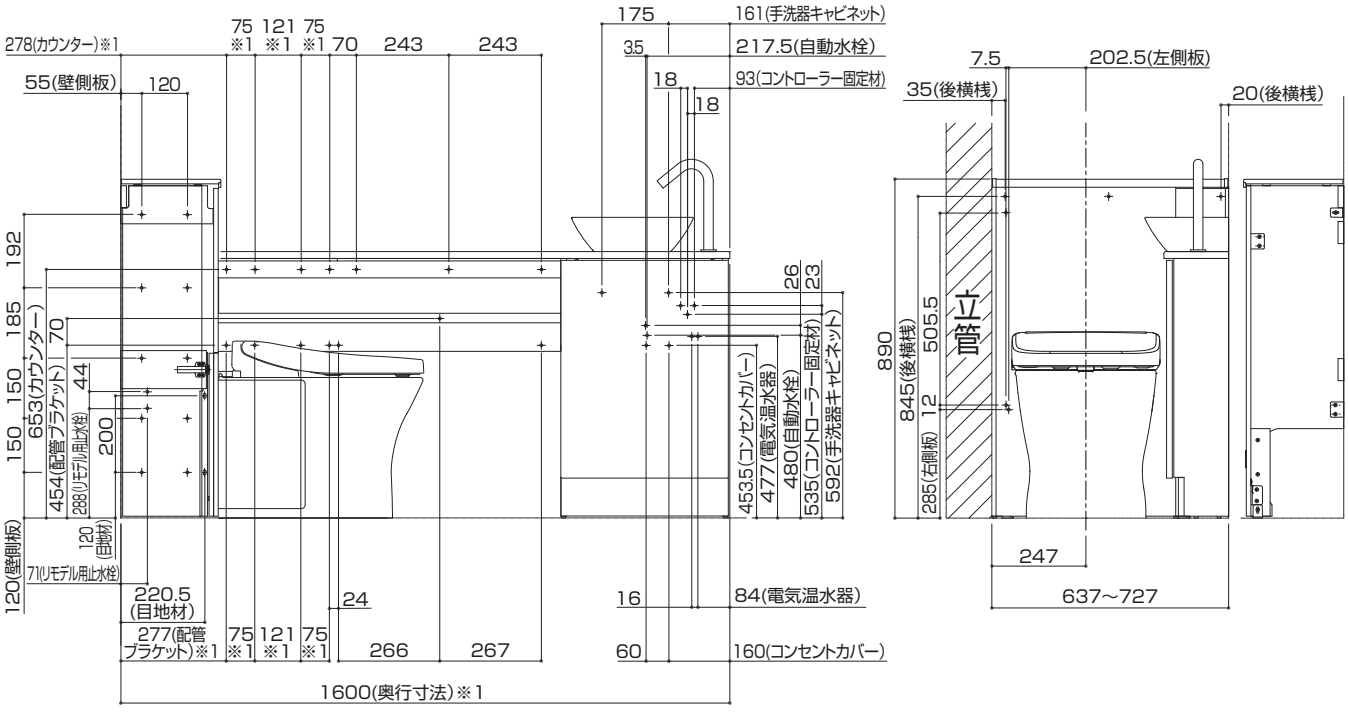
立管対応／ Mサイズ／収納タイプ

【左勝手の場合】



※1　カウンターをカットする場合は寸法が変わります。

【右勝手の場合】



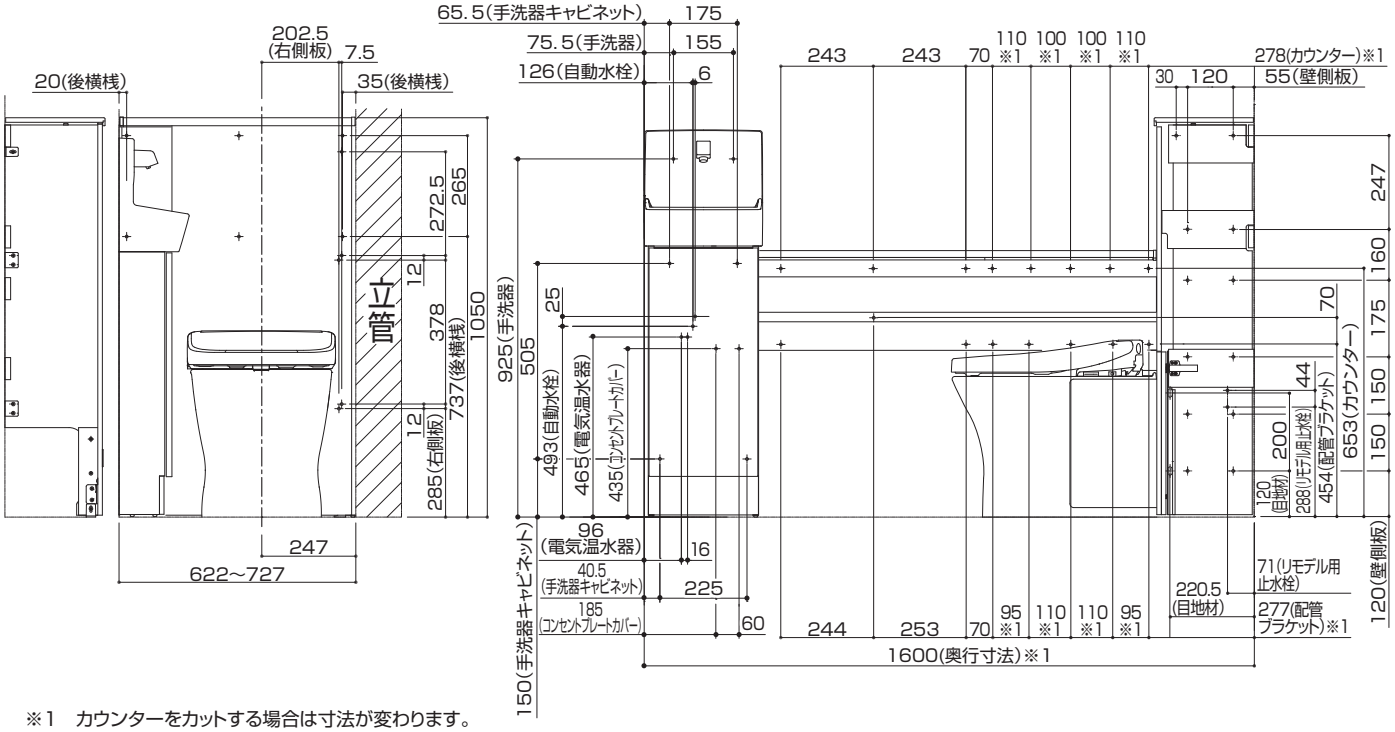
※1　カウンターをカットする場合は寸法が変わります。

4 補強材について（つづき）

■固定ねじ位置（カウンター寸法1600の場合）（つづき）

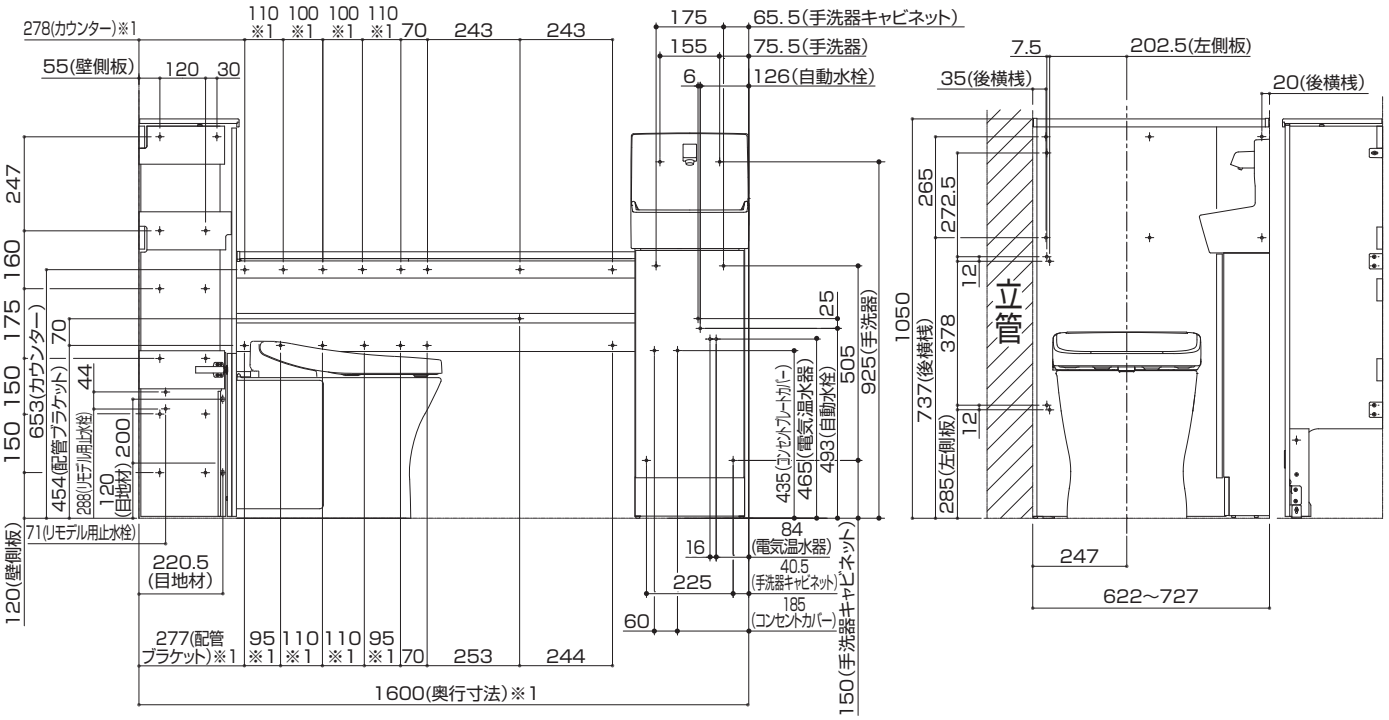
立管対応／ Sサイズ／まるごと収納タイプ

【左勝手の場合】



※1　カウンターをカットする場合は寸法が変わります。

【右勝手の場合】



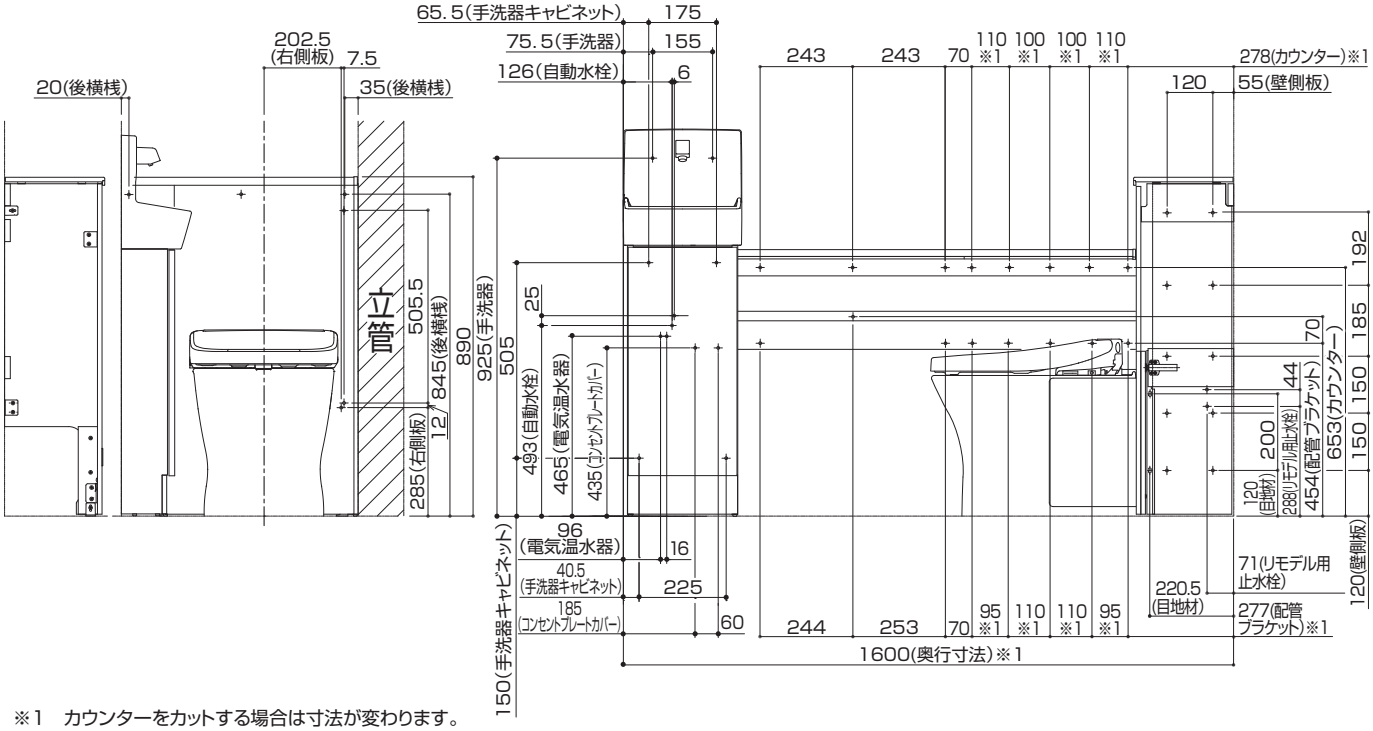
※1　カウンターをカットする場合は寸法が変わります。

4 補強材について（つづき）

■固定ねじ位置（カウンター寸法1600の場合）（つづき）

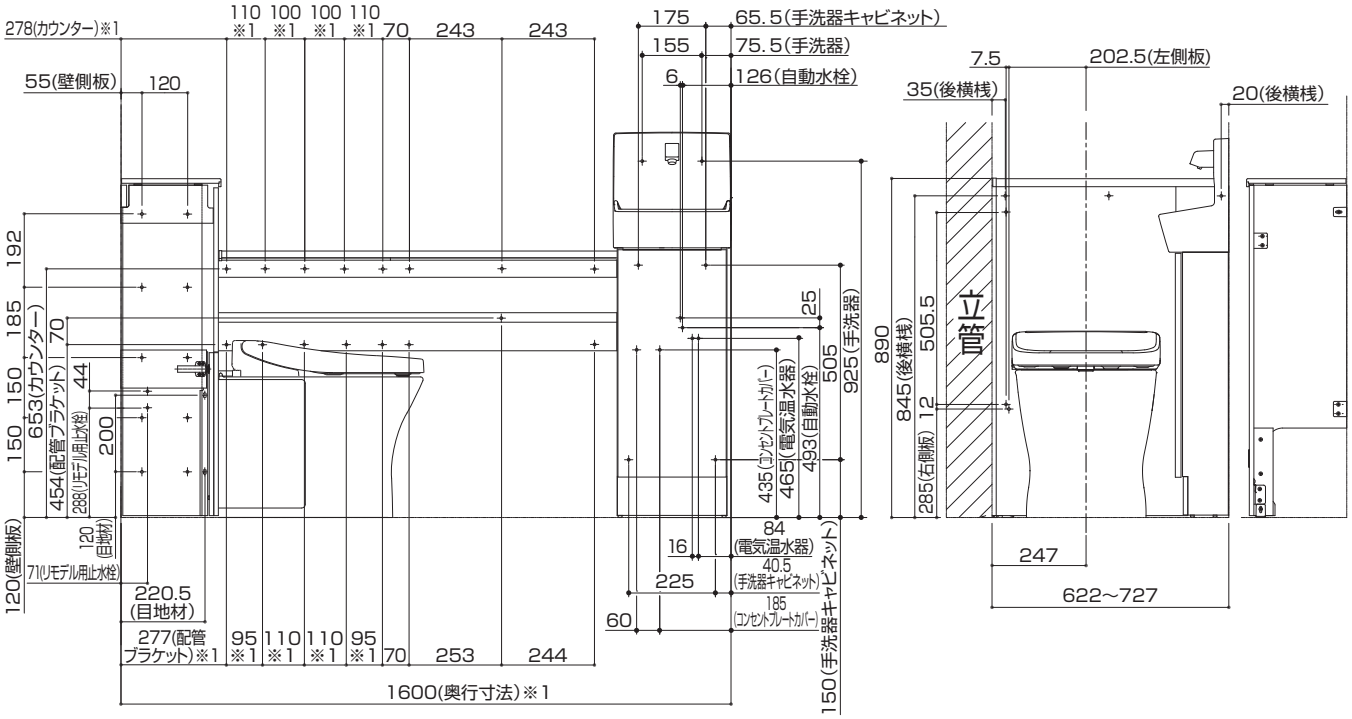
立管対応／ Sサイズ／収納タイプ

【左勝手の場合】



※1　カウンターをカットする場合は寸法が変わります。

【右勝手の場合】



※1　カウンターをカットする場合は寸法が変わります。

5 電気配線について

⚠ 警告

禁止

器具取付用のねじ固定部の壁裏には配線を通さない
火災や感電の原因となります。

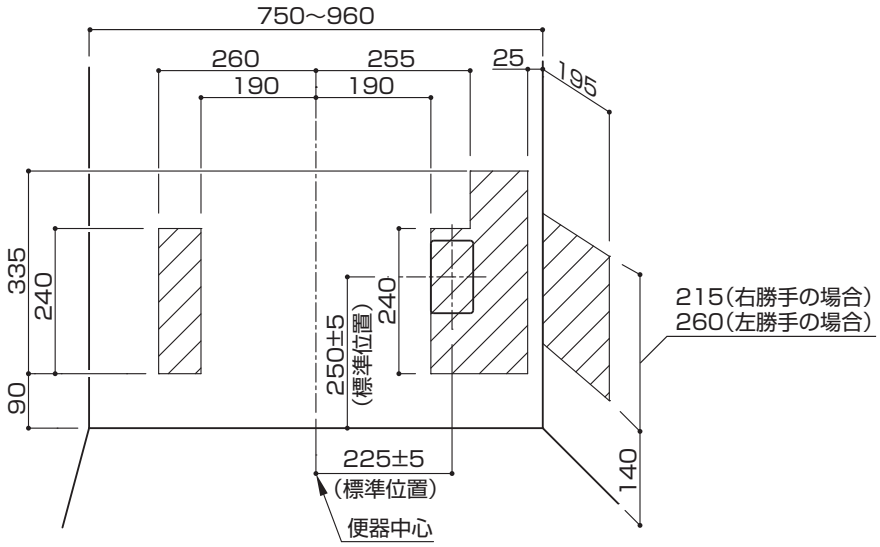
定格消費電力は右表を参照してください。
（AC100V 50/60Hz共通です。）

	ウォシュレット		電気温水器	自動水栓
定格消費電力	1280W（F1A,F2A,F3A）	1282W（F3AW）	505W	0.4W（作動時0.6W）

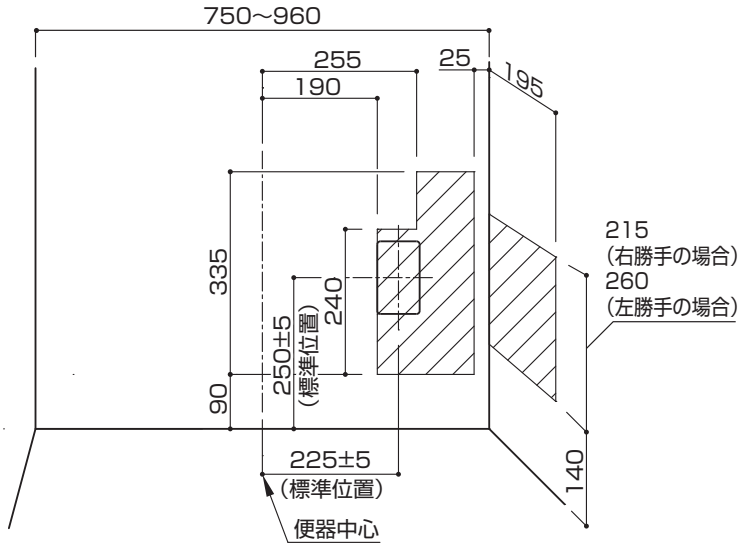
ハンドル式水栓・自動水栓の場合

・既存のコンセントを使用する場合は、下記の斜線範囲内に接地用端子の付いた接地極付きの壁埋込式コンセント（自動水栓の場合は、接地用端子の付いた接地極付きの壁埋込式２口コンセント）の外形が納まることを確認してください。
・新規に設置する場合は、下図の「標準位置」に設置してください。
・コンセントは付属品として同梱されておりませんので、現場にて手配してください。
・横壁にコンセントがある場合は、コンセントプレートのサイズに側板を開口してください。

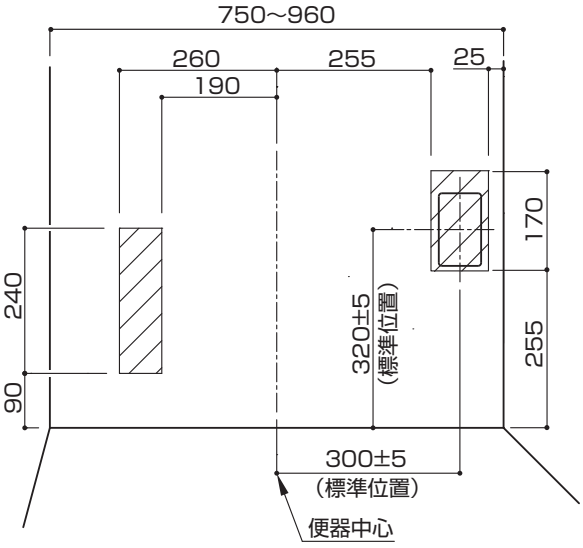
後ろ抜きの場合



左抜きの場合



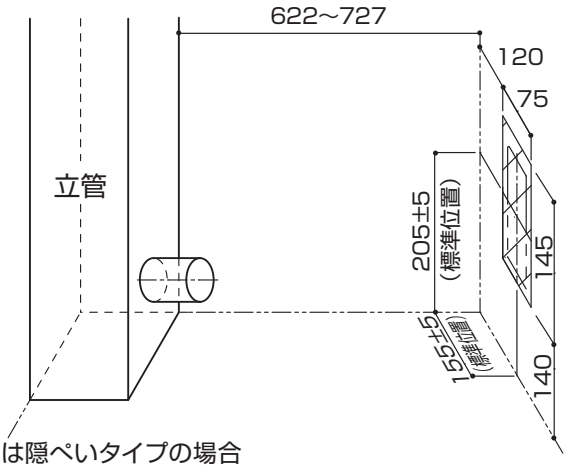
右抜きの場合



5 電気配線について（つづき）

立管対応　左抜きの場合

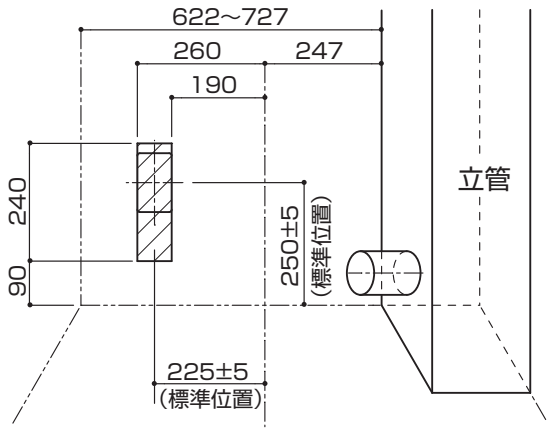
・隠ぺい、露出タイプ共通



※図は隠ぺいタイプの場合

立管対応　右抜きの場合

・隠ぺい、露出タイプ共通



※図は隠ぺいタイプの場合

⚠ 警告

必ず守る

コンセントが給水位置の下に設置されている場合は、「標準位置」に移設する

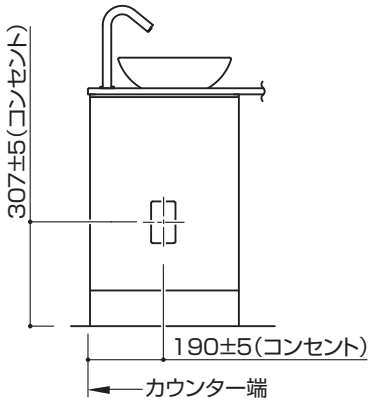
結露水などにより、電源コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。

電気温水器付自動水栓の場合

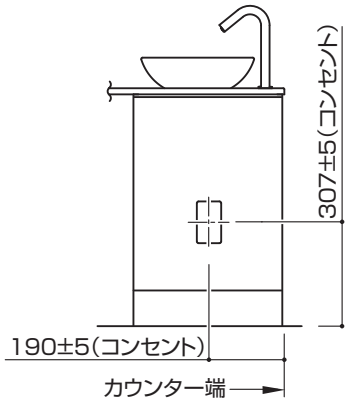
・あらかじめ手洗器キャビネット内に別途接地用端子の付いた接地極付きの壁埋込式2口コンセントを、大便器キャビネット内のコンセントとは独立系統で取り付けておいてください。
・コンセントは付属品として同梱されておりませんので、現場にて手配してください。

Mサイズ

【手洗器が左勝手の場合】

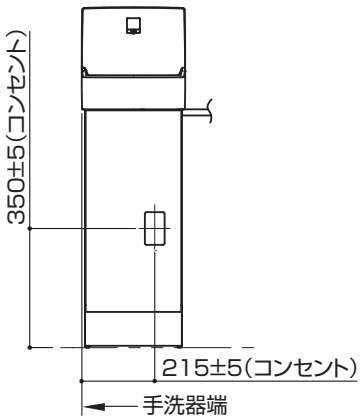


【手洗器が右勝手の場合】

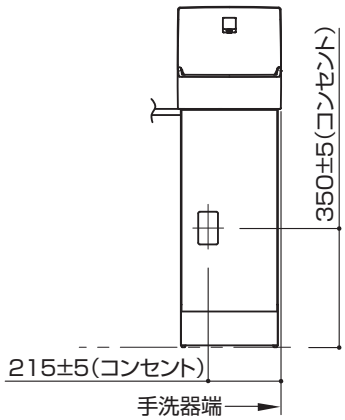


Sサイズ

【手洗器が左勝手の場合】



【手洗器が右勝手の場合】



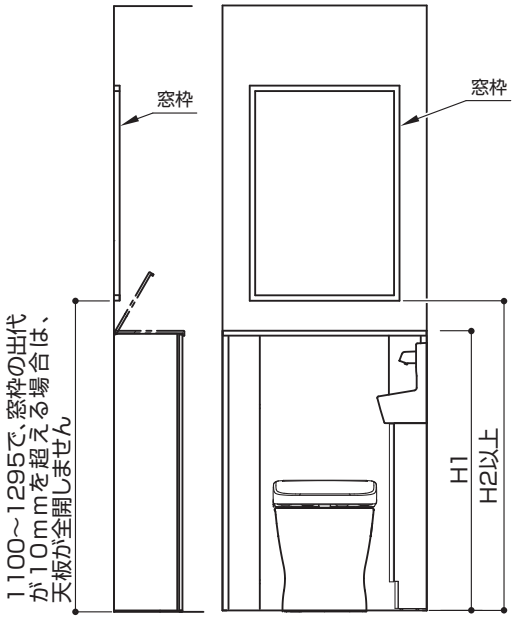
6 幅木について

・幅木の大きさは、高さ100mm以下、厚さ10mm以下としてください。
・本商品は、幅木カット不要で設置できます。

7 窓枠などについて

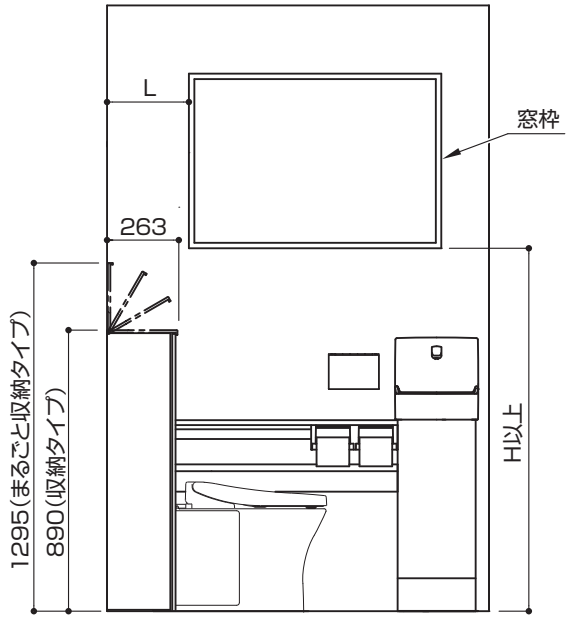
・周辺部材（鏡・手すりなど）を取り付ける場合は、周辺部材の説明書を参照してください。
・壁に窓枠や腰壁の笠木などの突起物などがある場合、下図のような制約が付きます。事前に製品と干渉しないよう窓枠の位置を設定してください。

大便器後ろ壁に窓がある場合



タイプ	まるごと収納タイプ		収納タイプ	
	H1	H2	H1	H2
Mサイズ	1050	1100	890	910
Sサイズ	1050	1100	890	910

大便器横壁に窓がある場合

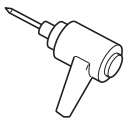


タイプ	まるごと収納タイプ		収納タイプ	
	L=300以上	L=300未満	L=300以上	L=300未満
	H			
Mサイズ	840	1330	840	910
Sサイズ	1040	1330	1040	1040

【図はSサイズまるごと収納タイプの場合】

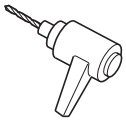
8 必要工具

※一般水道工事に使う工具以外に、下記の工具を用意してください。


電動ドライバー
・#2ビット（65mm・200mm）
・#3ビット（200mm）
排水ソケット固定片用

のこぎり

小型のこぎり
（コンセント開口用）

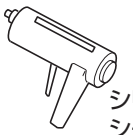

電動ドリル
φ3、φ4、φ4.5、φ5、φ9

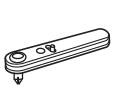
六角レンチ
（4mm）
（ダンパー用）

ドライバー
#2ビット
（65mm・200mm）

ドライバー
（フィルター清掃用）

開閉工具
（給水フィルター清掃用）


シリコーン系
シール材


オフセット
ドライバー
#2ビット

9 壁裏補強材なしの場合のオプション品

ボードアンカー
（品番:UGA490B 50個入）

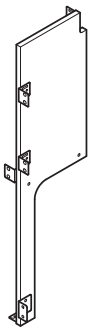
※タイプ・現場状況により必要数量が異なります。

2 部品の確認

・専用の施工説明書が同梱されている商品は、外装箱のみ表記しています。
・包装箱の内容は収納タイプ（左勝手）を基本として記載しています。

側板・後横桟部

コアキャビネット側板セット（左）



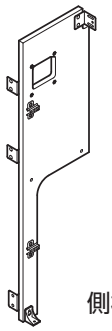
側板

※収納タイプで
左勝手の場合

アングル材（1個）

トラスタッピンねじ
φ4×12（2本）

コアキャビネット側板セット（右）



側板

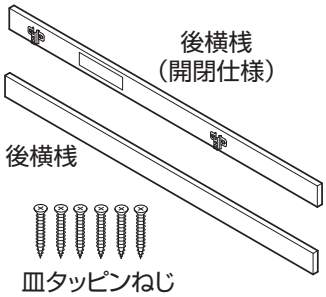
※収納タイプで
右勝手の場合

アングル材（1個）

トラスタッピンねじ
φ4×12（2本）

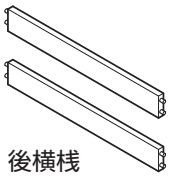
後横桟セット

【まるごと収納タイプの場合】



後横桟
（開閉仕様）

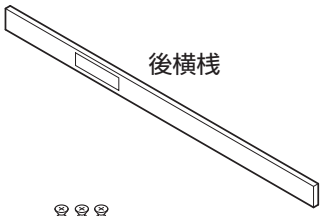
後横桟



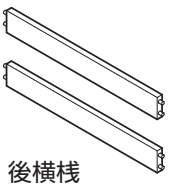
後横桟
※立管対応タイプの
場合のみ入って
います

皿タッピンねじ
φ4×50（6本）

【収納タイプの場合】



後横桟

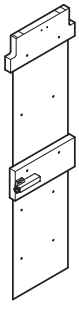


後横桟
※立管対応タイプの
場合のみ入って
います

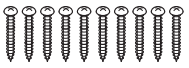
皿タッピンねじ
φ4×50（3本）

※立管対応タイプの場合、いずれか片方の壁側板が入っています。

壁側板セット（左）※



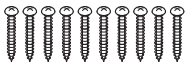
壁側板



トラスタッピンねじ
φ4×50（10本）
※まるごと収納タイプの場合
Φ4×50（12本）

壁側板セット（右）※

壁側板



トラスタッピンねじ
φ4×50（10本）
※まるごと収納タイプの場合
Φ4×50（12本）

施工説明書

本紙

型紙
（4枚）

ラベル
（4枚）

クッション
（2個）

取扱説明書

チラシ

取扱説明書

開閉工具

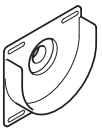
大便器キャビネット部材

コアキャビネット施工部材セット

トラスタッピンねじ
φ4×10（12本）
※立管対応タイプの場合はΦ4×10（7本）

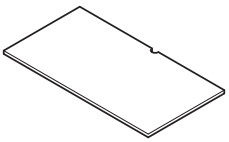
トラスタッピンねじ
φ4×30（2本）
※立管対応タイプの場合はΦ4×40（7本）

配管用化粧カバー


洗浄レバーカバー

トラス小ねじ
M4×10（4本）

タンク上収納底板セット（まるごと収納タイプの場合）


タンク上収納底板

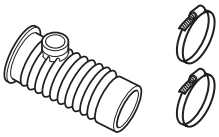
棚受ダボ
（2個）

棚受ダボL

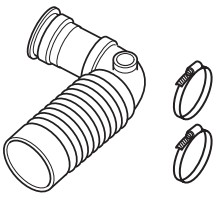
棚受ダボR

排水接続管セット

【後ろ抜きの場合】


排水接続管　バンド

【左右抜きの場合】


排水接続管　バンド

止水栓

※同梱の止水栓を必ず使用してください。

【給水新設用】

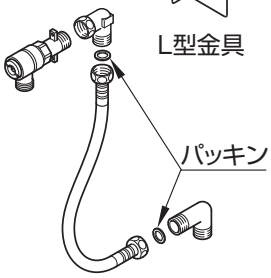
壁給水

（フランジが入っている場合は使用しません）

床給水

【既存給水流用】

※水抜方式の場合は【床給水】を使用します。

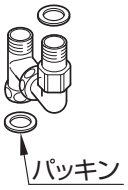

パッキン

L型金具

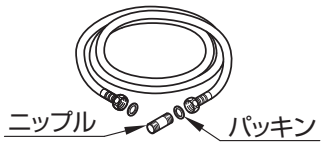
なべ小ねじ
M4×8（2本）

座金付
タッピンねじ
φ4.5×38
（2本）

分岐金具


パッキン

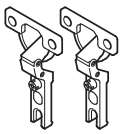
給水ホース


ニップル　パッキン

※手洗器Mサイズ
ハンドル式水栓の場合は
ニップルは入っていません。

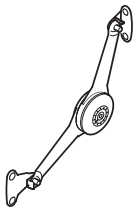
天板開閉部材セット（まるごと収納タイプの場合）

トラス小ねじ
M4×8（4本）

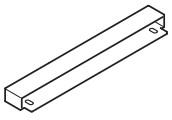

スライド丁番
（2個）

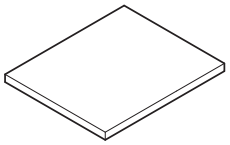
丁番用スペーサー
（2個）

皿タッピンねじ
φ3.5×14（4本）


ダンパー

棚板セット


棚板キャップ（1個）


棚板（1枚）

トラスタッピンねじ
φ4×10（2本）

棚受ダボ（2個）

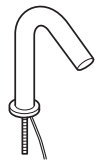
※タイプにより入数が異なります

タイプ	セット数
収納タイプ	1
まるごと収納タイプ	3
立管対応　収納タイプ	入っていません
立管対応　まるごと収納タイプ	1

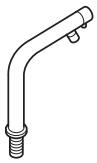
手洗器キャビネット部材

手洗器Mサイズのみに入っているもの

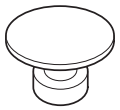
自動水栓
※自動式水栓をお選びの場合



ハンドル式水栓
※ハンドル式水栓をお選びの場合

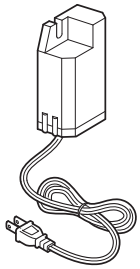


排水目皿

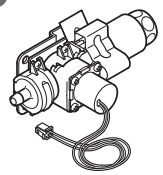


自動水栓/電気温水器付自動水栓の場合

自動水栓機能部



コントローラー

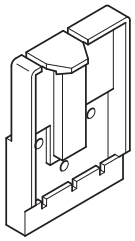


自動水栓機能部

ホースクランプ

座金付タッピンねじ
φ4.5×38(2本)

コントローラー固定材

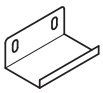


コントローラー
固定材

手洗器Mサイズの場合
トラスタッピンねじ
φ4×30(3本)

※手洗器Sサイズの場合
トラスタッピンねじ
φ4×14(3本)

コンセントプレートカバー
※電気温水器設置の場合のみ



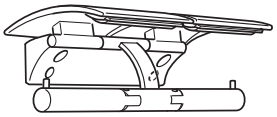
コンセントプレート
カバー

トラスタッピンねじ
φ4×30(2本)

商品選択されている場合に入っているもの

紙巻器

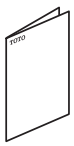
【メタル製】



紙巻器本体

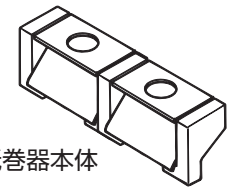
<下記部品は使用しません>

木ねじ(4本)



施工･取扱説明書

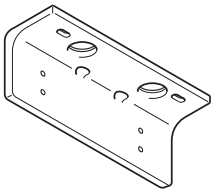
【樹脂製】

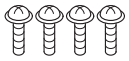


紙巻器本体

固定材(2個)

紙巻器固定材(メタル製紙巻器の場合)





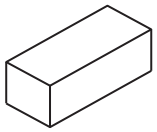
座金組込なべ小ねじ
M4×10(4本)

紙巻器固定材

固定材(2個)

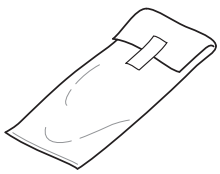
タオル掛け

【壁取付タイプ 】



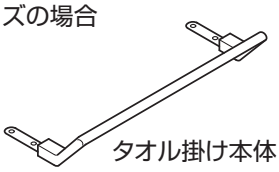
【手洗器下取付タイプ 】

手洗器Sサイズの場合



【手洗器下取付タイプ】

手洗器Mサイズの場合



タオル掛け本体

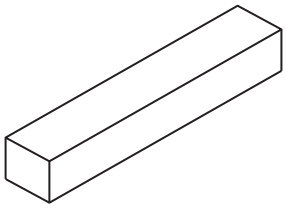
皿タッピンねじ
φ3×16(2本)

トラスタッピンねじ
φ4×16(2本)

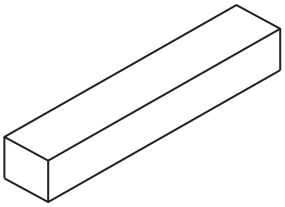
手洗器キャビネット部材（つづき）

手すり

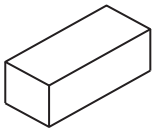
【天然木タイプ】



【コンテンポラリータイプ・メタルタイプ】



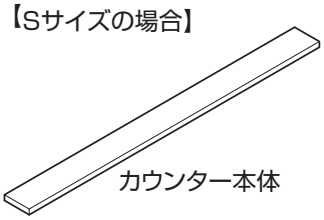
【ハンドグリップ】



手洗器カウンター部材

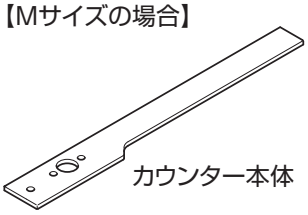
カウンターセット

【Sサイズの場合】

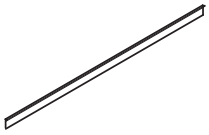


カウンター本体

【Mサイズの場合】

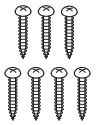


カウンター本体



ブラケットカバー

カウンターキャップ

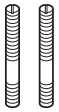


トラスタッピンねじ
φ4×40（7本）

手洗器固定金具セット（Mサイズの場合）

クッション材

手洗器固定金具
（2個）

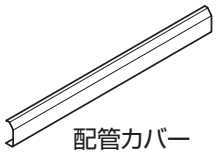


取付ボルト
（2本）

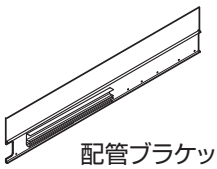
ワッシャー
（2個）

取付ナット
（2個）

配管部材セット



配管カバー

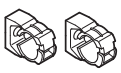


配管ブラケット

トラスタッピンねじ
φ4×40（5本）

手洗器排水ホース

クイックファスナー
（1個）



配管固定材
（2個）

トラスタッピンねじ
φ4×40（3本）

皿タッピンねじ
φ4×16（1本）

皿タッピンねじ
φ4×40（1本）

ホースクランプ
（3個）

Sサイズの場合のみ

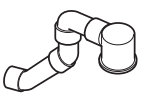
クイック
ファスナー

排水金具

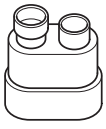
三角
パッキン

スリップ
ワッシャー

接続管



トラップ排水管



排水トラップ

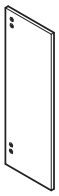
クイック
ファスナー

その他包装

※立管対応タイプの場合、固定扉およびカウンター下扉のセットが入っています。

扉セット（手洗器設置側）※

【まるごと収納タイプの場合】


固定扉

すり割り付ねじ
M4×16（2本）

平板金

蝶ナット
M4（2個）

トラスタッピンねじ
φ4×10（4本）

【収納タイプの場合】

固定扉

すり割り付ねじ
M4×16（4本）

蝶ナット
M4（4個）

木口キャップ

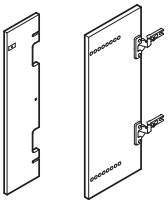
トラスタッピンねじ
φ4×10（2本）

固定扉小口キャップ下

トラスタッピンねじ
φ4×10（2本）

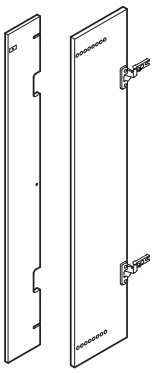
側板目地材
（L=430）

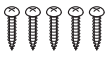
トラスタッピンねじ
φ4×30（2本）


カウンター下扉

トラスタッピンねじ
φ4×18（3本）またはφ4×20（3本）
※1本は「5.部材の取り付け②」で使用します
※扉表面色により、いずれかのねじが入っています

扉セット（手洗器設置と反対側）※

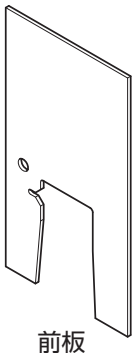

扉


トラスタッピンねじφ4×30（5本）
※まるごと収納の場合φ4×30（6本）

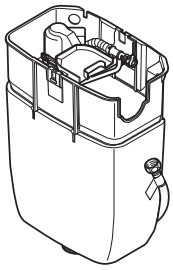
トラスタッピンねじ
φ4×18（3本）または
φ4×20（3本）
※1本は「5.部材の取り付け②」で使用します
※扉表面色により、いずれかのねじが入っています

側板目地材
（1本）

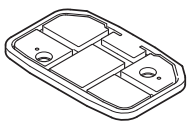
前板セット


前板

セットタンク

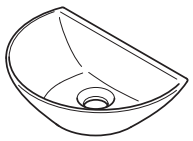


※ピンはジョイント端ピン　に付いています。

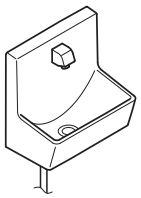

カバー

手洗器セット

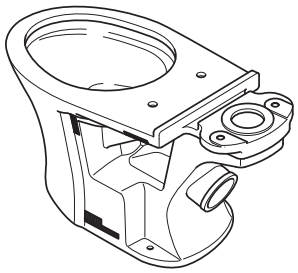
【Mサイズの場合】



【Sサイズの場合】



大便器


便器本体

サイドカバー（右）
（1個）

サイドカバー（左）
（1個）

固定片

ワッシャー（固定片用）
（2枚）

化粧キャップ（前）

化粧キャップ（後）
（2個）

皿木ねじ
φ5.8×56（前）

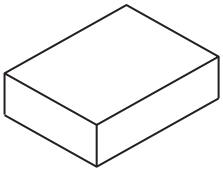
木ねじ
Φ6.2×63（2本）（後）

なべタッピンねじ（固定片用）
φ6×50（2本）

ワッシャー（後部固定用）
（2枚）

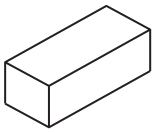
その他包装（つづき）

ウォシュレット



※分岐金具はウォシュレットの箱の中に入っています

便器洗浄ユニット



<下記部品は使用しません>

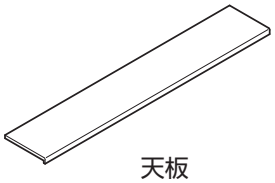
ワッシャーA

ワッシャーB

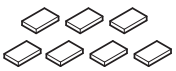
コードフック（7 個）

サンドペーパー

天板セット

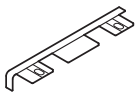


天板

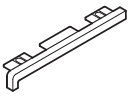


面ファスナー（7個）

※まるごと収納タイプには入っていません



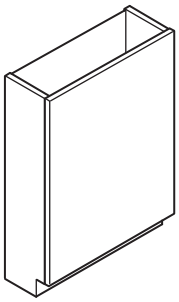
天板キャップL



天板キャップR

トラスタッピンねじ
φ4×8（4本）

手洗器キャビネット（手洗器Mサイズの場合）

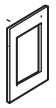


手洗器キャビネット

固定ねじ
φ4.5×50（2本）

スペーサー
（8枚）

トラスタッピンねじ
φ4×12（2本）



コンセント
カバー

化粧キャップ
（2個）

排水金具

接続管

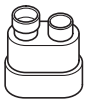
三角パッキン

クイックファスナー

トラップ
排水管セット

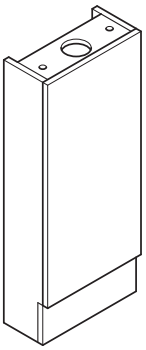
スリップ
ワッシャー

クイックファスナー

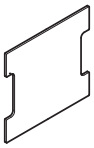


排水トラップ

手洗器キャビネット（手洗器Ｓサイズの場合）



手洗器キャビネット

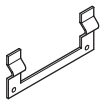


キャビネットカバー

施工部材セット（手洗器Ｓサイズの場合）

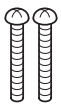
トラスタッピンねじ
φ4×30（3本）

トラスタッピンねじ
φ4×40（4本）



手洗器固定金具

固定ブッシュ
（2個）



トラス小ねじ
M5×54（2本）

スペーサー（8枚）

ワッシャー
（2個）

ホースクランプ

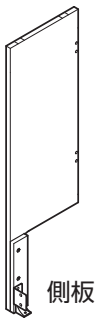
クッション材

その他包装（つづき）

商品選択されている場合に入っているもの

コアキャビネット側板セット左(立管タイプの場合)

【立管が左にある場合】



側板

※まるごと収納タイプの場合

アングル材(1個)

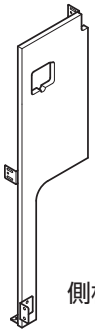
アングル材(1個)

トラスタッピンねじ
φ4×12(3本)

目地材
(L=95)

トラスタッピンねじ
φ4×12(2本)

【立管が右にある場合】



側板

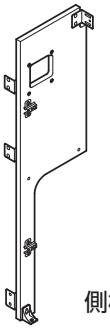
※収納タイプの場合

アングル材
(1個)

トラスタッピンねじ
φ4×12(2本)

コアキャビネット側板セット右(立管タイプの場合)

【立管が左にある場合】



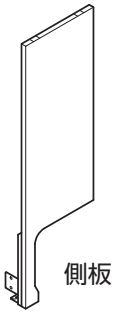
側板

※収納タイプの場合

アングル材
(1個)

トラスタッピンねじ
φ4×12(2本)

【立管が右にある場合】



側板

※まるごと収納タイプの場合

アングル材(1個)

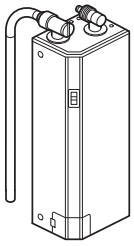
アングル材(1個)

トラスタッピンねじ
φ4×12(3本)

目地材
(L=95)

トラスタッピンねじ
φ4×12(2本)

電気温水器



電気温水器本体

L=300
排水ホース

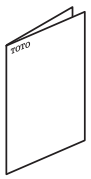
※手洗器Mサイズの場合

固定アングル2

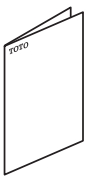
固定アングル用
座付なべ小ねじ
M4×10(2本)

壁固定用木ねじ
φ4×30(2本)

化粧ラベル

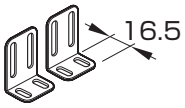


取扱説明書



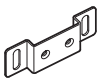
施工説明書

※手洗器Sサイズの場合



固定アングル1(2個)
※1個は使いません

固定アングル用
座付なべ小ねじ
M4×10(2本)



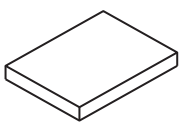
スペーサー

スペーサー取付用ねじ
M4×5(2本)

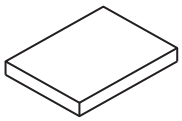
壁固定用木ねじ
φ4×30(2本)

化粧鏡

【木製フレームタイプ】



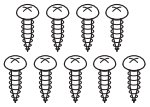
【アルミフレームタイプ】



エンドパネル

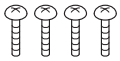
エンドパネル本体

アングル材
(3個)



トラスタッピンねじ
φ4×12(9本)

トラス小ねじ
M4×8(6本)



トラス小ねじ
M4×20(4本)
※まるごと収納タイプの場合(6本)

トラスタッピンねじ
φ4×30(9本)

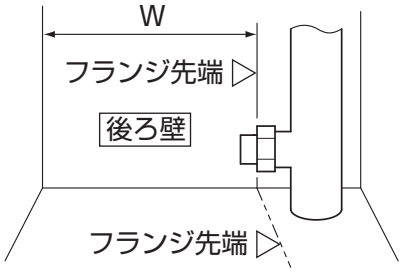
3 部材の取り付け①

1 側板(立管対応)「側板・後横桟部」の部材を使用 ・エンドパネル(オプション品)「エンドパネル」の部材を使用

※側板(立管対応)・エンドパネルを使用しない場合は、P.34 2 後横桟・壁側板 から作業をはじめてください。

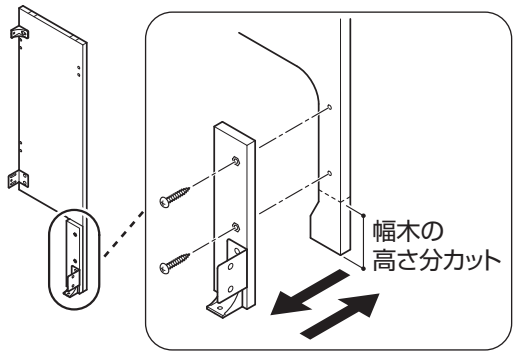
■側板を取り付ける(立管対応の場合)

①後ろ壁と床にフランジ先端の位置をけがく(露出タイプのみ)

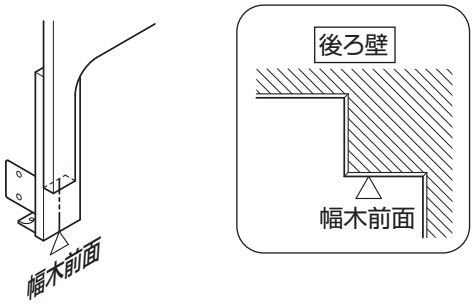


【隠ぺいタイプで幅木がある場合】

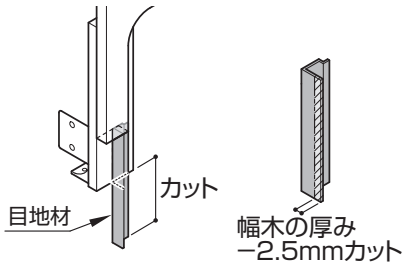
❶ 脚の部品を外し、幅木の高さ分をカットする
❷ 外した部品を取り付ける



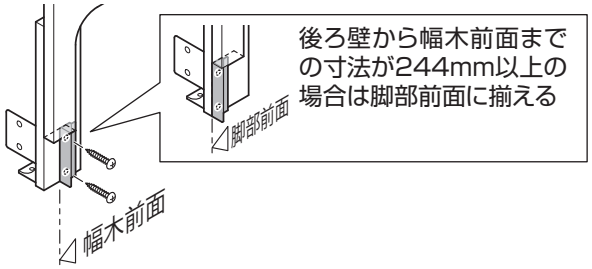
❸ 脚部に幅木前面までの位置をけがく



❹ 目地材をカットする

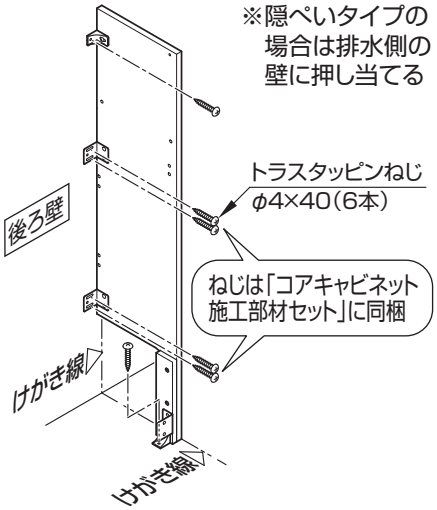


❺ 目地材をけがき線に合わせ、下穴(φ3)をあけ、目地材をねじ固定する

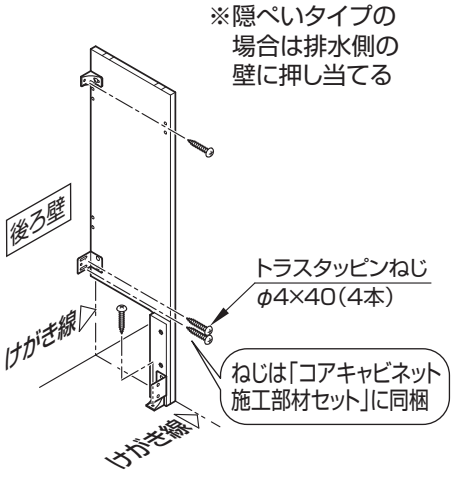


②後ろ壁と床に下穴(φ3)をあけ、ねじ固定する

【まるごと収納タイプ】

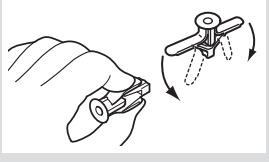


【収納タイプ】



【下地が石こうボードの場合】
下穴(φ9)をあけ、ボードアンカーを入れる

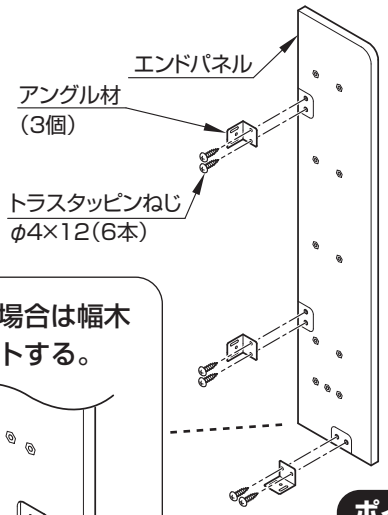
ボードアンカー(オプション品)の羽を折りたたんで下穴(φ9)に差し込む



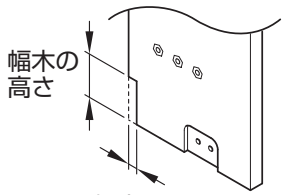
1 側板(立管対応)・エンドパネル(オプション品)(つづき)

■エンドパネルを使用する場合

① エンドパネルにアングル材を取り付ける。



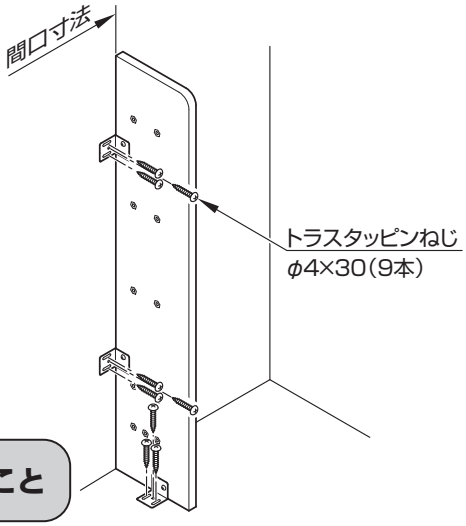
② 幅木がある場合は幅木分だけカットする。



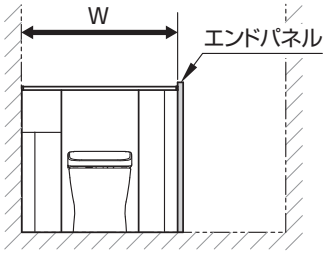
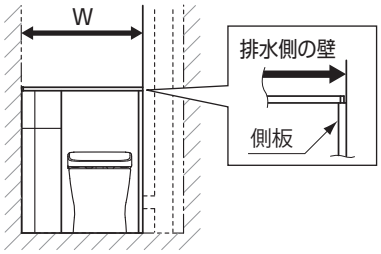
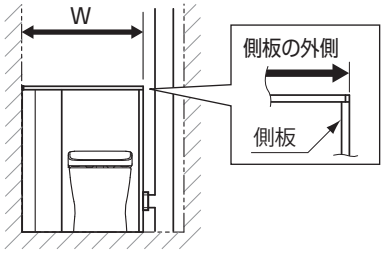
ポイント

ねじは手締めで行うこと

③ 取付位置を確認し、取付穴位置をけがき、下穴(φ3)をあける。
エンドパネルを後壁と床に取り付ける。



間口寸法Wの測定範囲

	エンドパネル	立管対応　隠ぺいタイプ	立管対応　露出タイプ
後横桟・天板			

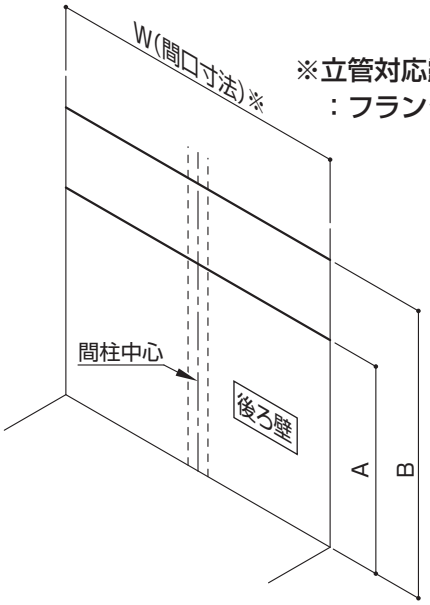
2 後横棧・壁側板

「側板・後横棧部、扉セット」の部材を使用

1 後横棧を取り付ける

①後ろ壁に後横棧上端までの寸法をけがく

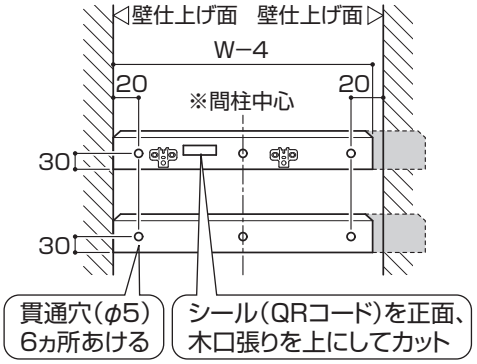
	A(mm)	B(mm)
まるごと収納タイプ	765	1030
収納タイプ	873	
立管対応　まるごと収納タイプ	765	
立管対応　収納タイプ	けがく必要はありません	



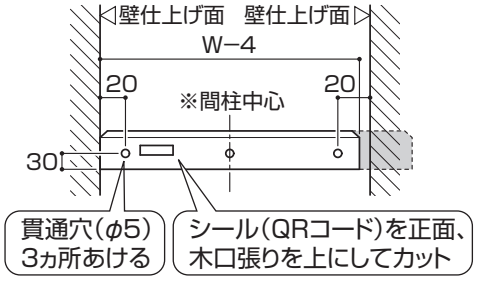
※立管対応露出タイプの場合
：フランジ先端までの寸法

②後横棧をカット、貫通穴（φ5）をあける
※壁裏補強なしの場合は、間柱中心に貫通穴をあける　（単位：mm）

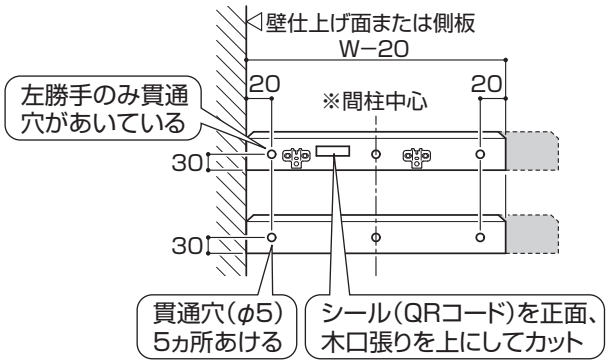
【まるごと収納タイプ】



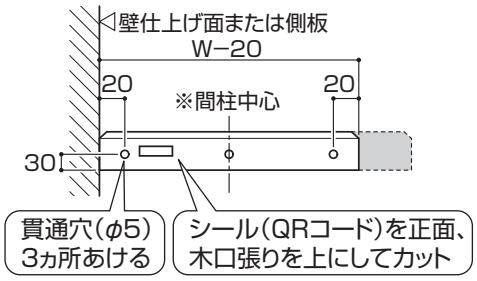
【収納タイプ】



【立管対応　まるごと収納タイプ】



【立管対応　収納タイプ】

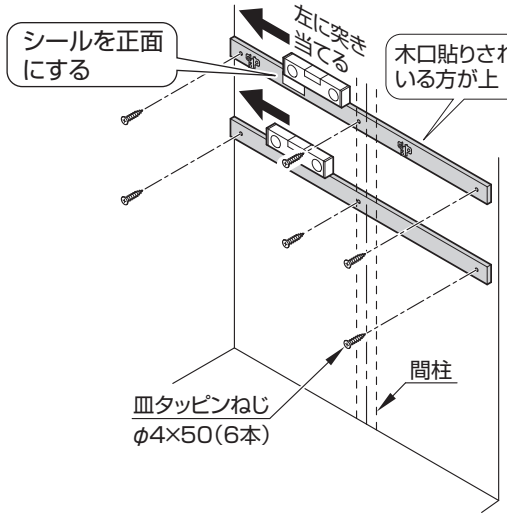


2 後横桟・壁側板（つづき）

1 後横桟を取り付ける（つづき）

③ 壁に下穴（φ3）をあけ、ねじ固定する。真中（間柱）を先に付け、水平を確認した後、両端を固定する

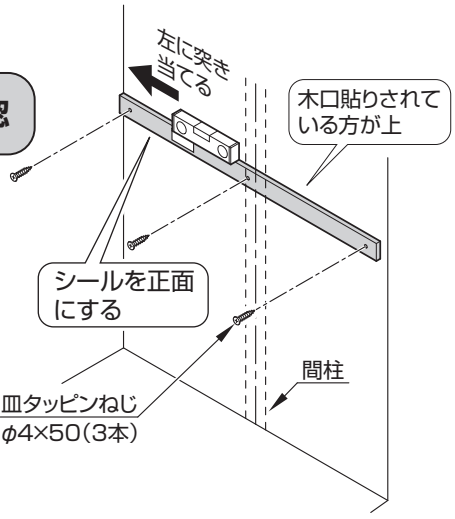
【まるごと収納タイプ】



ポイント

水平器にて水平確認

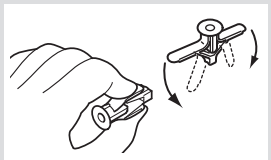
【収納タイプ】



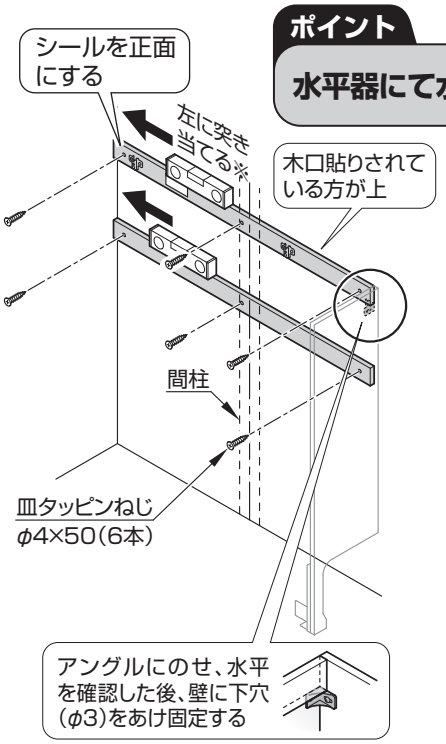
【下地が石こうボードの場合】

下穴（φ9）をあけ、ボードアンカーを入れる
間柱に止めるねじには、ボードアンカーは必要ありません

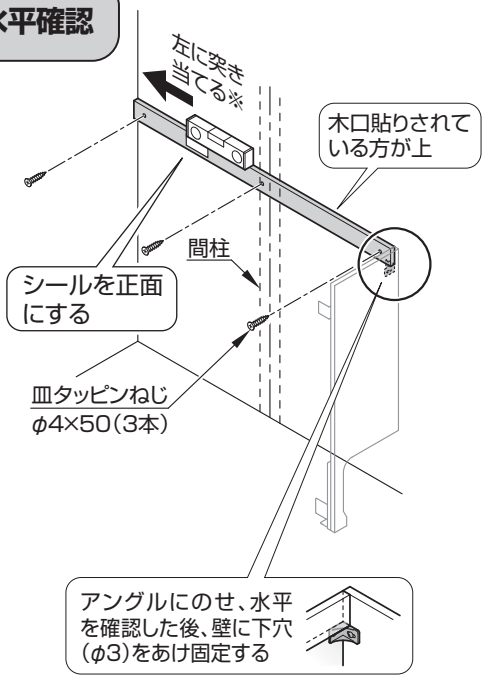
ボードアンカー（オプション品）の羽を折りたたんで下穴（φ9）に差し込む



【立管対応　まるごと収納タイプ】



【立管対応　収納タイプ】

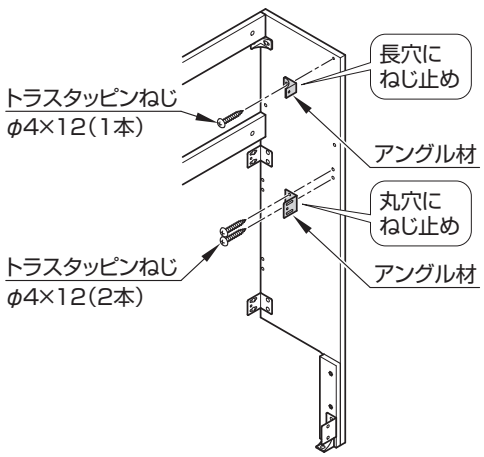


※立管が左にある場合は、立管側の側板に突き当てる

④ 立管対応 まるごと収納タイプの場合、側板にアングル材を取り付ける

ポイント

ねじは手締めで行うこと

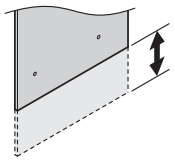


2 後横桟・壁側板（つづき）

2 壁側板を取り付ける

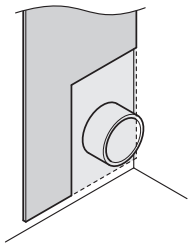
① 壁側板を加工する

【幅木がある場合】
幅木の高さ分をカットする

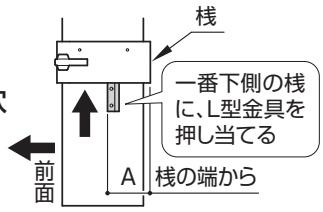


【横壁にコンセントがある場合】
コンセントプレートのサイズに壁側板を開口する

【左右抜きの場合】
下図のように排水管に干渉しないように壁側板をカットする



【給水リモデルの場合】
壁側板にL型金具のねじ位置をけがき、貫通穴（φ5）2ヵ所あける



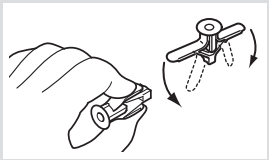
	取付部材	A（mm）
後ろ抜き	左壁側板	85
右抜き		
左抜き		170
立管が右にある場合		85
立管が左にある場合	右壁側板	

② 横壁に下穴（φ3）をあけ、ねじ固定する

給水リモデルの場合は、壁にL型金具用の下穴（φ3）をあける

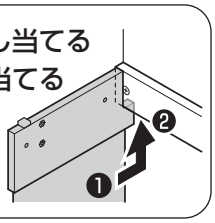
※下地が石こうボードの場合は、下穴（φ9）をあけ、ボードアンカーを入れる

ボードアンカー（オプション品）の羽を折りたたんで下穴（φ9）に差し込む

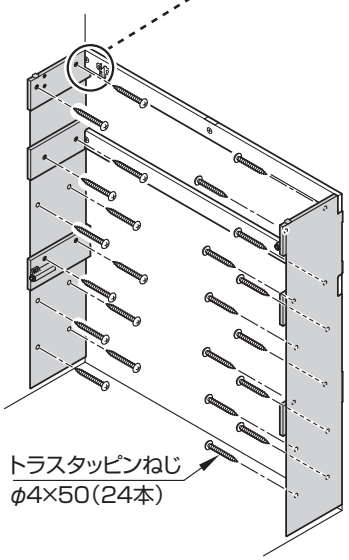


	ねじ数（本）
まるごと収納タイプ	24
収納タイプ	20
立管対応　まるごと収納タイプ	12
立管対応　収納タイプ	10

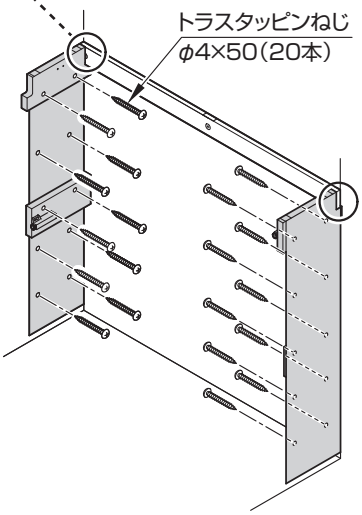
❶壁側板を奥壁に押し当てる
❷後横桟下端に突き当てる



【まるごと収納タイプ】



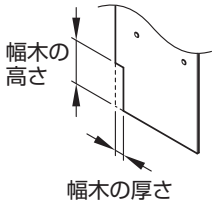
【収納タイプ】



※立管対応タイプの場合は、片側のみです。

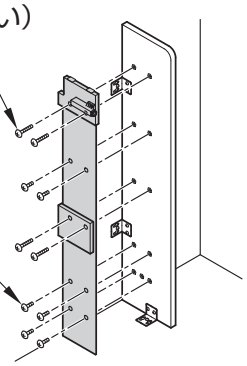
【エンドパネルの場合】（「エンドパネル」に同梱のねじを必ず使用してください）

幅木がある場合は幅木分だけカット



トラス小ねじ
M4×20（※本）
※まるごと収納タイプ：6本
　収納タイプ：4本
※板厚の厚い箇所に使用します。

トラス小ねじ
M4×8（6本）

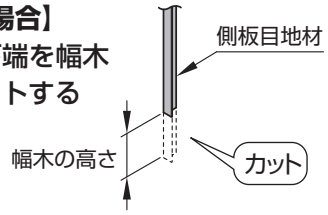


2 後横桟・壁側板（つづき）

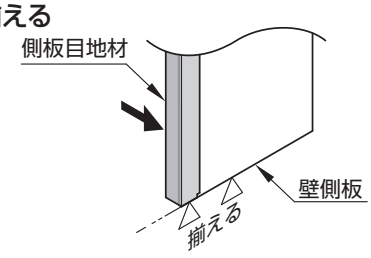
3 側板目地材（「扉セット」に同梱）を取り付ける

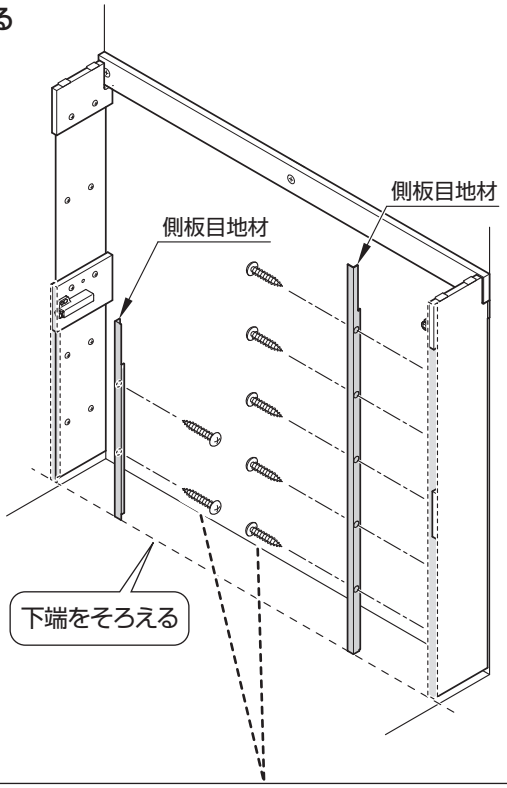
※図は左勝手の場合
　右勝手は左右反転となります。

① **【幅木がある場合】**
側板目地材下端を幅木の高さ分カットする



② 側板目地材を壁側板に押し当て、下端を揃える

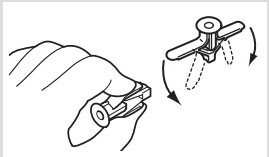


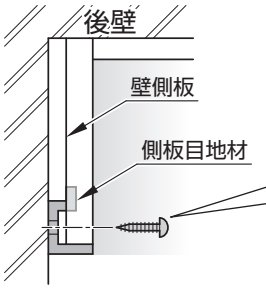


③ 壁に取付穴位置をけがき、下穴（φ3）をあけ、同梱のねじで取り付ける

※下地が石こうボードの場合は、下穴（φ9）をあけ、ボードアンカーを入れる

ボードアンカー（オプション品）の羽を折りたたんで下穴（φ9）に差し込む





【壁の場合】
トラスタッピンねじφ4×30

【エンドパネルの場合】
トラスタッピンねじφ4×12
（エンドパネルに同梱）

3 止水栓・分岐金具(給水新設の場合)

「大便器キャビネット部材」の部材を使用

1 止水栓、分岐金具(ウォシュレット用分岐金具は「ウォシュレット」に同梱)を取り付ける

※同梱の止水栓を必ず使用してください。

ポイント

立管が左にある場合は、右側に取り付ける

⚠ 注意

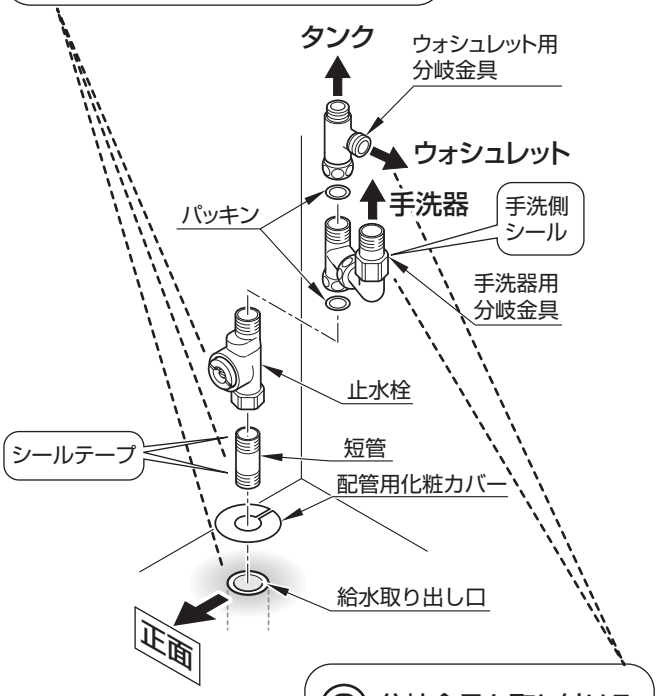
必ず守る

シールテープを必ず巻くこと

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

【床給水の場合】

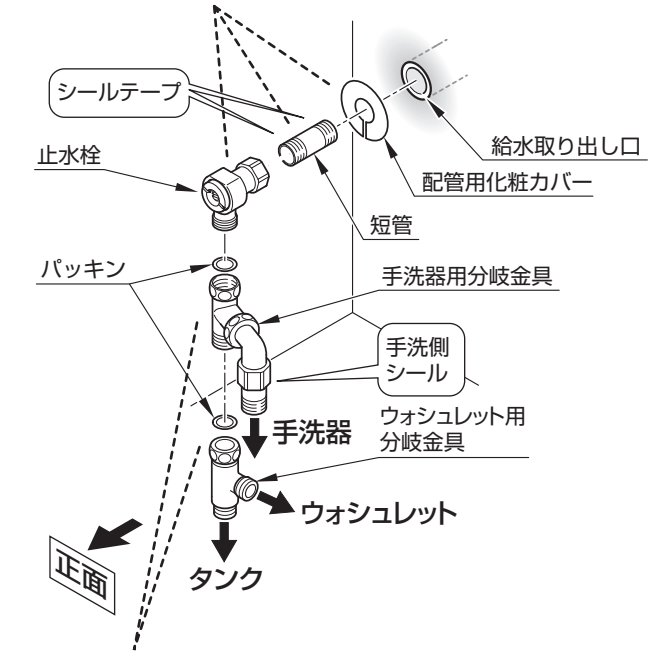
① 短管と止水栓を組み付け、給水取り出し口に取り付ける



② 分岐金具を取り付ける

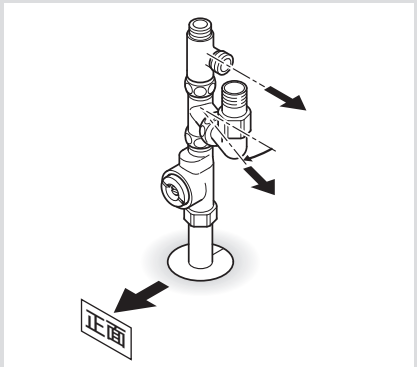
【壁給水の場合】

① 短管と止水栓を組み付け、給水取り出し口に取り付ける

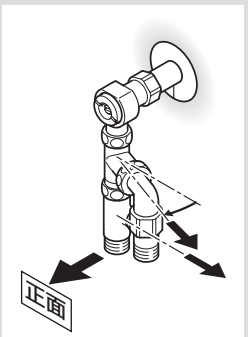


② 分岐金具を取り付ける

止水栓、分岐金具の向き

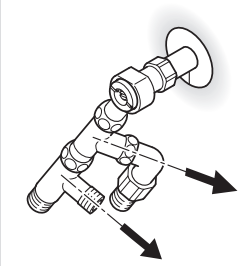


止水栓、分岐金具の向き



立管が左にある場合

右側の後ろ壁に取り付ける



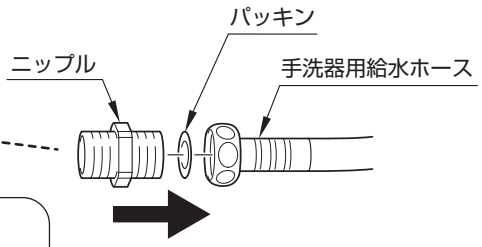
注 意

手洗器とウォシュレットの給水ホースを反対に取り付けないようご注意ください。
便器洗浄・ウォシュレットの吐水不良の原因となります。

3 止水栓・分岐金具（給水新設の場合）（つづき）

2 手洗器用給水ホースを取り付ける

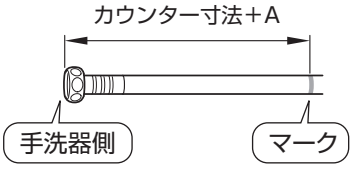
① 手洗器用給水ホースにニップルを取り付ける
※手洗器Mサイズ自動水栓／Sサイズの場合



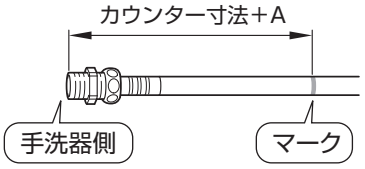
② カウンター寸法に合わせ、ホースクランプ固定位置の印を付ける

	A(mm)	
	ハンドル式水栓	自動水栓
Mサイズ	350	−70
Sサイズ	30	

【Mサイズ ハンドル式水栓の場合】



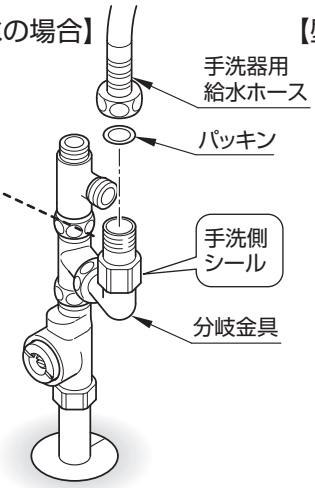
【Mサイズ自動水栓／Sサイズの場合】



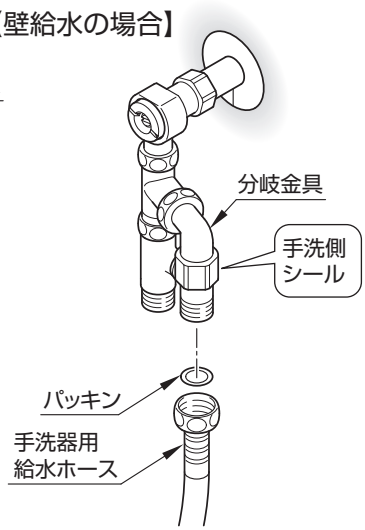
③ 分岐金具に取り付ける

④「手洗器用給水ホース取り回し」(P39)を参照し、ホースクランプで固定する
(配管部材セットに同梱)
※石こうボードの場合はボードアンカーを入れてください。

【床給水の場合】



【壁給水の場合】



注 意

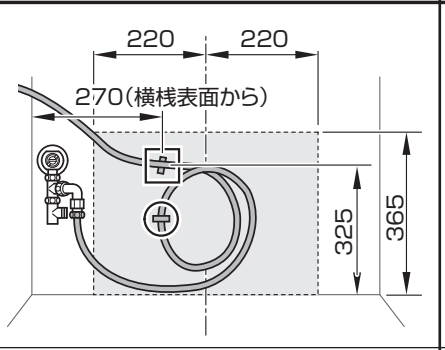
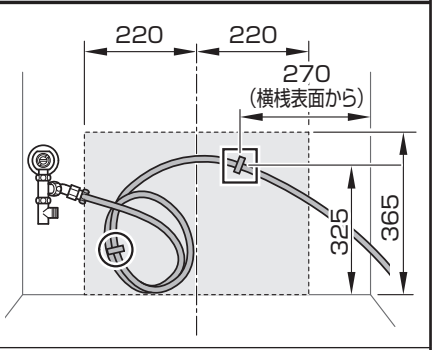
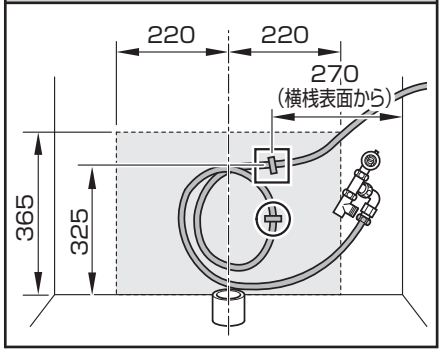
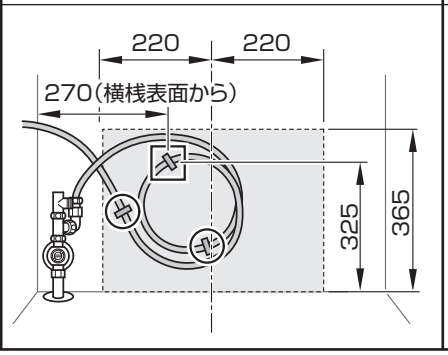
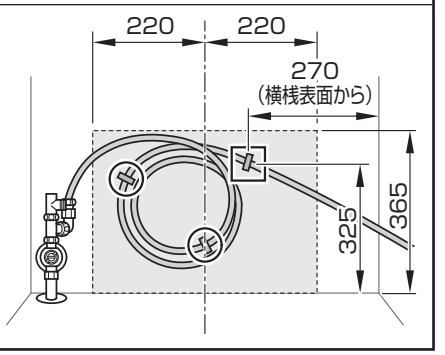
手洗器用給水ホースは「手洗器側シール」がある接続口に取り付ける

手洗器用給水ホース取り回し（参考 間口750mmの場合）

※◯は給水ホース固定位置（任意）　※□は給水ホース固定位置（マーク付）　※⬚は給水ホース取り回し範囲

※間口寸法に関わらず、□給水ホース固定位置（マーク付）は、図中の寸法を守って固定してください。

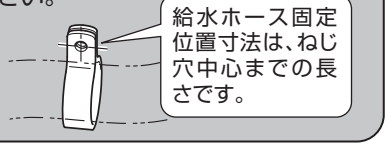
※間口寸法751mm以上の場合は、下図を参考に給水ホース取り回し範囲内でホースを取り回し、固定してください。　(単位：mm)

	左勝手の場合	右勝手の場合	立管が左にある場合
壁給水			
床給水			

注 意

□で囲んだホースクランプの向きに注意

ねじが上になるように固定してください。

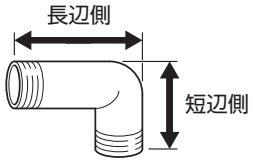


3 止水栓・分岐金具（既存給水流用の場合）

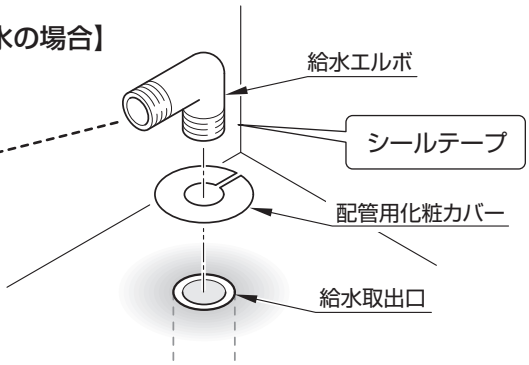
1 給水エルボを取り付ける

給水エルボ（短辺側）にシールテープを巻き、給水取出口に取り付ける

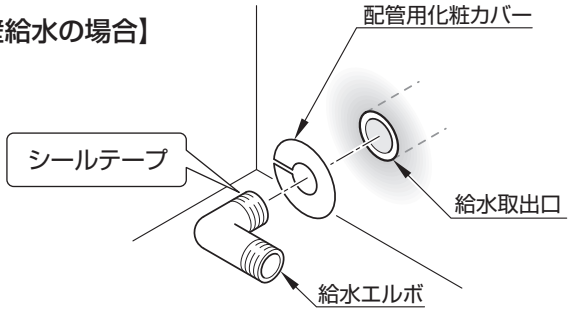
短辺側を給水取出口に接続



【床給水の場合】



【壁給水の場合】



⚠ 注意

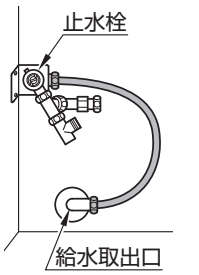
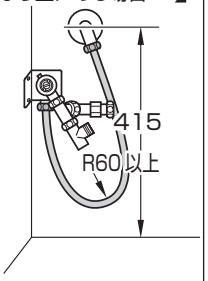
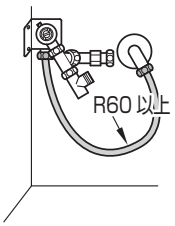
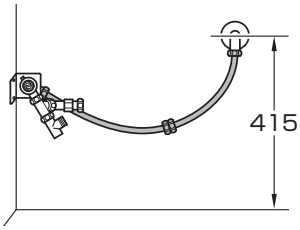
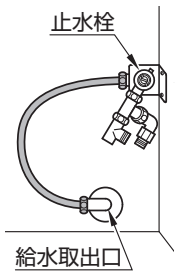
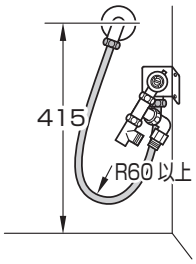
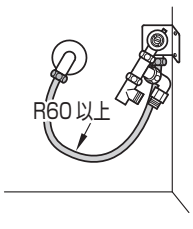
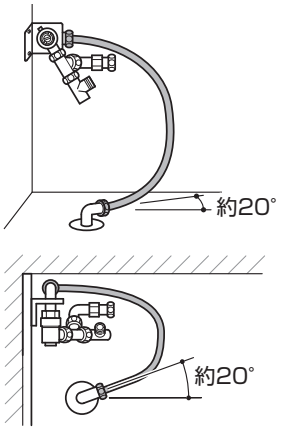
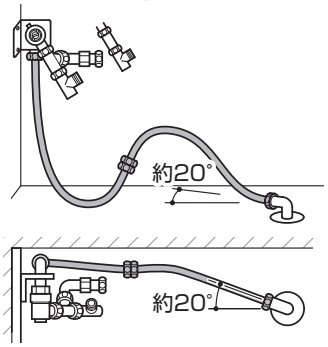
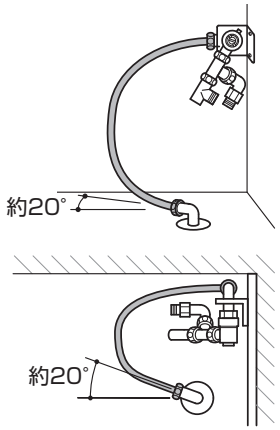
必ず守る

シールテープを必ず巻くこと

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

給水ホース（リモデル用）取り回し（参考）

（単位：mm）

	左給水	右給水	右給水で立管が左にある場合
壁給水	※給水位置が床仕上げ面から415mm以上の場合は、棚板を取り付けることができません。 【給水取出口が止水栓より下にある場合】  【給水取出口が止水栓より上にある場合】  【給水取出口が止水栓に近い場合】 	※右給水の場合は延長ホース（UGTN98L2X50R）L=522を使用します。 ※給水位置が床仕上げ面から415mm以上の場合は、棚板を取り付けることができません。 	※給水位置が床仕上げ面か415mm以上の場合は、棚板を取り付けることができません。 【給水取出口が止水栓より下にある場合】  【給水取出口が止水栓より上にある場合】  【給水取出口が止水栓に近い場合】 
床給水	※給水エルボは便器側に向ける 	※給水エルボは便器側に向ける ※右給水の場合は延長ホース（UGTN98L2X50R）L=522を使用します。 	※給水エルボは便器側に向ける 

3 止水栓・分岐金具（既存給水流用の場合）（つづき）

2 止水栓に分岐金具（ウォシュレット用分岐金具は「ウォシュレット」に同梱）を組み付ける

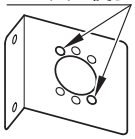
※同梱の止水栓を必ず使用してください。
※右給水の場合、オプション品の延長ホース（UGTN98L2X50R）を用意してください。立管対応の場合は不要です。

① 止水栓とエルボをいったん取り外す

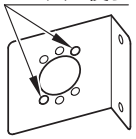
③ 分岐金具を組み付けた止水栓とL型金具を同梱のねじで取り付ける

注 意

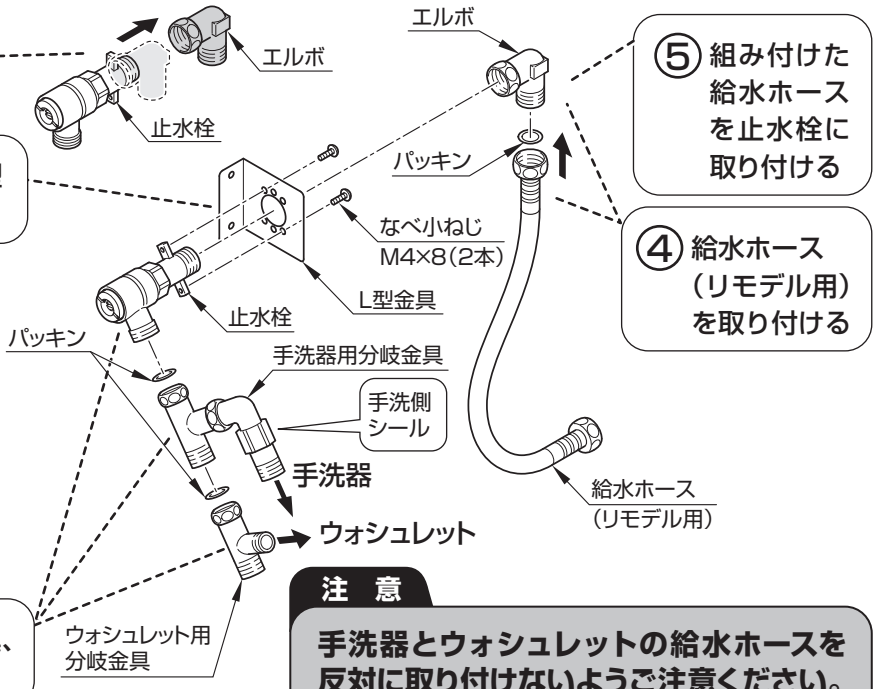
【左壁側板に取り付ける場合】
この穴を使う



【右壁側板に取り付ける場合】
この穴を使う



② 止水栓にウォシュレット用分岐金具、手洗器用分岐金具を組み付ける



⑤ 組み付けた給水ホースを止水栓に取り付ける

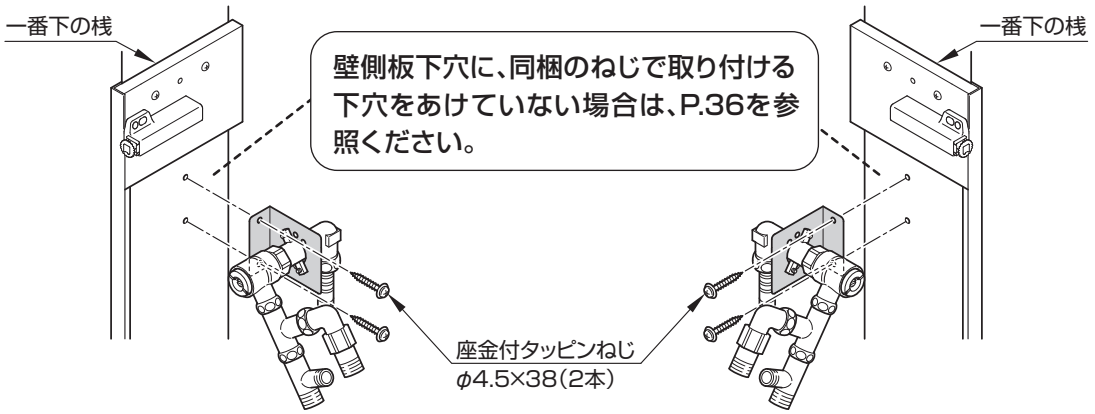
④ 給水ホース（リモデル用）を取り付ける

注 意

手洗器とウォシュレットの給水ホースを反対に取り付けないようご注意ください。便器洗浄・ウォシュレットの吐水不良の原因となります。

3 組み付けた止水栓を壁側板に取り付ける

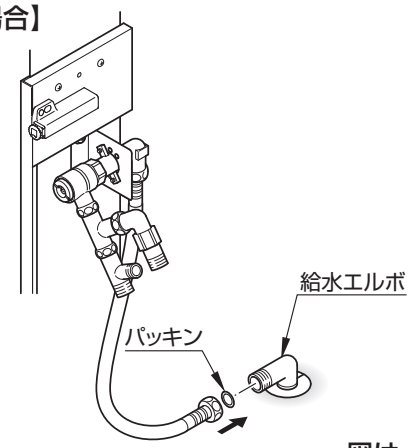
【左壁側板の場合】



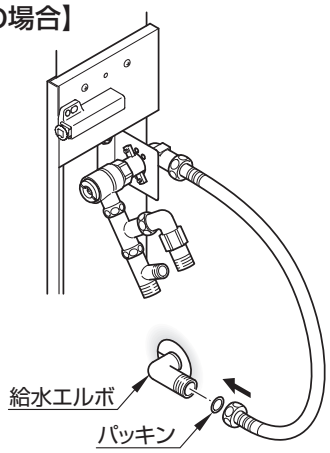
【右壁側板の場合】

4 給水ホースを給水エルボに取り付ける

【床給水の場合】



【壁給水の場合】

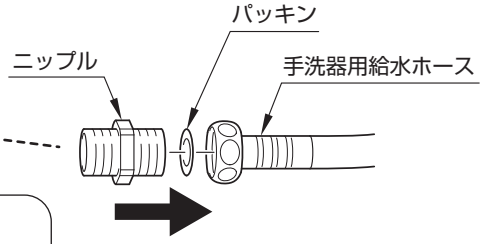


図は、左壁側板の場合

3 止水栓・分岐金具（既存給水流用の場合）（つづき）

5 手洗器用給水ホースを取り付ける

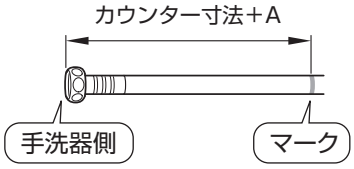
① 手洗器用給水ホースにニップルを取り付ける
※手洗器Mサイズ自動水栓／Sサイズの場合



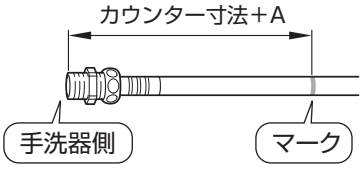
② カウンター寸法に合わせ、ホースクランプ固定位置の印を付ける

	A（mm）	
	ハンドル式水栓	自動水栓
Mサイズ	350	−70
Sサイズ	30	

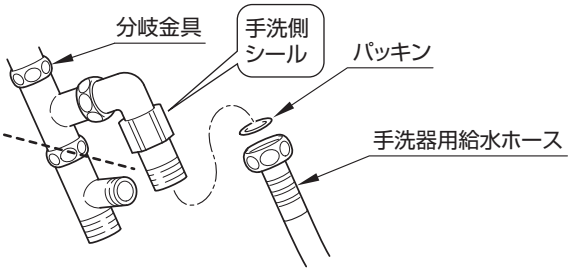
【Mサイズ ハンドル式水栓の場合】



【Mサイズ自動水栓／Sサイズの場合】



③ 分岐金具に取り付ける



④ 下図を参照し、ホースクランプで固定する
（手洗器カウンター包装箱に同梱）
※石こうボードの場合はボードアンカーを
入れてください。

注 意

手洗器用給水ホースは「手洗側シール」がある接続口に取り付ける

手洗器用給水ホース取り回し（参考 間口750mmの場合）

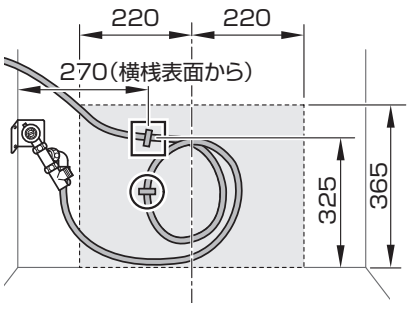
※◯は給水ホース固定位置（任意）　※□は給水ホース固定位置（マーク付）　※⬚は給水ホース取り回し範囲

※間口寸法に関わらず、□給水ホース固定位置（マーク付）は、図中の寸法を守って固定してください。

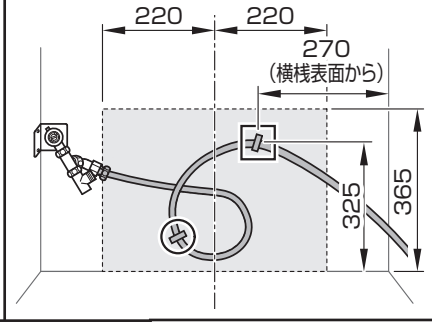
※間口寸法751mm以上の場合は、下図を参考に給水ホース取り回し範囲内でホースを取り回し、固定してください。

（単位：mm）

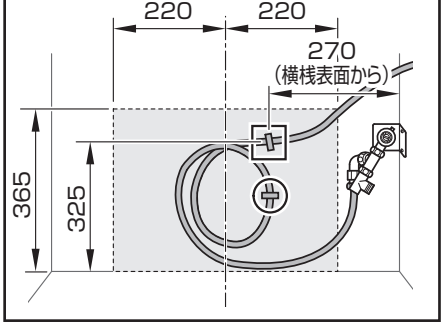
左勝手の場合



右勝手の場合



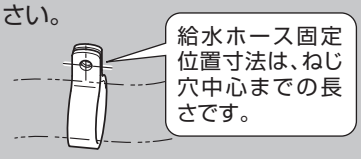
立管が左にある場合



注 意

□で囲んだホースクランプの向きに注意

ねじが上になるように固定してください。



4 大便器の仮固定

「大便器、大便器キャビネット部材、手洗器カウンター部材」の部材を使用

1 床に取付位置をけがく

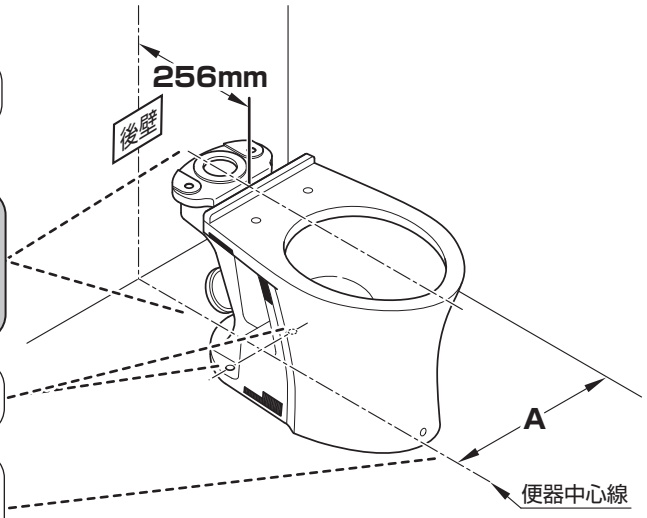
① 図の位置に便器を仮置きする

ポイント

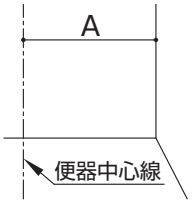
便器中心線と便器の中心が一致するように注意する。一致しないと便器と前板パネルにすき間ができます。

② 便器固定穴（2ヵ所）をけがく

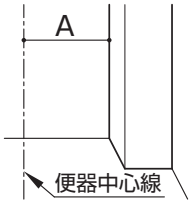
③ 鉛筆など（後で消せるもの）で便器中心線に印を付ける



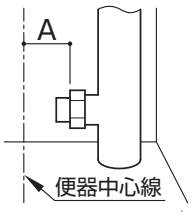
【立管がない場合】



【立管対応（隠ぺい）】



【立管対応（露出）】



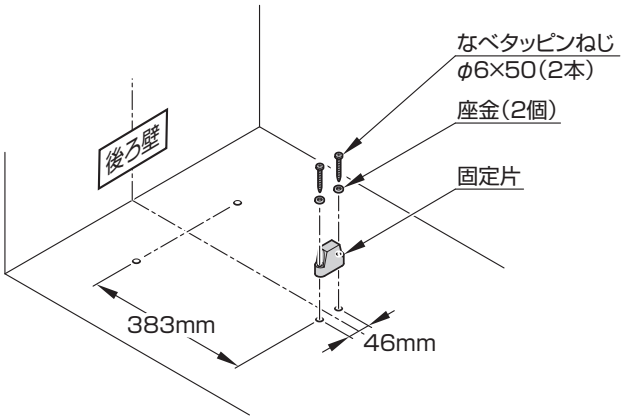
	A（mm）
立管がない場合	間口中心
立管対応（隠ぺい）	247
立管対応（露出）	

2 固定片を取り付ける

① 便器をいったん外し、固定片取付穴（2ヵ所）をけがく

② けがいた位置に、下穴（φ4.5）4ヵ所をあける

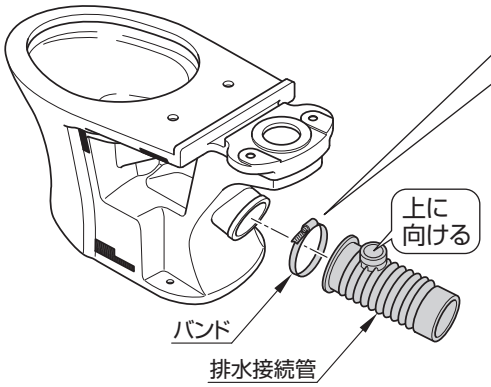
③ 固定片を同梱のねじで取り付ける



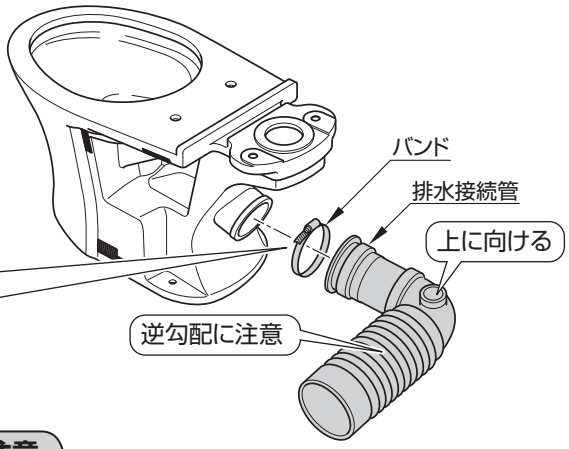
4 大便器の仮固定（つづき）

3 排水接続管を取り付ける

【後ろ抜きの場合】



【左右抜きの場合】



⚠ 注意

必ず守る

手洗排水合流部が真上になるように、排水接続管を接続する

排水の勾配が確保できないおそれがあります。

バンドはドライバーにて手締めのこと

電動ドライバーで締め付けると、排水接続管が破れ、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

⚠ 注意

必ず守る

排水管の高さに合わせて適切な角度で排水接続管を接続する

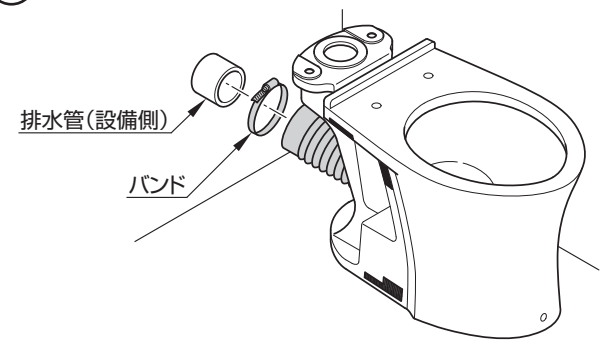
排水の勾配が確保できないおそれがあります。

バンドはドライバーにて手締めのこと

電動ドライバーで締め付けると、排水接続管が破れ、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

4 排水管（設備側）に接続する

①便器を仮置きし、排水管（設備側）に接続する



⚠ 注意

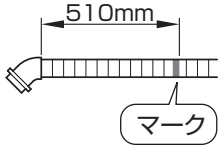
必ず守る

バンドはドライバーにて手締めのこと

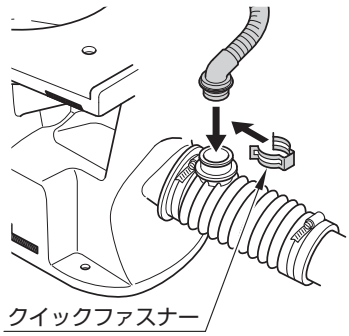
電動ドライバーで締め付けると、排水接続管が破れ、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

5 手洗器排水ホースを取り付ける

①手洗器排水ホースに固定位置のマークを付ける



②排水接続管と手洗器排水ホースをクイックファスナーで取り付ける

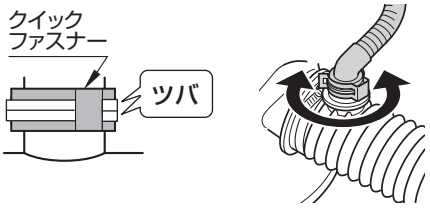


⚠ 注意

必ず守る

クイックファスナーの全周にツバが掛かっていることを確認する
クイックファスナーがスムーズに1回転することを確認する

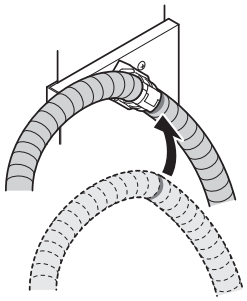
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



4 大便器の仮固定（つづき）

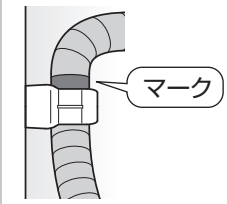
③ 壁側板の下穴（φ2）に配管固定材を手締めにて取り付ける

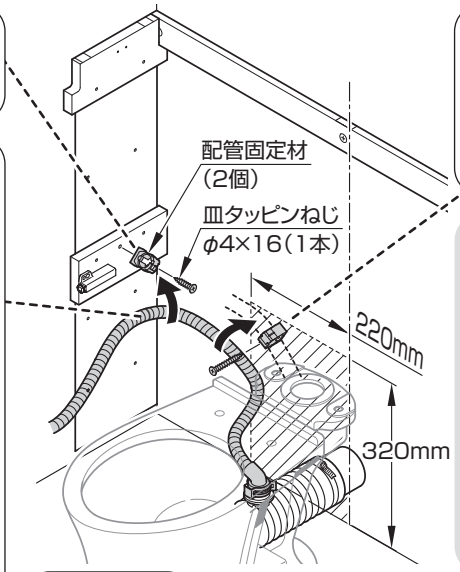
④ 手洗器排水ホースのマーク部分を配管固定材に固定する



ポイント

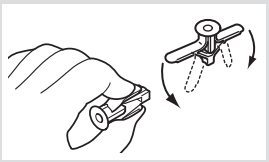
下図のように固定する





⑤ 排水ホースが逆勾配にならないように斜線内に配管固定材を取り付け、排水ホースを固定する

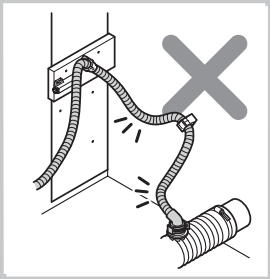
下地が石こうボードの場合はボードアンカー（オプション品）の羽を折りたたんで下穴（φ9）に差し込む



逆勾配注意

手洗器排水ホースがたるまないように固定する

手洗器から異音発生のおそれがあります。



5 セットタンク

「セットタンク」の部材を使用

1 セットタンクを取り付ける

① カバーを取り出しておく

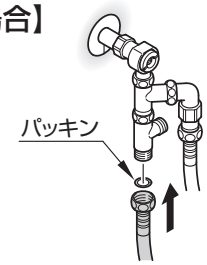
② セットタンクを大便器にセットする

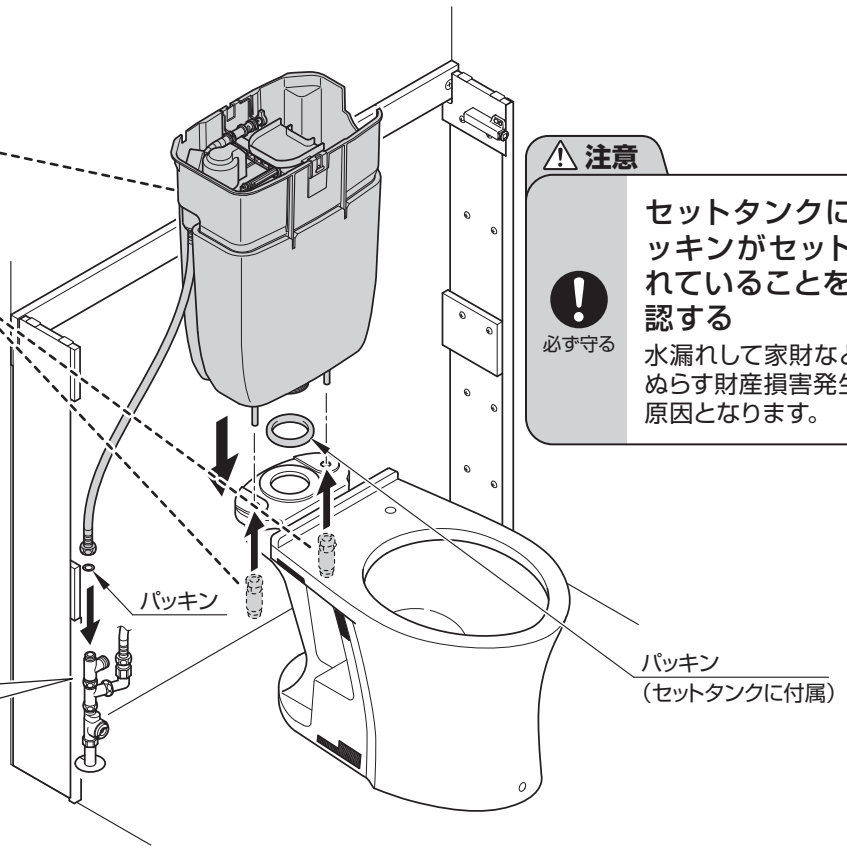
③ 固定ナットでセットタンクを固定する

参照 取り付けかたは、P46を参照ください。

④ セットタンクの給水ホースを分岐金具に取り付ける

【壁給水の場合】





⚠ 注意

必ず守る

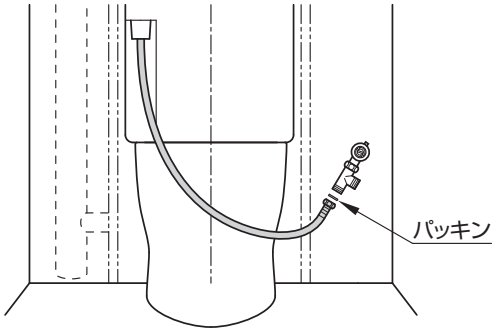
セットタンクにパッキンがセットされていることを確認する

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

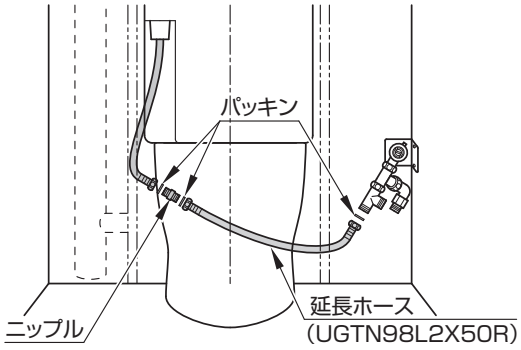
5 セットタンク（つづき）

立管が左にある場合

【給水新設の場合】



【既存給水流用の場合】



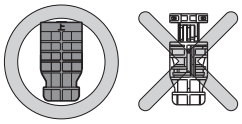
固定ナットの取り付けかた

⚠ 注意

必ず守る

セットタンクを固定ナット(黒)以外で固定しない

水漏れするおそれがあります。

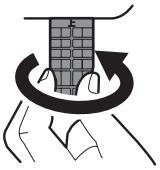


左右の固定ナットを確実に締める

左右の固定ナットがしっかり締まっていないと、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

固定ナットを手締めで回らなくなるまでかたく締め付けます。

※再度、左右が確実に締まっていることを確認してください。



⚠ 注意

工具使用禁止

固定ナットを締め付けるときは必ず手で行う

工具を使用すると破損するおそれがあります。

6 コアキャビネット(後ろ抜き／左右抜き)

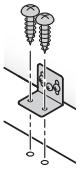
「側板・後横桟部、前板セット」の部材を使用

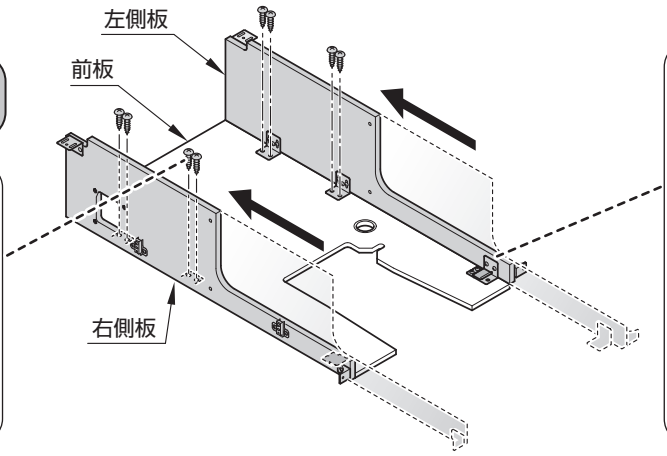
1 前板と側板（コアキャビネット用）を組み立てる

ポイント

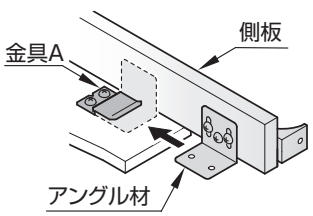
ねじは手締めで行うこと

② 同梱のねじで下穴(8カ所)に固定する





① 側板を下からスライドさせ、アングル材を金具Aに差し込む



6 コアキャビネット(後ろ抜き／左右抜き)(つづき)

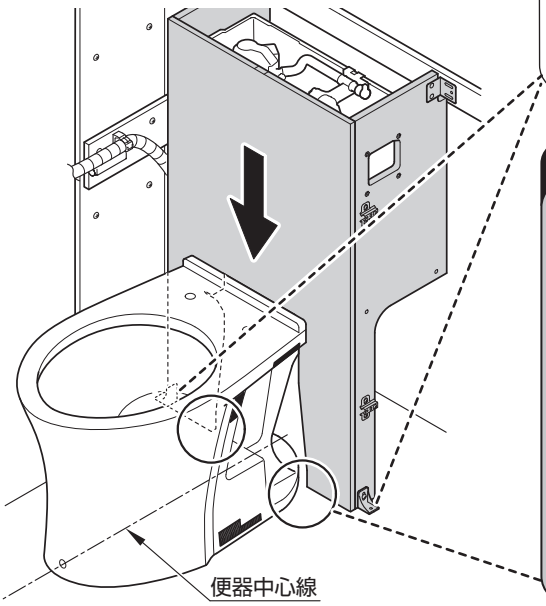
2 コアキャビネットを設置する

① コアキャビネットを差し込む

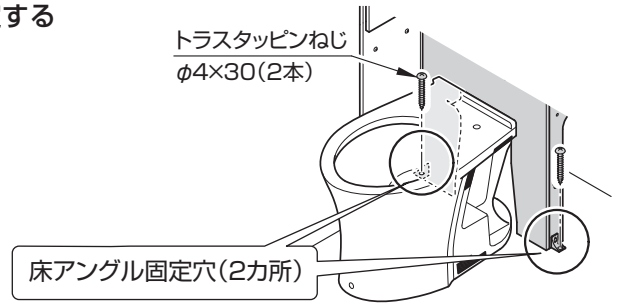
ポイント

便器を少し前に出しておく

② 中心線に合わせて便器を前板に押し当てる

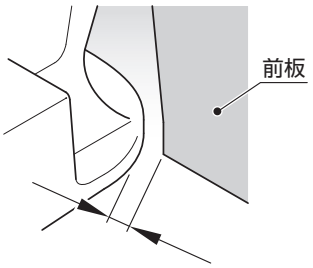


③ 便器と前板の左右のすき間が同じ寸法になっていることを確認し、床に下穴(φ3)をあけ、同梱のねじで床アングルを固定する



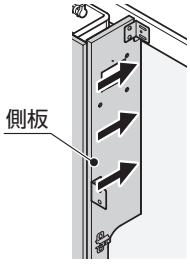
ポイント

便器と前板の左右のすき間を均等にする

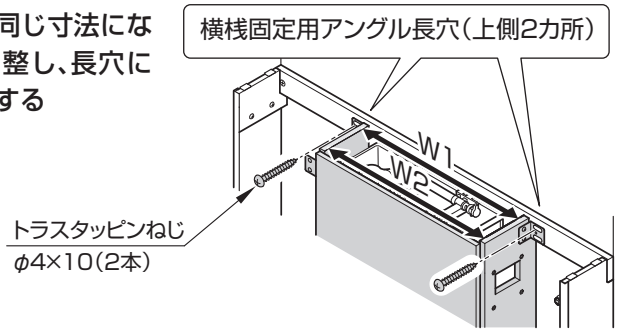


すき間がないように

後壁と側板(コアキャビネット用)のすき間がないように



④ W1、W2が同じ寸法になるように調整し、長穴にねじで固定する

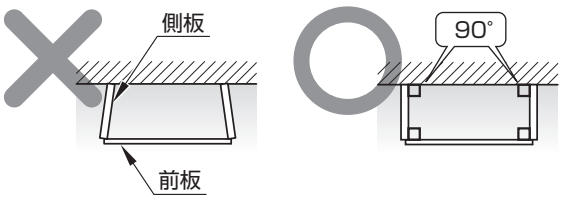


ポイント

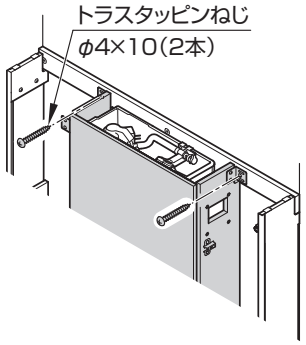
左右均等に

W1、W2が 同じ寸法でない場合は、長穴のねじをゆるめ、再度調整し直す

コアキャビネットの四隅が直角になっていること



⑤ 再度、W1、W2の寸法を確認し、丸穴にねじで固定する

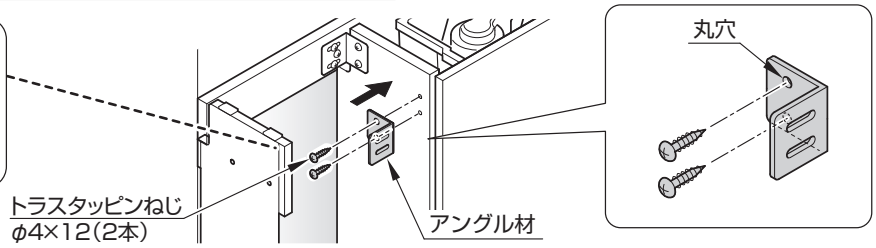


ポイント

ねじは手締めで行うこと

収納タイプの場合

⑥ 手洗器側の側板にアングル材を同梱のねじで取り付ける
まるごと収納タイプの場合は不要です

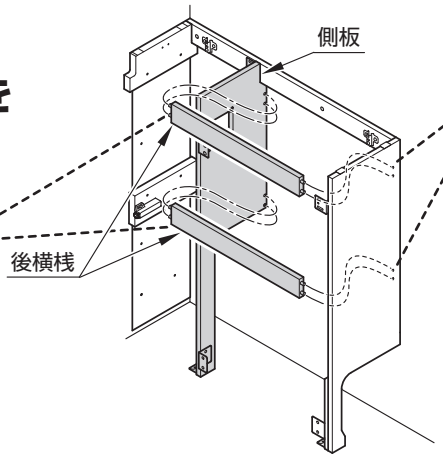


6 コアキャビネット(立管対応の場合)

「側板・後横桟部」の部材を使用

図はタンクを省略しています。

1 側板(コアキャビネット用)を取り付ける

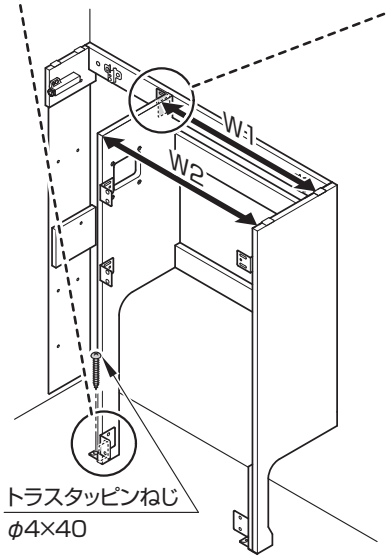


① 右側板の穴に後横桟のダボを差す

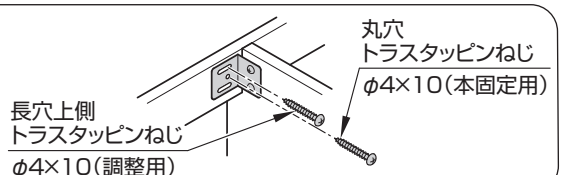
② 左側板の穴に後横桟のダボを差す

ポイント

③ W1とW2が同じ寸法になるよう調整し、床に下穴(φ3)をあけ、アングルを固定する



④ 後横桟と側板にすき間がないことを確認し、長穴にねじで固定する

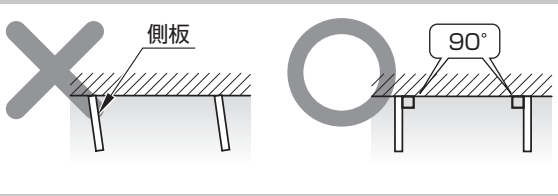


ポイント

左右均等に

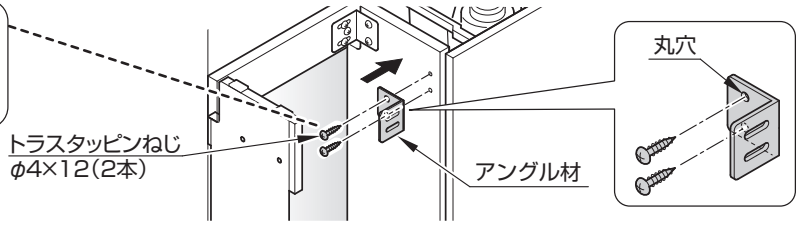
W1、W2が同じ寸法でない場合は、長穴のねじをゆるめ、再度調整し直す

コアキャビネットの四隅が直角になっていること



⑤ 再度、W1、W2の寸法を確認し、丸穴にねじで固定する

⑥ 手洗器側の側板にアングル材を同梱のねじで取り付ける
まるごと収納タイプの場合は不要です

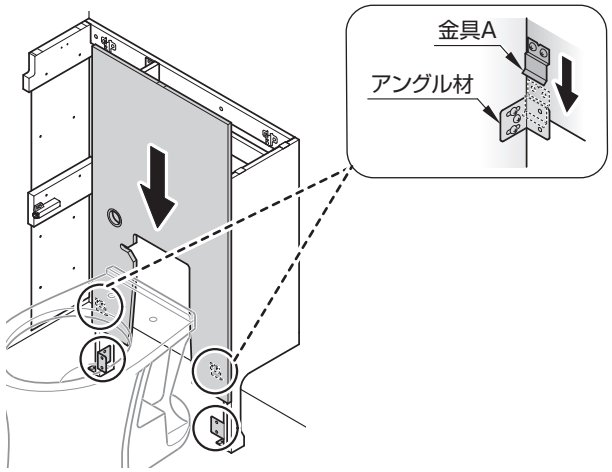


2 前板を取り付ける

① 金具Aをアングル材にひっかける

ポイント

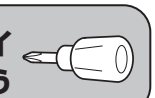
便器を少し前に出しておく



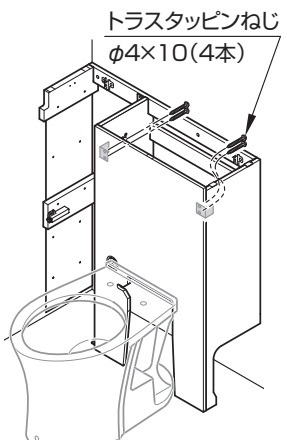
② ねじで前板を固定する

ポイント

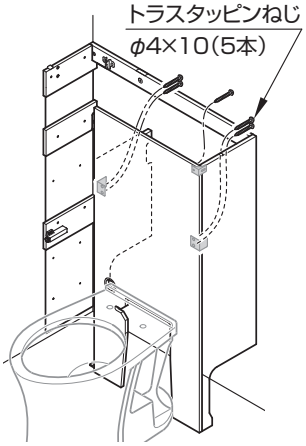
スタビードライバーでおこなう



【収納タイプ】



【まるごと収納タイプ】



7 大便器の本固定

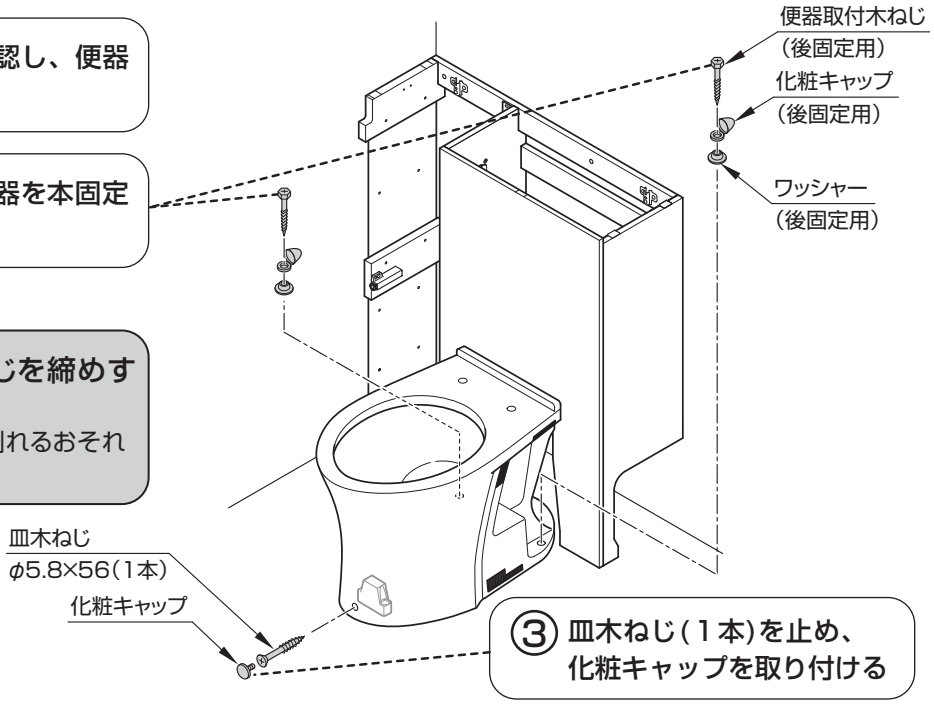
① 便器の中心位置を確認し、便器を前板に押し当てる

② 木ねじ（2本）にて便器を本固定する

注 意

手締めにて行い、木ねじを締めすぎない

強く締めすぎると、便器が割れるおそれがあります。



③ 皿木ねじ（1本）を止め、化粧キャップを取り付ける

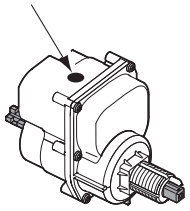
8 洗浄レバー

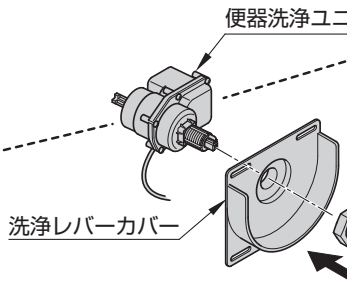
「大便器キャビネット部材、便器洗浄ユニット、セットタンク」の部材を使用

1 洗浄レバー

便器洗浄ユニットに同梱の説明書とは取り付け向きが異なります。
ワッシャーA、ワッシャーBは使用しません。

●印を横（奥側）に向ける

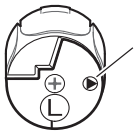




① 便器洗浄ユニットに洗浄レバーカバーを取り付ける

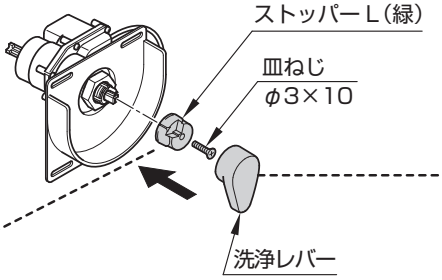
② ナットをしっかり締め付ける

③ ▲印を横（奥側）にしてストッパーL（緑）をはめ込み、同梱のねじで固定する



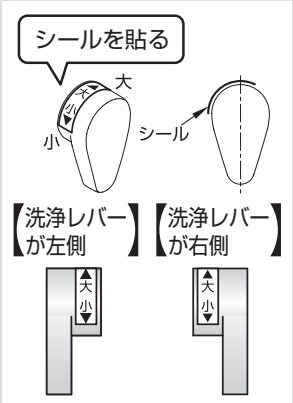
注 意

ガタツキがないようにしっかり締め付けること

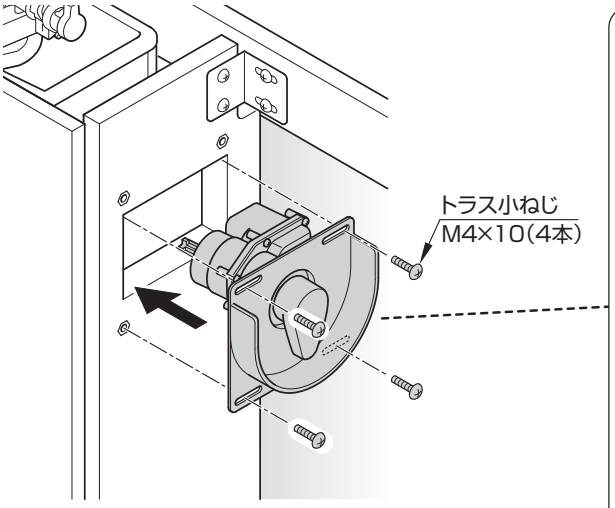


④ 「カチッ」と音がするまで洗浄レバーを差し込む

シールの貼り付け



8 洗浄レバー(つづき)



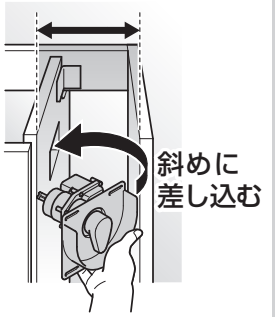
図は右側板に取り付けた場合

	洗浄レバー取付部材	洗浄ユニット●印の向き
立管がない場合	右側板	奥壁側
立管が左にある場合		
立管が右にある場合	左側板	手前側

⑤ 便器洗浄ユニットをコアキャビネット側板の穴に差し込み、洗浄レバーカバーを同梱のねじで固定する

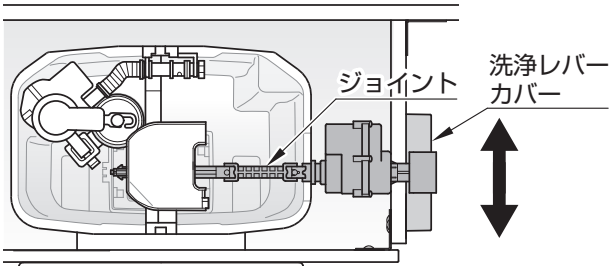
ポイント

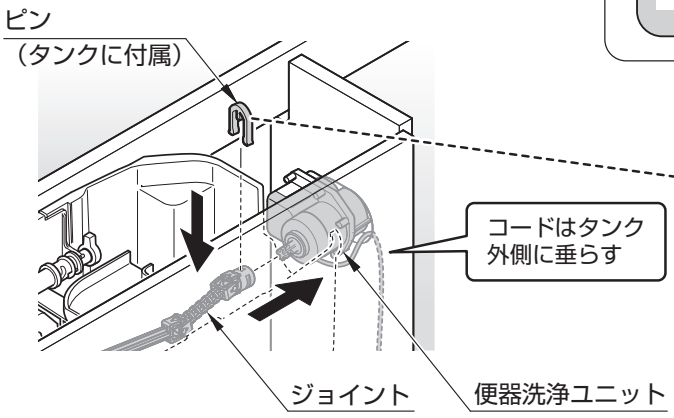
間口が狭い場合



ポイント

ジョイントがまっすぐになるように、洗浄レバーカバーの位置を調整する

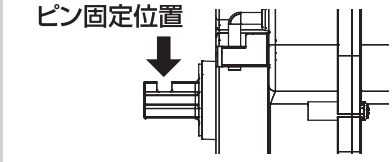




⑥ 便器洗浄ユニットのピン固定位置までジョイントを差し込み、ピンで固定する

ポイント

ジョイントが抜けないことを確認する



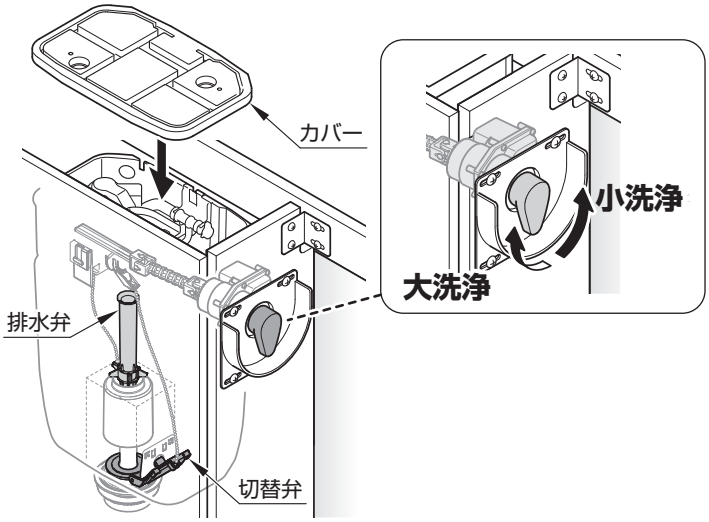
⑦ レバーと排水弁の作動を確認する

作動確認

❶ レバーが「大」側、「小」側へ正常に作動すること

❷ レバーを「大」側に回したときは、排水弁のみが引き上がること

❸ レバーを「小」側に回したときは、排水弁・切替弁が引き上がること



⑧ カバーを取り付ける

9 ウォシュレット

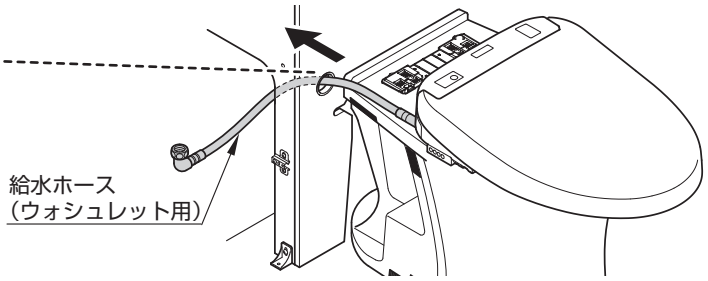
「ウォシュレット、便器洗浄ユニット」の部材を使用

1 ウォシュレットを設置する

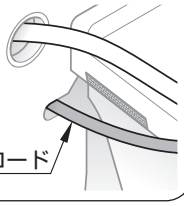
参照 詳しくは、ウォシュレット施工説明書を参照してください。
作業がしやすいように、ウォシュレット手前に引き出しておく。

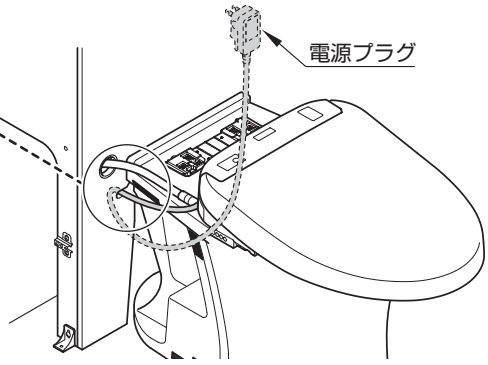
2 ウォシュレット給水ホースを前板丸穴、コード類を前板切欠きに通す

① ウォシュレット給水ホースを前板丸穴に通す



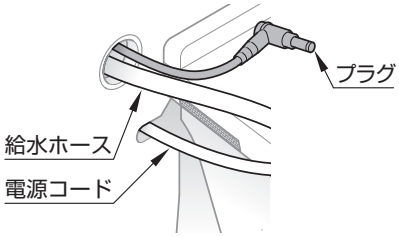
② 電源プラグを前板切り欠きに通し、キャビネット内のタンク下・排水管の下を通す



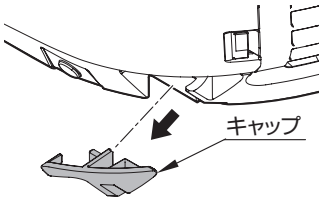


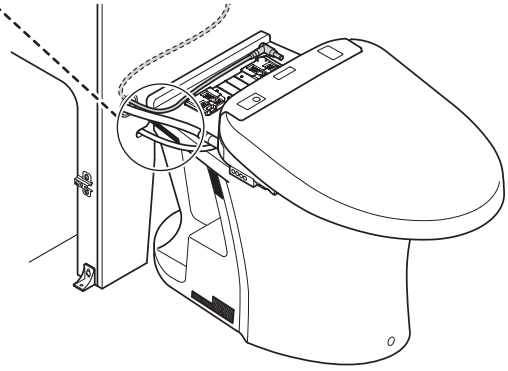
③ プラグ（便器洗浄ユニット）を接続する

❶ プラグを前板丸穴から取り出す

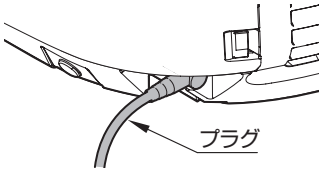


❷ キャップを外す

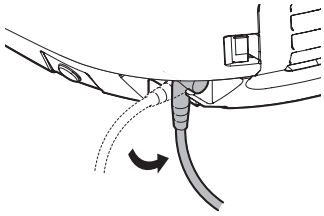




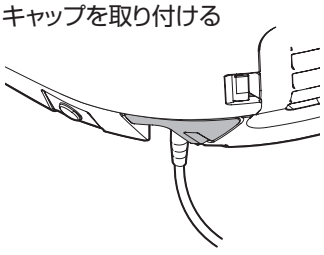
❸ プラグを横向きに**根元まで確実に差し込む**

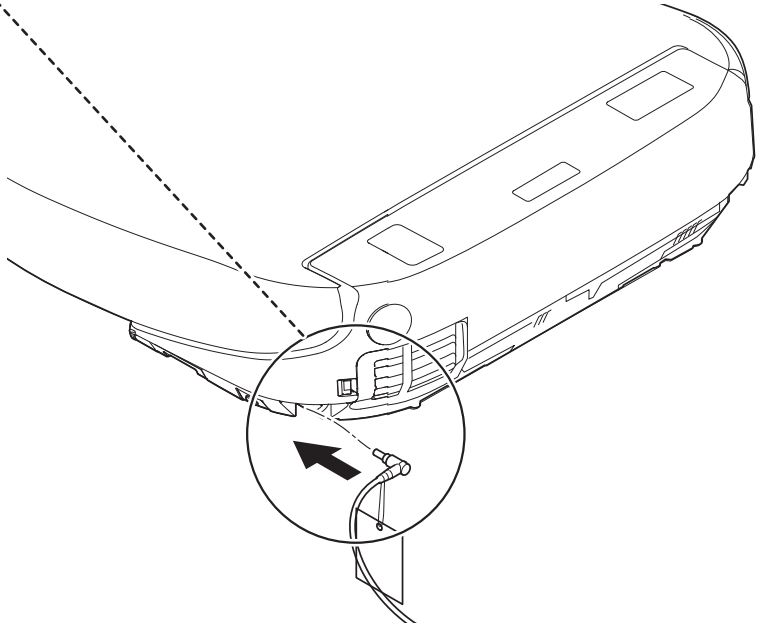


❹ プラグを下向きに回す



❺ キャップを取り付ける





9 ウォシュレット(つづき)

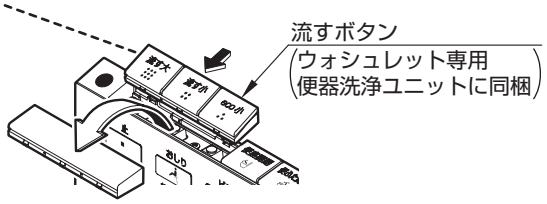
3 リモコンの設定と作動確認

① ウォシュレットの電源プラグをコンセントに差し込む
※ノズルがいったん出て戻る初期動作を行うか確認する

② 流すボタンを取り付ける
(流すボタン取付説明書参照)

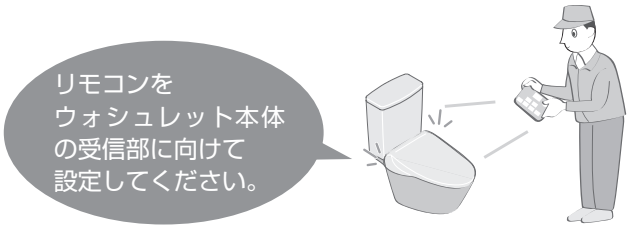
ポイント

リモコンには流すボタンが取り付いていません。必ず取り付けてください。



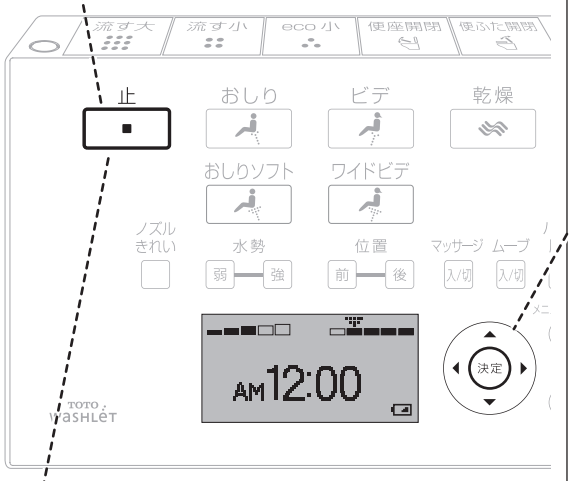
③ 止 ■ 10秒以上押す
※リモコンの液晶が下図のようになります。

便器洗浄モード 1/10
1. 便器洗浄モード 1
2.便器洗浄モード 2
▲▼で選ぶ⇒[決定]押す



注 意

モード設定はウォシュレット本体を取り付け、電源を入れた後に行ってください。
※取り付けずにモード設定をしても設定はされておりません。



※機種によっては、ボタンのレイアウトやリモコンのデザインなどが異なります。

④ 決定 ▲▼で「便器洗浄モード8」を選び 決定 を押す
ウォシュレット本体から電子音が1回鳴る

便器洗浄モード 8/10
7. 便器洗浄モード 7
8. 便器洗浄モード 8
▲▼で選ぶ⇒[決定]押す

↓

便器洗浄モード 8 に設定しました

↓ ※電子音が鳴ります
ピーッ

確認
決定後、下記表示になっているか確認してください

8. 便器洗浄モード 8 ◀

◀が表示されます

左ハンドルの場合

決定 ▲▼で「便器洗浄モード9」を選び 決定 を押す
ウォシュレット本体から電子音が1回鳴る

便器洗浄モード 9/10
8. 便器洗浄モード 8
9. 便器洗浄モード 9
▲▼で選ぶ⇒[決定]押す

↓

便器洗浄モード 9 に設定しました

↓ ※電子音が鳴ります
ピーッ

確認
決定後、下記表示になっているか確認してください

9. 便器洗浄モード 9 ◀

◀が表示されます

⑤ 止 ■ 押す → 設定完了

⑥ 作動を確認する
※連続して押すと作動しません。約10秒たってからもう一度ボタンを押してください。

重要

流す大 → 洗浄レバーが大側に回転する
流す小 → 洗浄レバーが小側に回転する
eco小 → 洗浄レバーが小側に回転し約3秒間停止後戻る

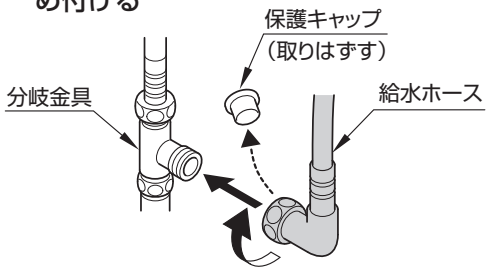
■正しく作動しない場合は、再度手順③から設定してください

9 ウォシュレット(つづき)

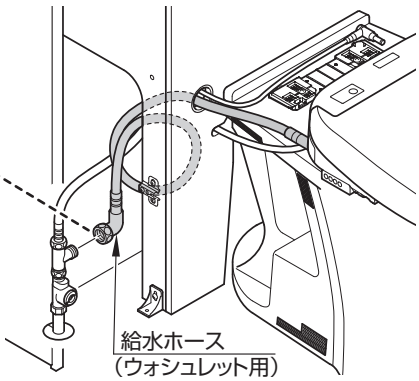
4 ウォシュレット給水ホースを接続する

【図は床給水の場合】

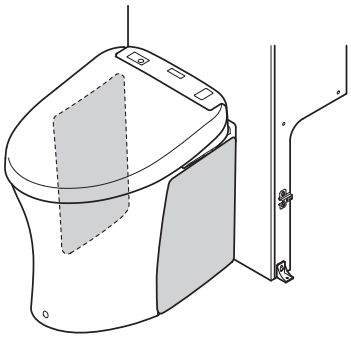
① 分岐金具に給水ホースの袋ナットを締め付ける



※給水ホースを折り曲げたり、つぶしたりしないでください。

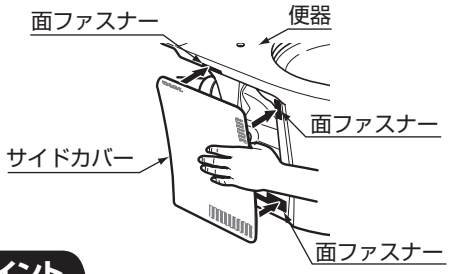


5 サイドカバーを取り付ける

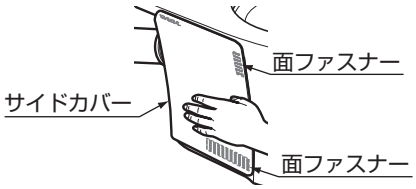


取り付けかた

❶ サイドカバーの面ファスナーと便器の面ファスナーの位置を合わせて取り付ける。

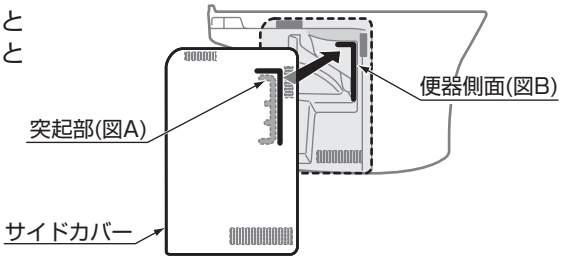


❷ 面ファスナー部(3カ所)をしっかり押さえてサイドカバーが外れないことを確認する。



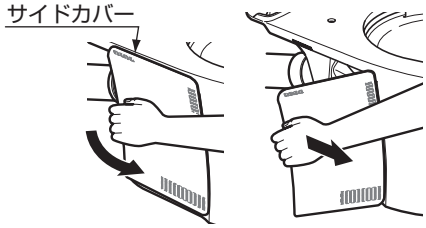
ポイント

サイドカバーの裏面突起部(図A)と便器側面(図B)の位置を合わせると容易に取り付けることができます。



取り外しかた

❶ サイドカバーの後方を手前方向に引っ張り外す。



10 固定扉

「扉セット」の部材を使用

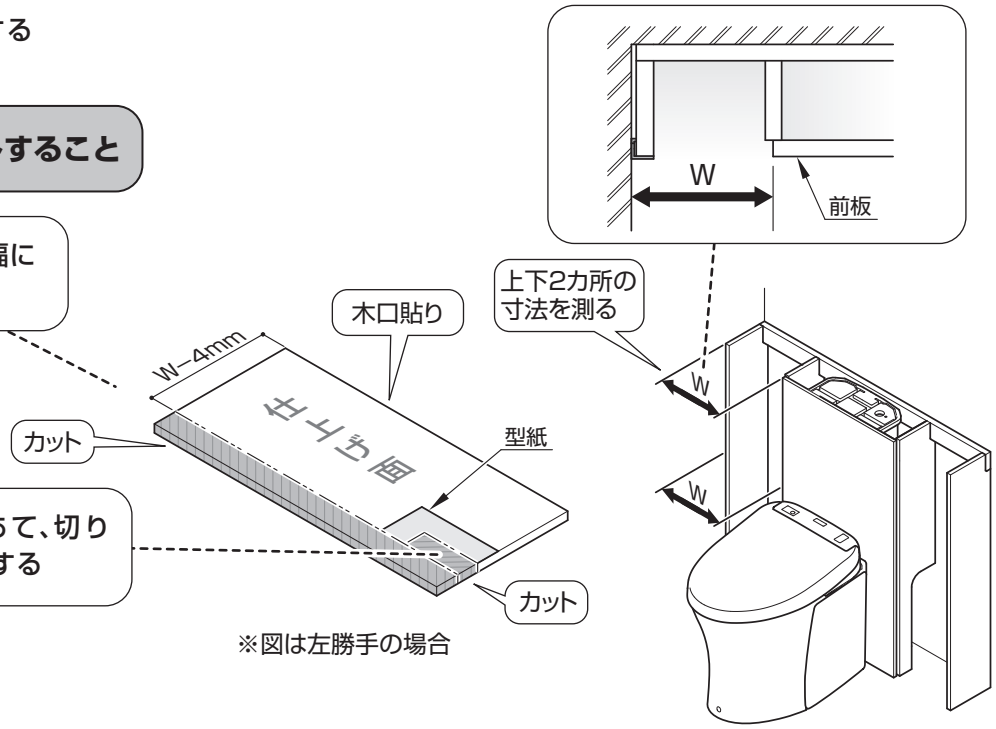
1 固定扉をカットする

ポイント

仕上げ面を上にしてカットすること

① 固定扉をW−4mmの幅にカットする

② 型紙(本書に同梱)をあて、切り欠きをけがいてカットする



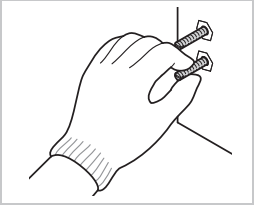
※図は左勝手の場合

2 すり割り付ねじ、木口キャップを取り付ける

② すり割り付ねじを取り付ける

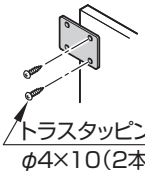
ポイント

手で締める(工具は使用しない)



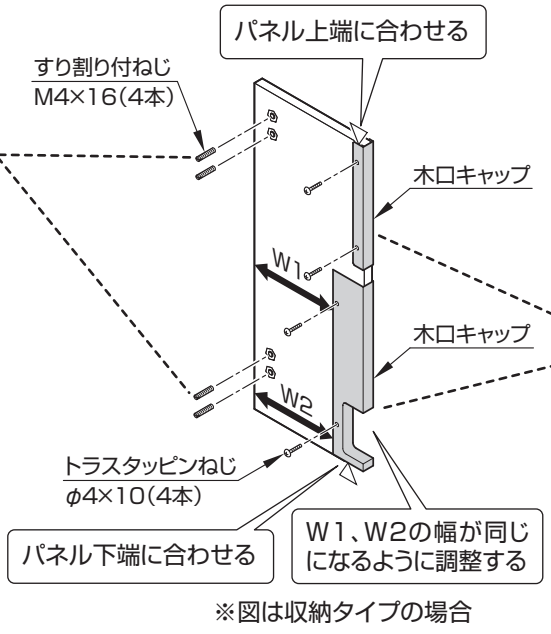
【まるごと収納タイプの場合】

③ 平板金を同梱のねじで取り付ける



ポイント

ねじは手締めで行うこと



※図は収納タイプの場合

① 木口キャップをはめて同梱のねじで取り付ける

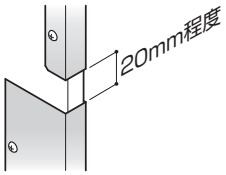
ポイント

ねじは手締めで行うこと

ポイント

すき間があるか確認

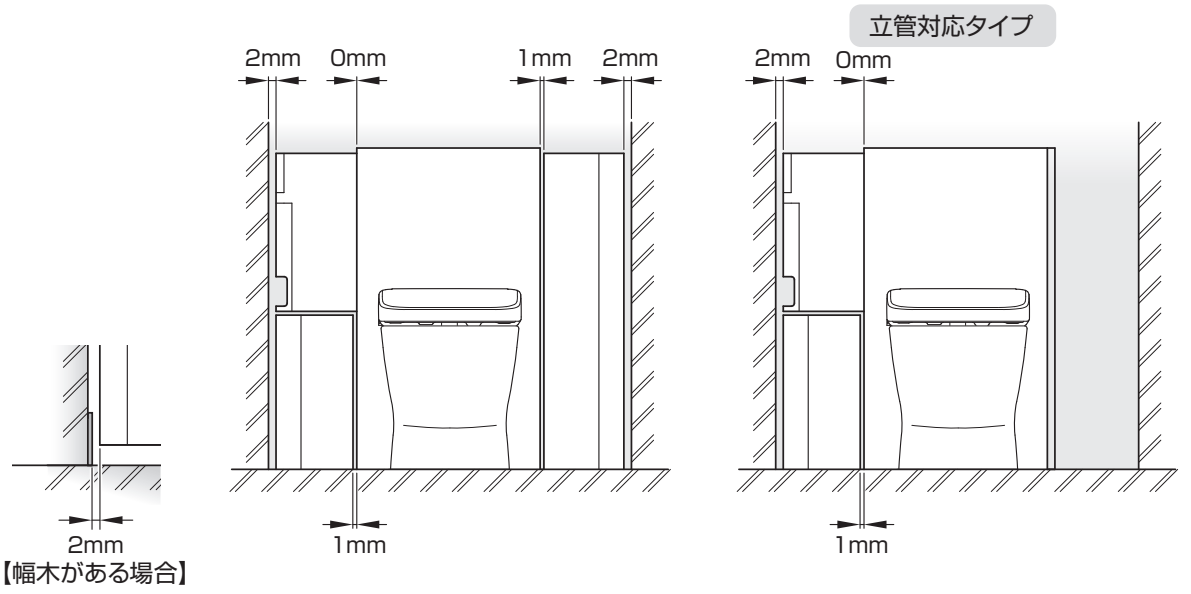
上下の木口キャップの間には、カウンターが当たる為、すき間ができます。

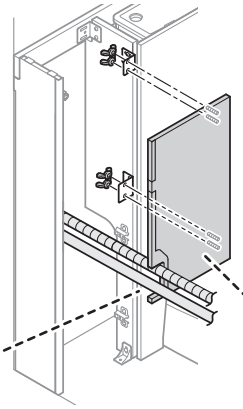


10 固定扉（つづき）

3 固定扉を取り付ける

仕上げ状態（目安）





※図は収納タイプの場合

① 手洗器給・排水ホースを、カウンター部パネルの切り欠きに通す

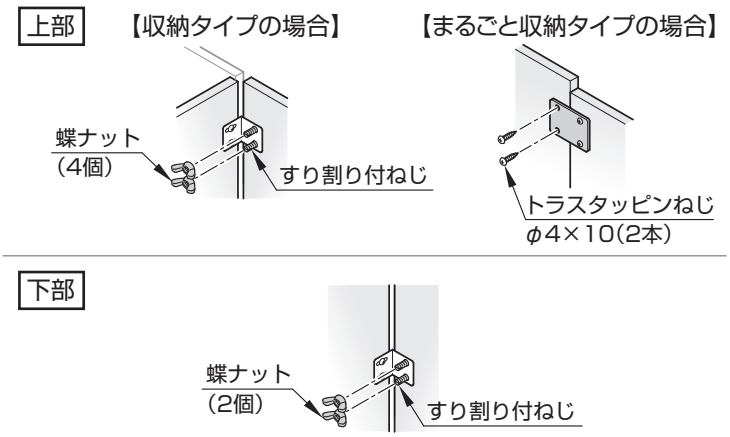
※前板・固定扉に養生シートがある場合は、シートをはがしてください。

② 固定扉を取り付ける

ポイント

ねじは手締めで行うこと

固定方法

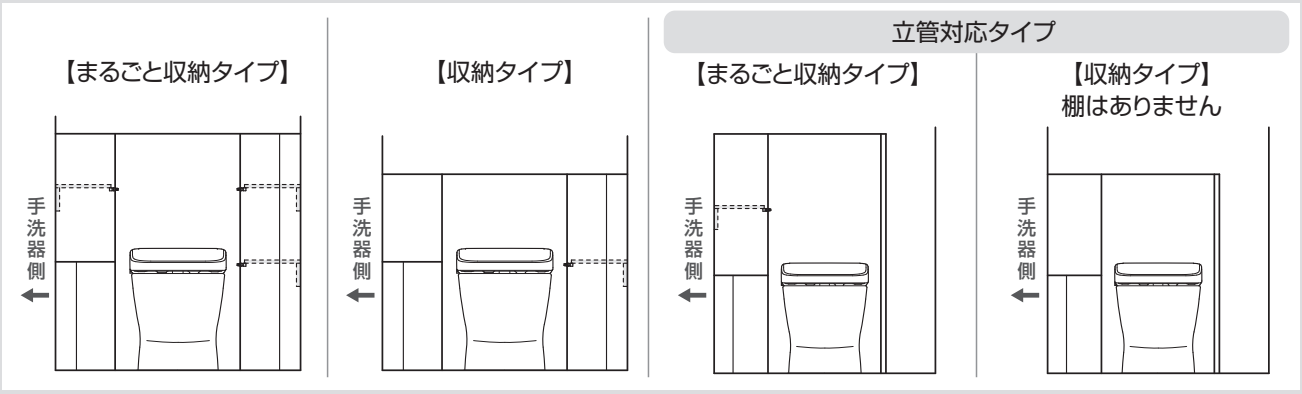


11 棚板・扉

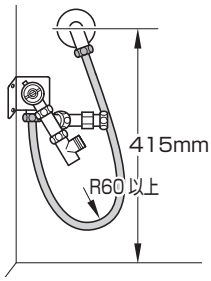
「大便器キャビネット部材、扉セット」の部材を使用

1 棚を取り付ける

棚板設置場所

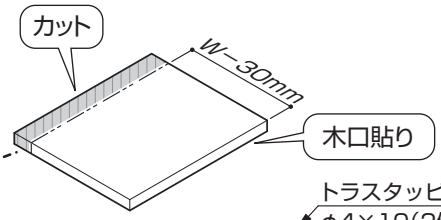


※給水位置が床仕上げ面から415mm以上の場合は、
棚板を取り付けることができません。



※図は収納タイプの場合

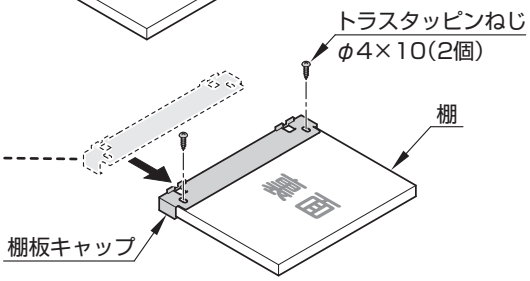
① 棚をW－30mmの幅にカットする

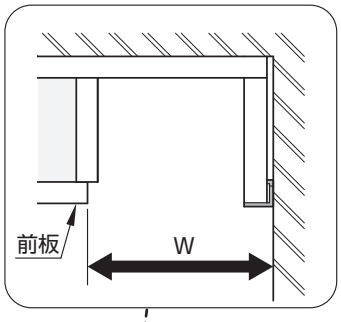


② 棚板キャップをかぶせ同梱のねじで取り付ける

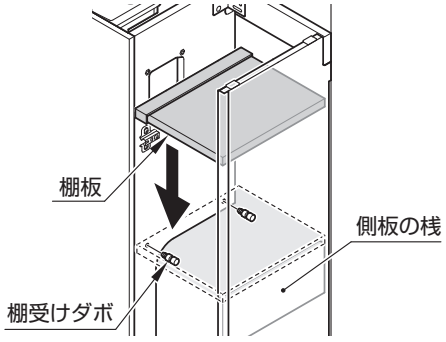
ポイント

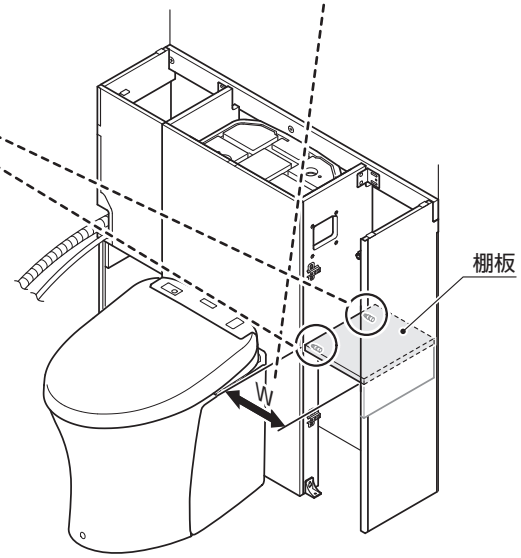
ねじは手締めで行うこと





③ コアキャビネットの側板に棚受ダボを取り付け、棚板をセットする





11 棚板・扉（つづき）

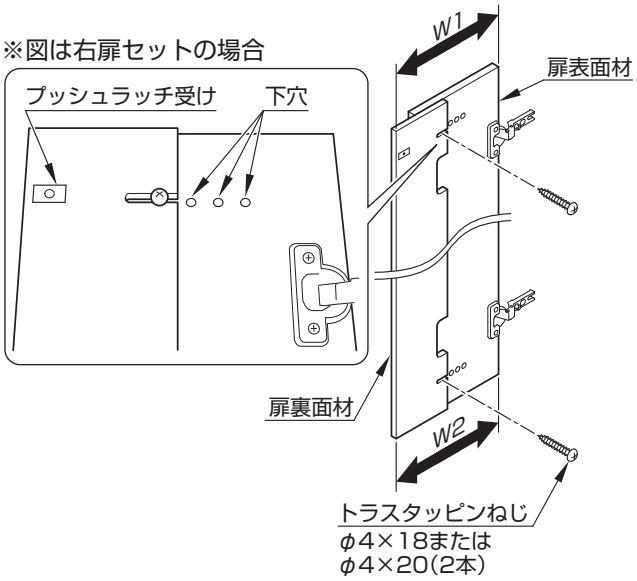
2 扉を組み立てる

① 扉表面材と扉裏面材を重ね合わせ、W1・W2・W3・W4が【W−3mm】になるように調整する。下穴にねじで固定する
※養生シートがある場合は、取り付け前にシートをはがしてください。

ポイント

- **幅木がある場合は、幅木の厚さ分を引いてください。W−(3mm+幅木の厚さ)**
- **ねじは手締めで行うこと**
  ねじを回しすぎると、ねじがきかなくなります。

※図は右扉セットの場合



ポイント

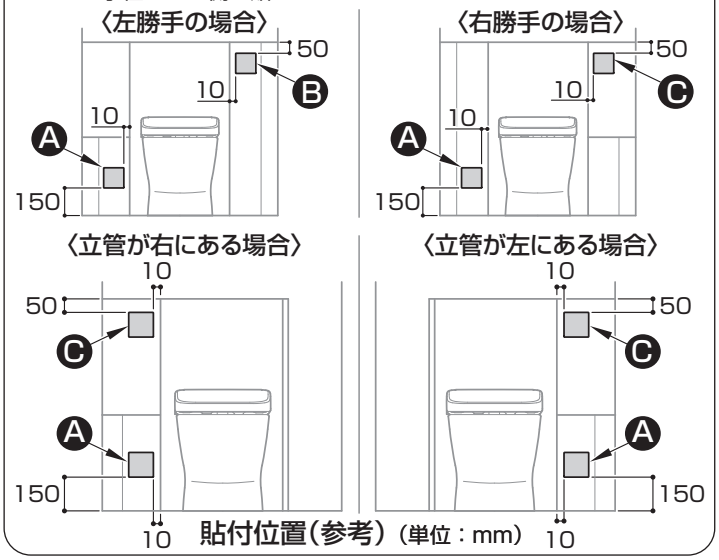
真ん中のねじは「5 部材の取り付け②」で固定する

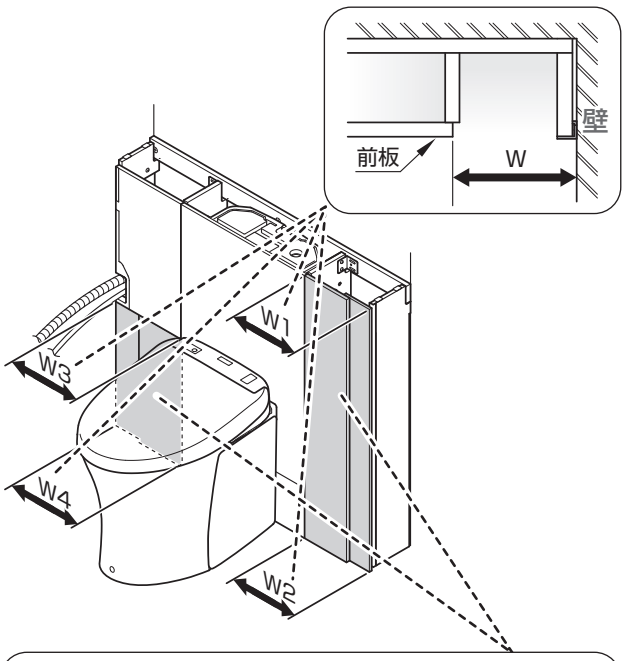
トラスタッピンねじφ4×18またはφ4×20(1本)は「5 部材の取り付け②」で使用します。
紛失しないようにしてください。

② 貼付面は水拭きし、乾燥後にラベルを貼り付ける

Ⓐ 止水栓ラベル(GH04207V) Ⓑ 便器洗浄ラベル(GH04208V) Ⓒ 便器洗浄ラベル(GH04209V)

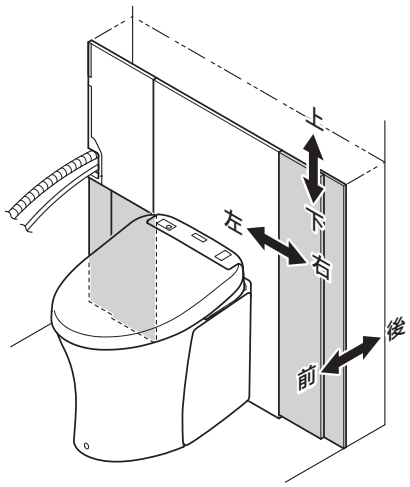
止水栓がある側に貼る



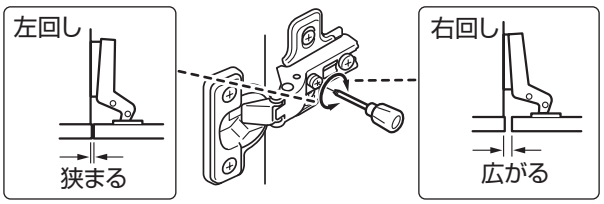


③ 扉を側板の丁番に組み付けて、左右のすき間を確認する

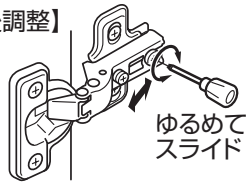
扉の調整方法



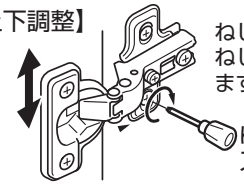
【左右調整】



【前後調整】



【上下調整】



※プッシュラッチ部も前後調整することができます。

手洗器
Mサイズの場合

12-M 手洗器キャビネット、カウンター 58
13-M 配管ブラケット 63
14-M 手洗器 64

12-M 手洗器キャビネット、カウンター

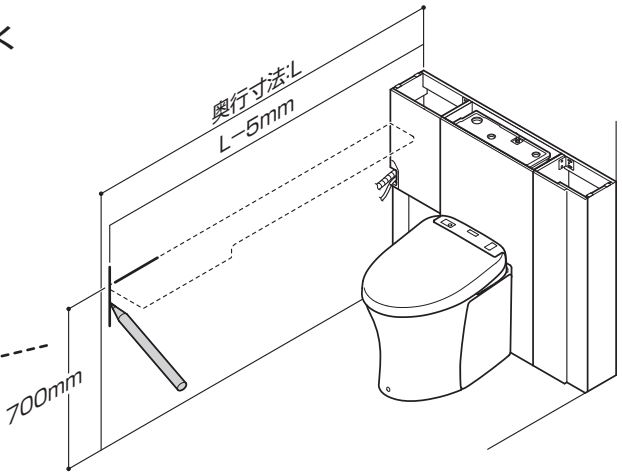
「手洗器キャビネット部材、手洗器カウンター部材」の部材を使用

1 カウンターの取り付け位置をけがく

① 奥行寸法：Lを決める

参照 詳しくは、P.6「設置寸法について」を参照ください。

② 次の位置をけがく
- 手洗器キャビネット端：L−5mm
- カウンター上端：床から700mm



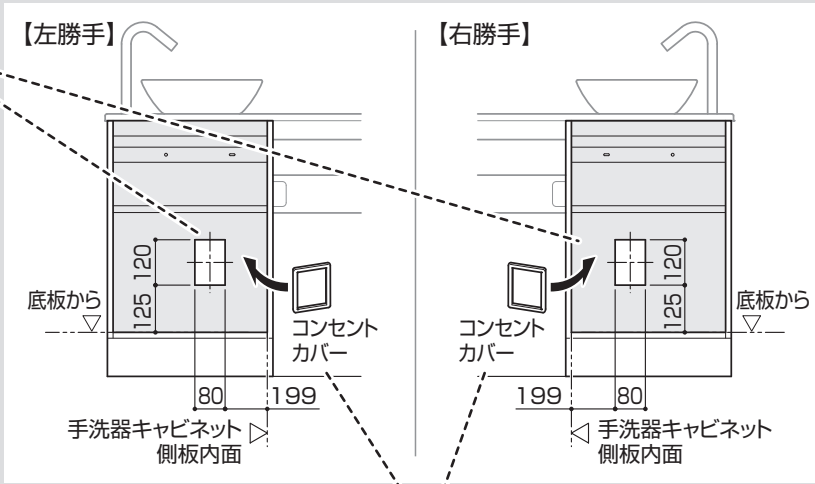
2 手洗器キャビネットを加工する【電気温水器付自動水栓の場合】

※あらかじめ扉を外しておくと、施工がしやすくなります。

① 手洗器キャビネットの背板に、コンセント用の穴を開口する

小型のこぎりを使用すると簡単にあけられます。

コンセント用　穴加工位置　（単位：mm）



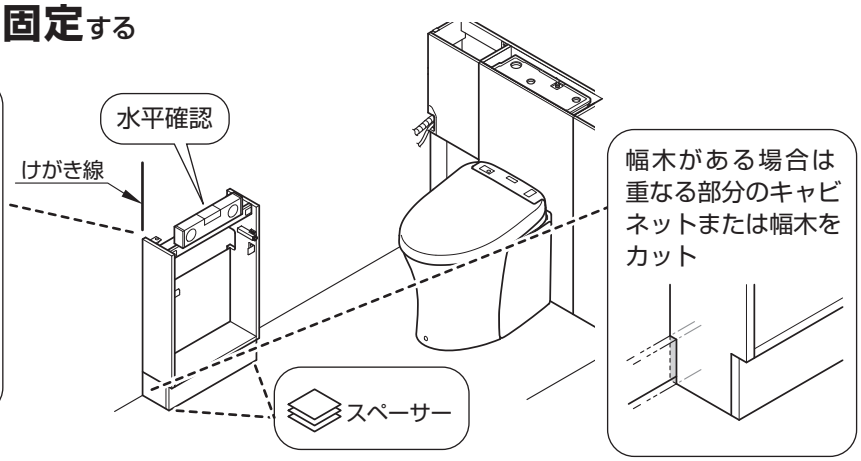
② コンセントカバーを貼り付ける

3 手洗器キャビネットを仮固定する

① けがき位置に手洗器キャビネットを仮置きし、水平を確認する

ポイント

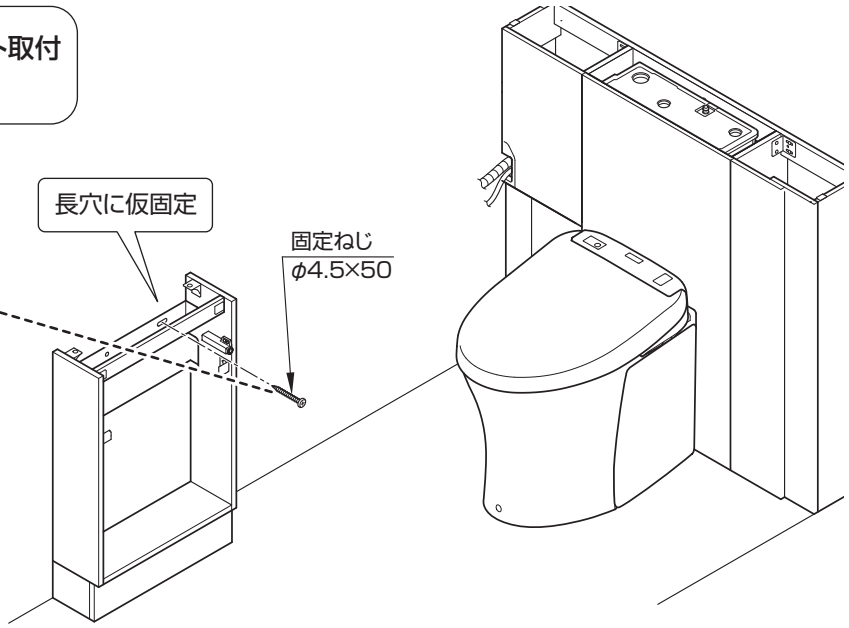
水平が出ていない場合
付属のスペーサーを入れ調整する



12-M 手洗器キャビネット、カウンター（つづき）

② 壁裏補強ありの場合、壁にキャビネット取付穴位置をけがき、下穴（φ4）をあける

③ 同梱のねじで仮固定する

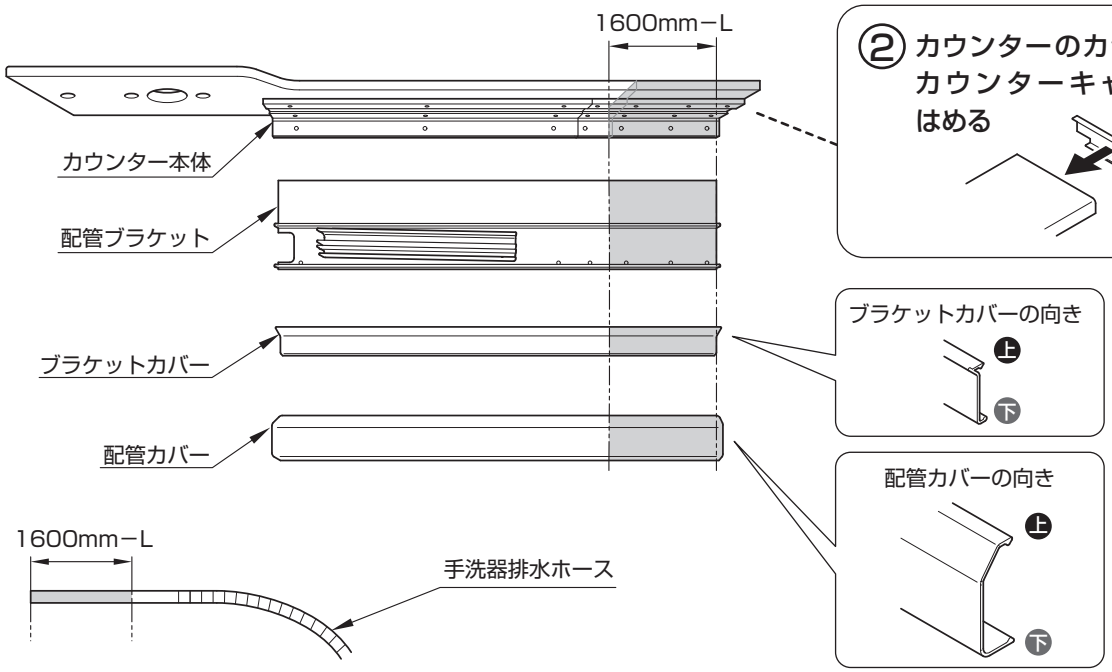


4 カウンター類を加工する

【カウンターをカットする場合】

① カウンター本体、配管ブラケット、配管カバー、ブラケットカバー、手洗器排水ホースをカットする

L：奥行寸法（奥壁からカウンター先端までの長さ）



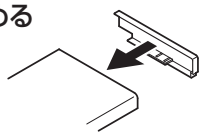
⚠ 注意

必ず守る

カットした面は滑らかに仕上げる

お客様の手が触れ、けがをするおそれがあります。

② カウンターのカット面にカウンターキャップをはめる



ブラケットカバーの向き

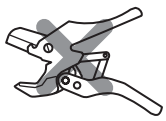
配管カバーの向き

⚠ 注意

必ず守る

手洗器排水ホースをカットする際、押切タイプのパイプカッターは使用しない

手洗器排水ホースの断面が変形し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



ポイント

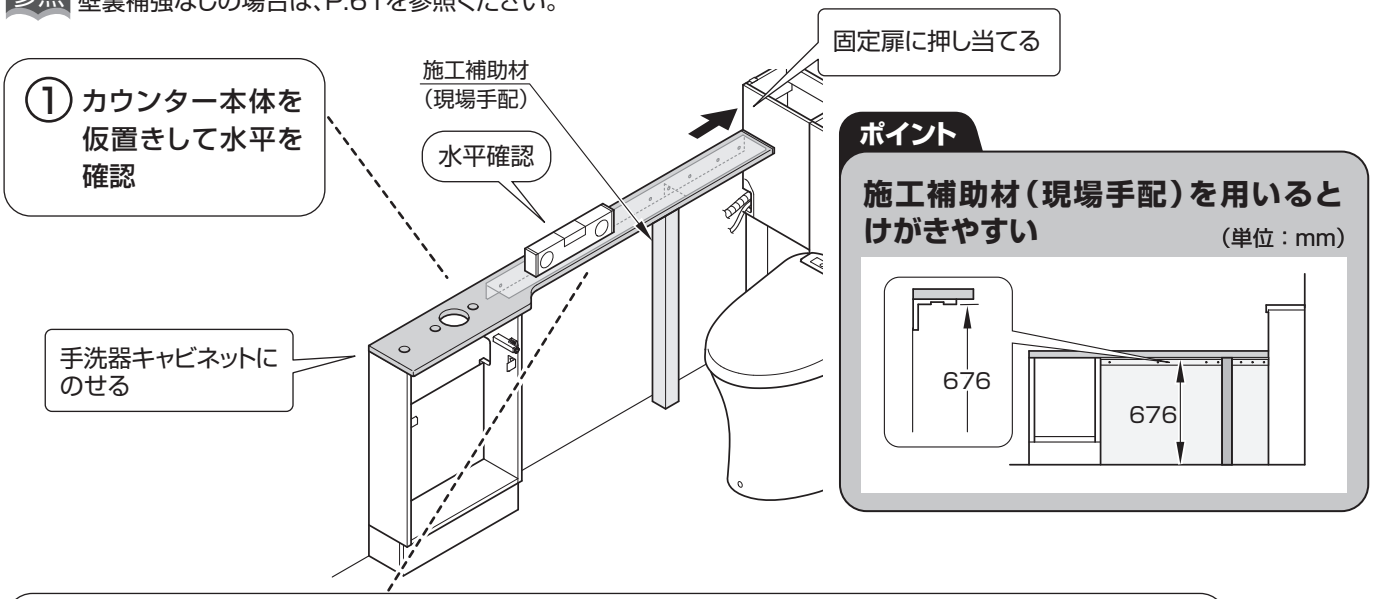
手洗器排水ホースは斜めにカットしない

12-M 手洗器キャビネット、カウンター（つづき）

5 手洗器キャビネット、カウンターを取り付ける

壁裏補強ありの場合

参照 壁裏補強なしの場合は、P.61を参照ください。



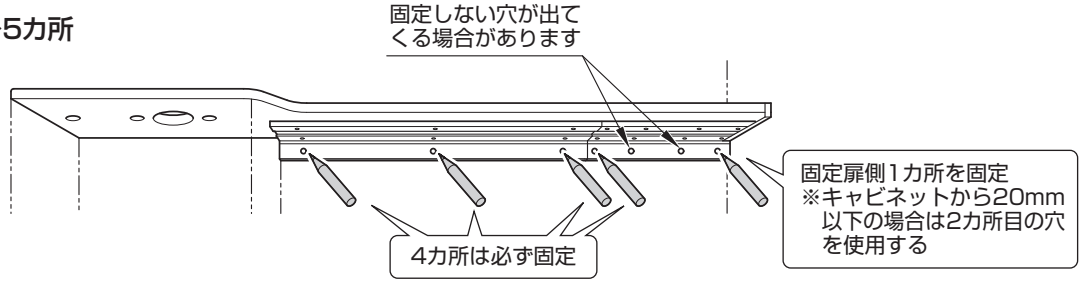
ポイント

施工補助材（現場手配）を用いるとけがきやすい

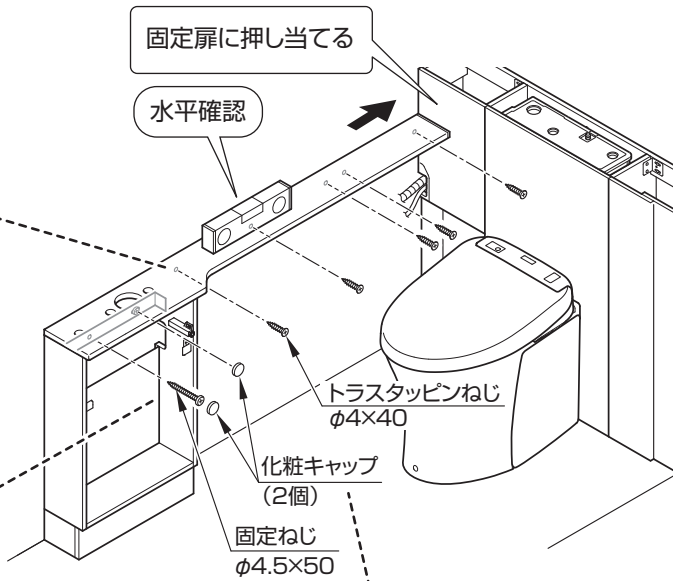
（単位：mm）

② 取付穴位置をけがき、下穴（φ3）をあける

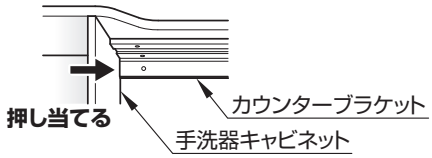
4〜5カ所



※固定用穴が5カ所以上ある場合、5カ所固定してください。



④ 手洗器キャビネットを下図のように調整し、同梱のねじで本固定する



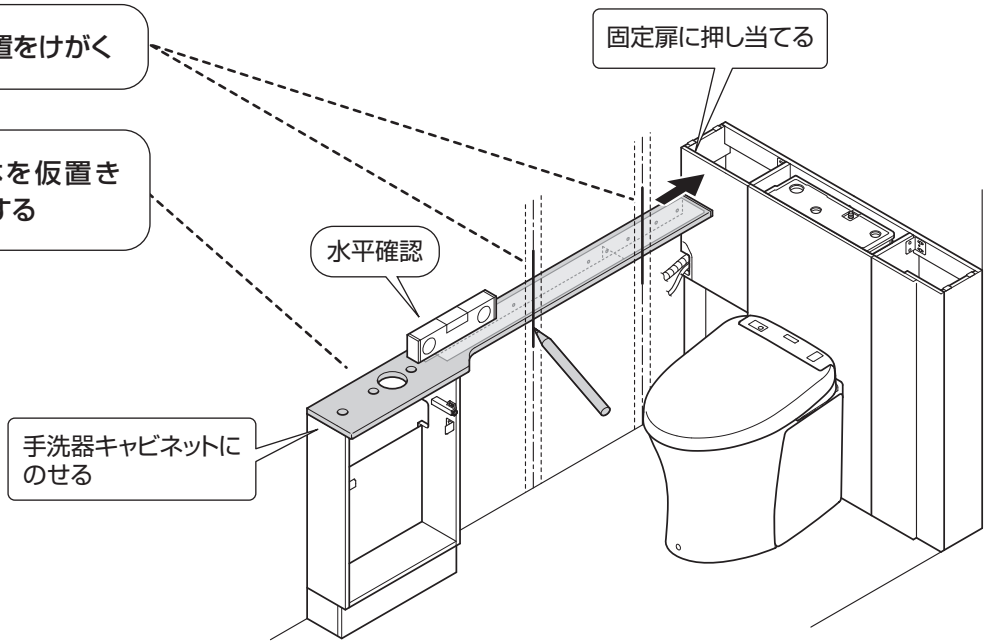
12-M 手洗器キャビネット、カウンター（つづき）

5 手洗器キャビネット、カウンターを取り付ける

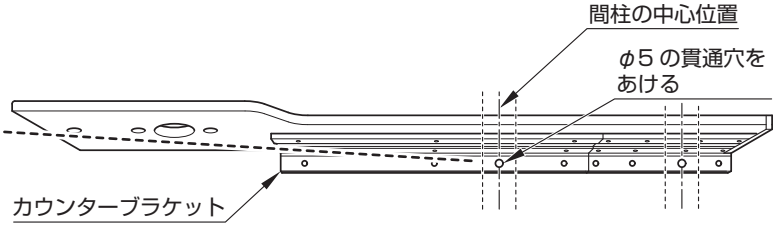
壁裏補強なしの場合

① 壁に間柱中心位置をけがく

② カウンター本体を仮置きして水平を確認する

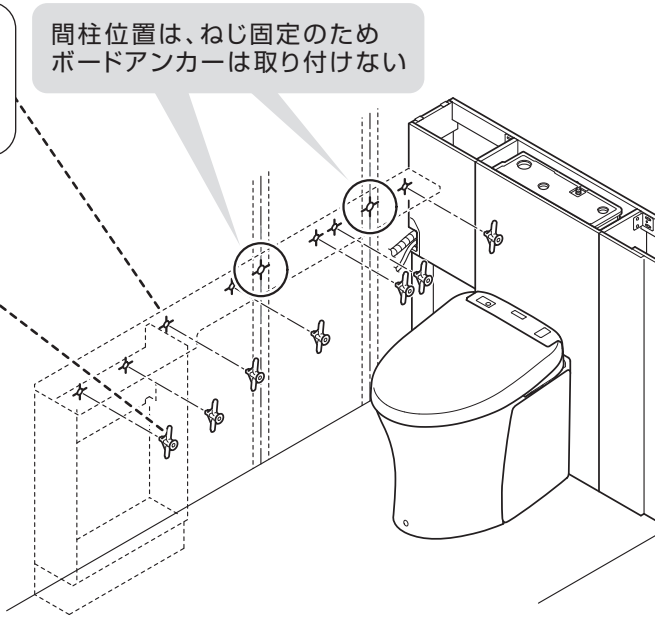


③ カウンターブラケットに間柱の位置をけがき、貫通穴（φ5）をあける



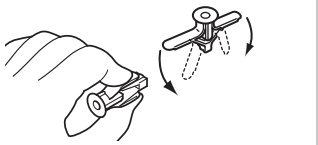
④ 壁に手洗器キャビネットとカウンターブラケットの取付位置をけがき、下穴（ねじ取付用：φ3、ボードアンカー用：φ9）をあける。

⑤ 壁にボードアンカー（オプション）を取り付ける



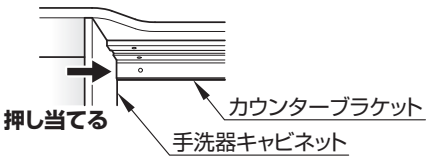
ポイント

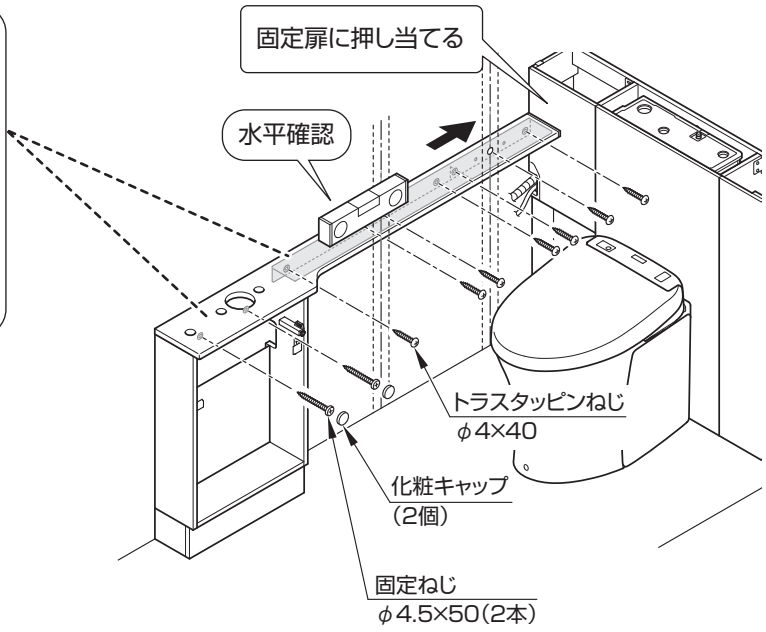
ボードアンカーは羽を折りたたんで差し込む



12-M 手洗器キャビネット、カウンター（つづき）

⑥ 手洗器キャビネットを下図のように調整し、同梱のねじで本固定する

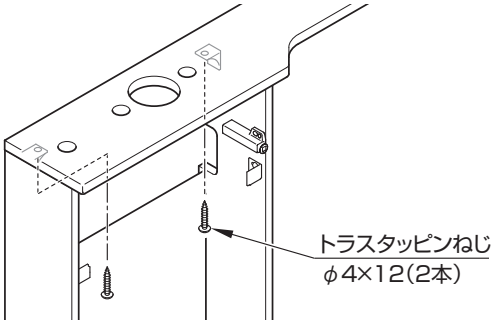




6 手洗器キャビネット、カウンターを連結する

ポイント

ねじは手締めで行うこと



13-M 配管ブラケット

「手洗器カウンター部材」の部材を使用

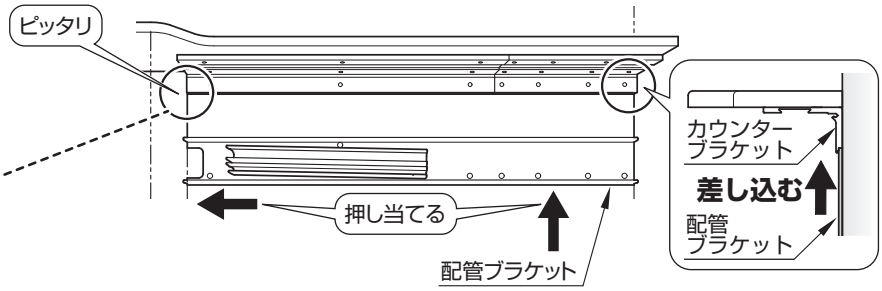
1 配管ブラケットを取り付ける

① 配管ブラケットをカウンターと手洗器キャビネットに押し当てる

ポイント

取り付け時の注意点

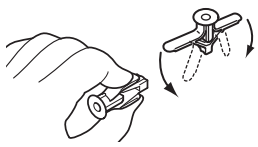
この位置がずれると正しい位置に取り付けができません。

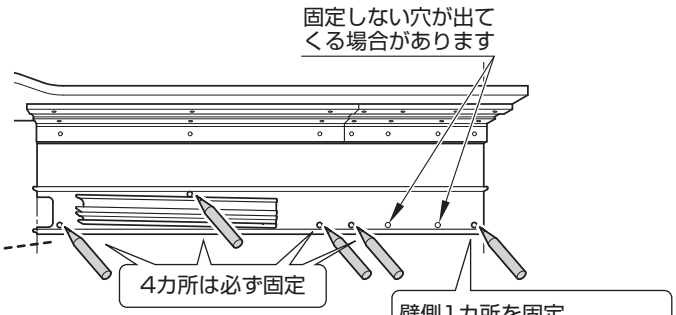


② 壁に取付穴位置をけがき、下穴（φ3）をあける
【補強材なしの場合】
ボードアンカー用下穴（φ9）をあけ、ボードアンカー（オプション）を取り付ける

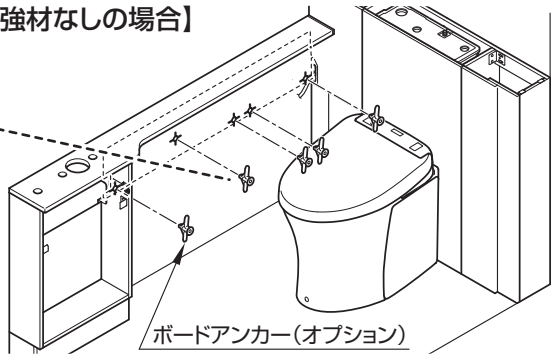
ポイント

ボードアンカーは羽を折りたたんで差し込む

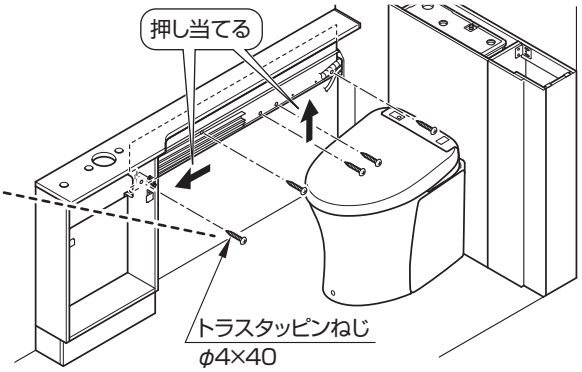




【補強材なしの場合】



③ 配管ブラケットをカウンターと手洗器キャビネットに押し当てながら、同梱のねじで固定する

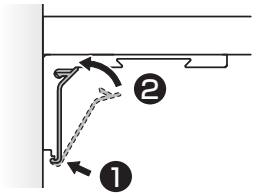


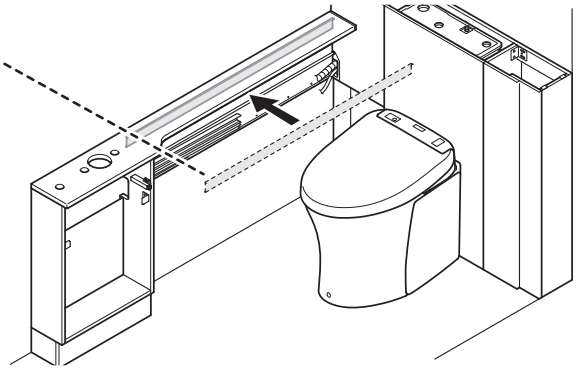
④ ブラケットカバーを取り付ける

ポイント

ブラケットカバーをはめ込む

カウンターに引っ掛けるようにブラケットカバーをセットする





14-M 手洗器

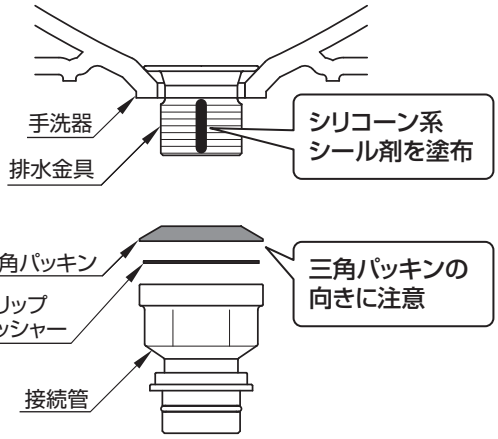
「手洗器セット、手洗器キャビネット、手洗器キャビネット部材、手洗器カウンター部材」の部材を使用

1 排水金具を取り付ける

右図のように排水金具を手洗器にセットする。
ねじ部にシリコーン系シール剤を塗布し、接続管を締める。

ポイント

締め付け力の目安としては、手締めで止まる位置まで回し、工具にて半回転締め付けるくらいが適切です。



⚠ 注意

必ず守る

排水金具ねじ部には、必ずシリコーン系シール剤を塗布する

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

⚠ 注意

禁止

接続管を締め過ぎない

排水金具が破損し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

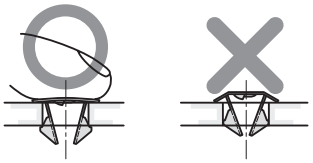
2 手洗器固定金具を取り付ける

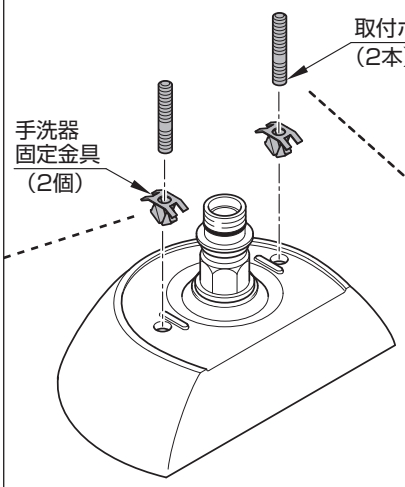
① 手洗器裏面の穴に手洗器固定金具を2個取り付ける

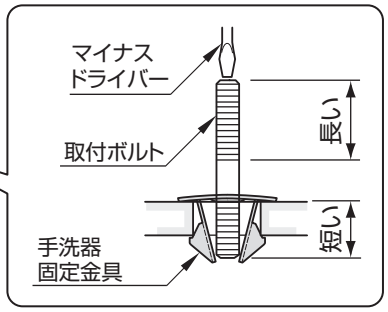
ポイント

手洗器固定金具は手洗器を平らなところに置き、陶器とのすき間がなくなるまで、しっかり押し込む

押し込みが足りないと、取付ボルトが途中までしか入らず、手洗器が固定できません。



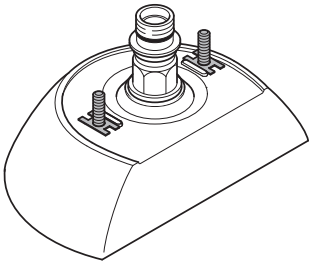




② マイナスドライバーで取付ボルトを2本取り付ける

ねじが加工されている部分が見えなくなるまで締め付けてください。

取り付け状態



14-M 手洗器（つづき）

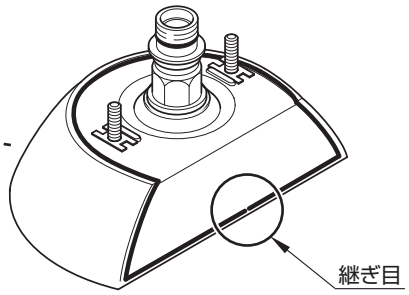
3 クッション材を取り付ける

① 手洗器裏面の汚れをふき取り、カウンター・壁に接する部分にクッション材を貼る

ポイント

クッション材を手洗器の端から少し内側に貼り付ける

クッション材は、手洗器の端から少し内側に貼り付けるときれいに仕上がります。



4 手洗器を取り付ける

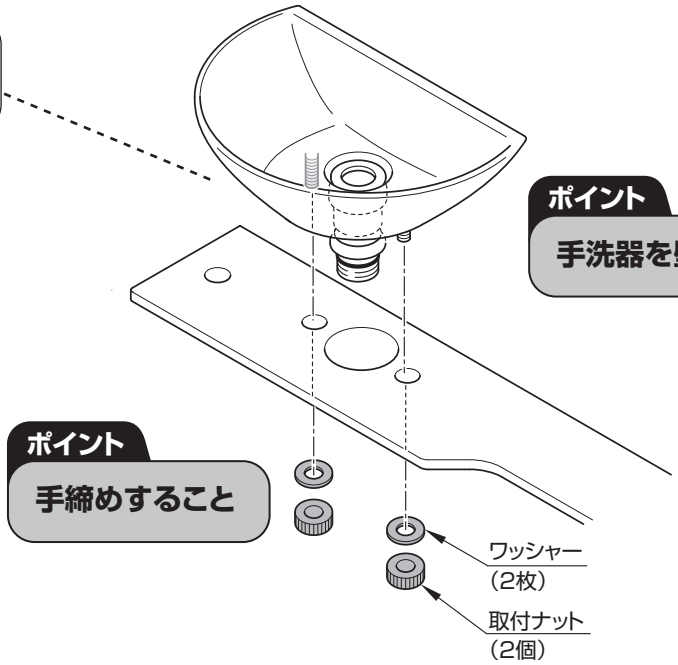
① 左右の位置を調整し、手洗器をカウンターに固定する

ポイント

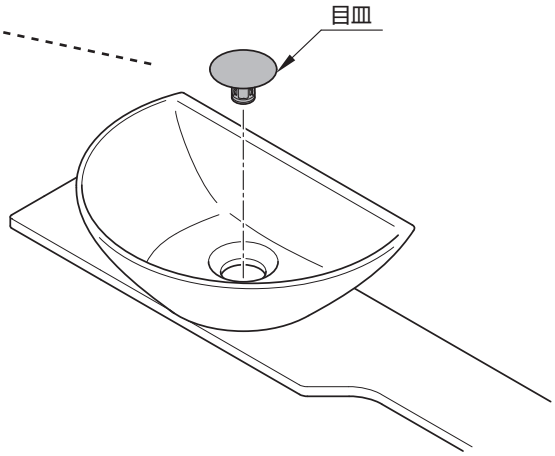
手洗器を壁に押し当てる

ポイント

手締めすること



② 目皿を排水口に、しっかりはめ込む



14-M 手洗器（つづき）

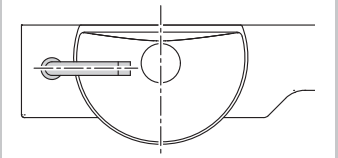
5 水栓金具を取り付ける

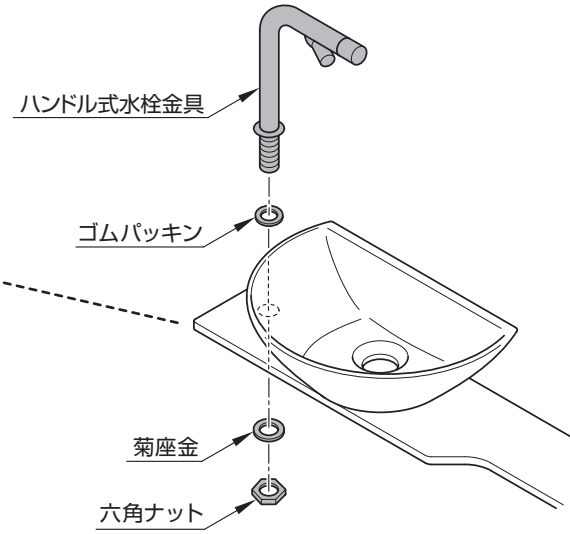
【ハンドル式水栓の場合】

水栓金具をカウンターに取り付ける

ポイント

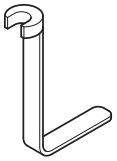
吐水口の向きに注意





ポイント

TZ工具を使用すると作業がしやすくなります



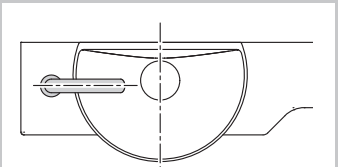
別売品
品番：TZY15N または TZ15L

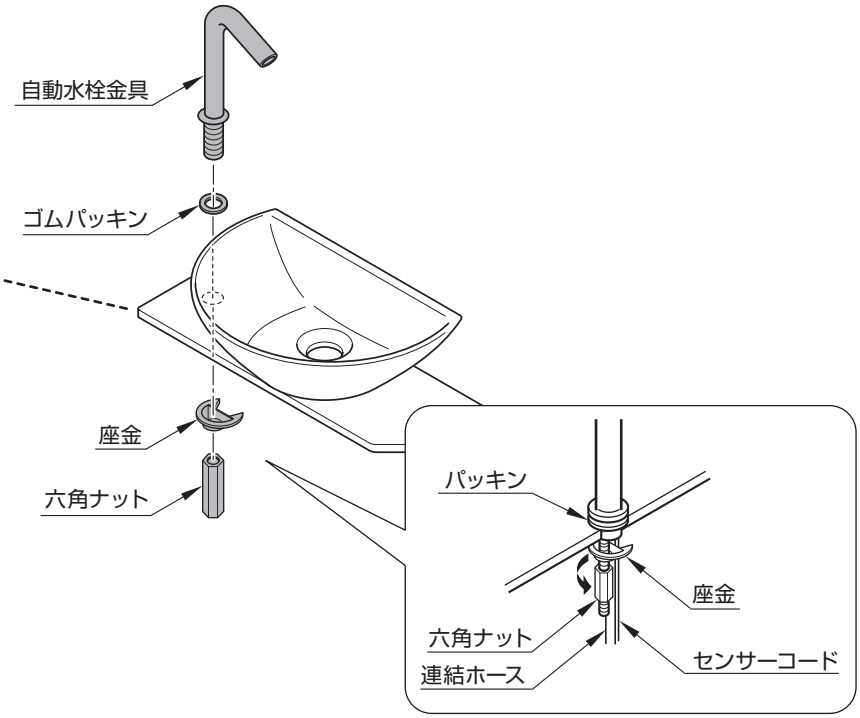
【自動水栓の場合】

水栓金具をカウンターに取り付ける

ポイント

吐水口の向きに注意



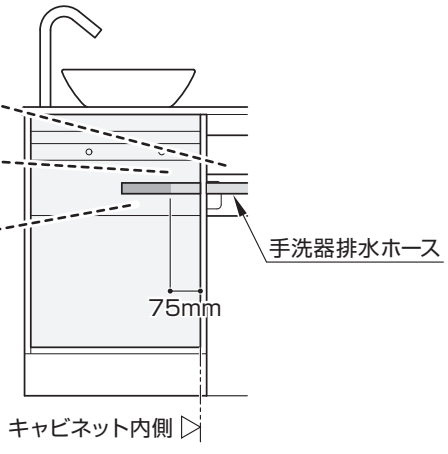


6 手洗器排水ホースの仮組み、カット

① 手洗器排水ホースを仮組みする

② カット位置をけがく

③ 手洗器排水ホースを外してカットする



⚠ 注意

必ず守る

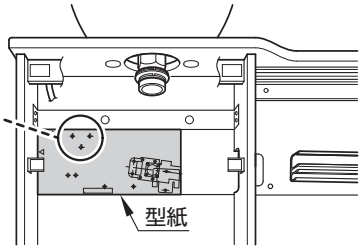
手洗器排水ホースをカットする際、押切タイプのパイプカッターは使用しない

手洗器排水ホースの断面が変形し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

14-M 手洗器（つづき）

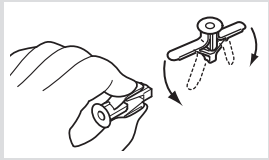
7 取付穴位置をけがき、下穴をあける【自動水栓の場合】

後壁に型紙で取付穴位置をけがき、下穴(φ3)をあける
自動水栓:5ヵ所
電気温水器付自動水栓:9カ所



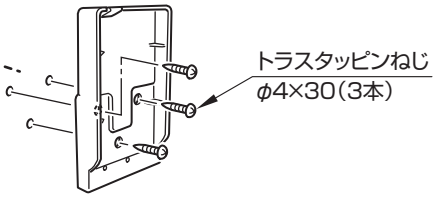
【下地が石こうボードの場合】
下穴（φ9）をあけ、ボードアンカーを入れる

ボードアンカー(オプション品)の羽を折りたたんで下穴(φ9)に差し込む



8 コントローラー固定材の取り付け【自動水栓の場合】

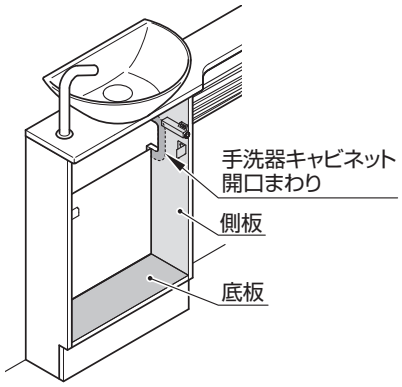
下穴に合わせて、コントローラー固定材を同梱のねじで取り付ける



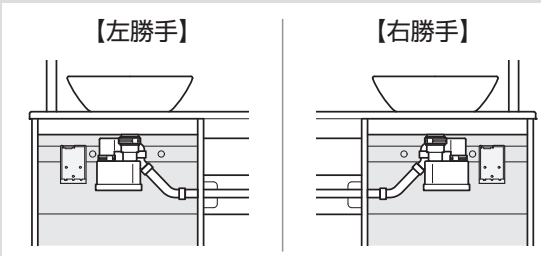
9 排水トラップの取り付け

ポイント

- **接着剤を塗る前に、壁・手洗器キャビネット内面の側板・底板を養生する**
  接着剤が壁・手洗器キャビネットに付着し、汚れます。
- **手洗器キャビネットの開口まわり（手洗器キャビネットの内側と外側）をマスキングテープで養生する**

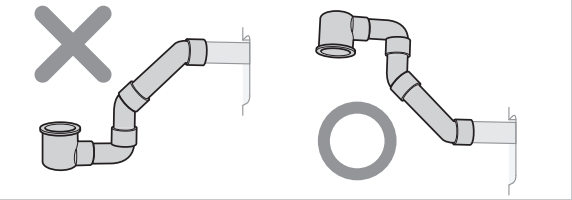


排水トラップ取り付け例

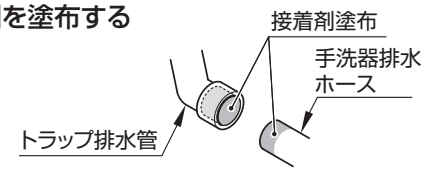


ポイント

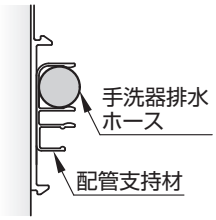
接着する際には向きに注意



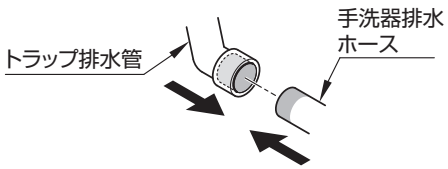
① 手洗器排水ホースを配管支持材から外し、手洗器排水ホースの先端とトラップ排水管に塩ビ系接着剤を塗布する

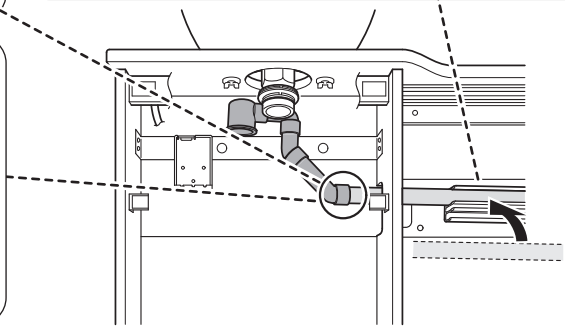


② 手洗器排水ホースを配管支持材にはめ込む



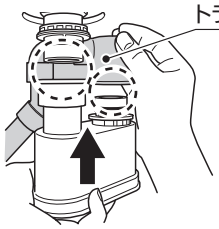
③ 手洗器排水ホースをスライドさせて、手洗器キャビネット内へ入れ、トラップ排水管を接続する



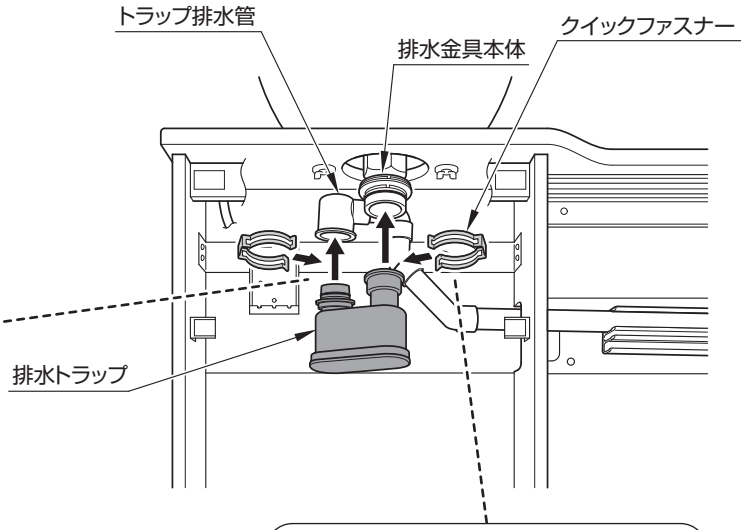


14-M 手洗器（つづき）

④ 2カ所を同時にまっすぐ差し込む



トラップ排水管が動かないように手で押える



⑤ クイックファスナーにて固定

⚠ 注意

斜めに差し込まない

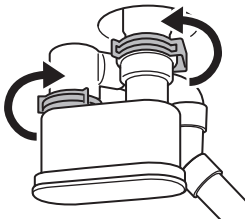
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

禁止

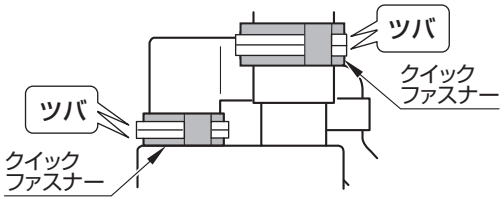
⚠ 注意

必ず守る

クイックファスナーが正しく固定されていることを確認する



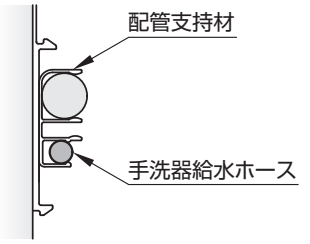
クイックファスナーの全周にツバがかかっていることを確認する

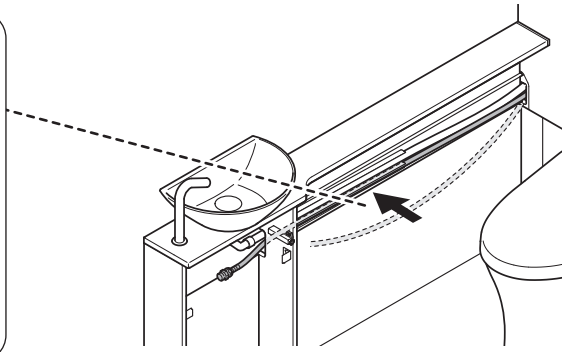


水漏れして家財などがぬれる財産損害発生の原因となります。

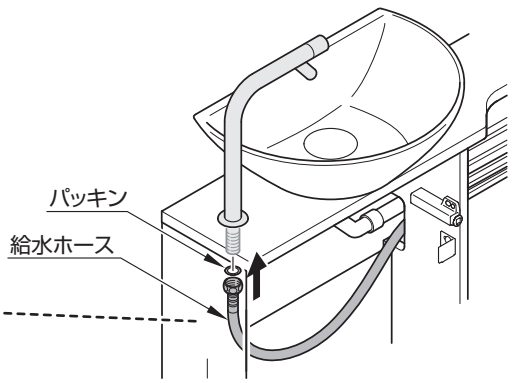
10 手洗器給水ホースの接続

① 手洗器給水ホースを配管支持材にはめ込む





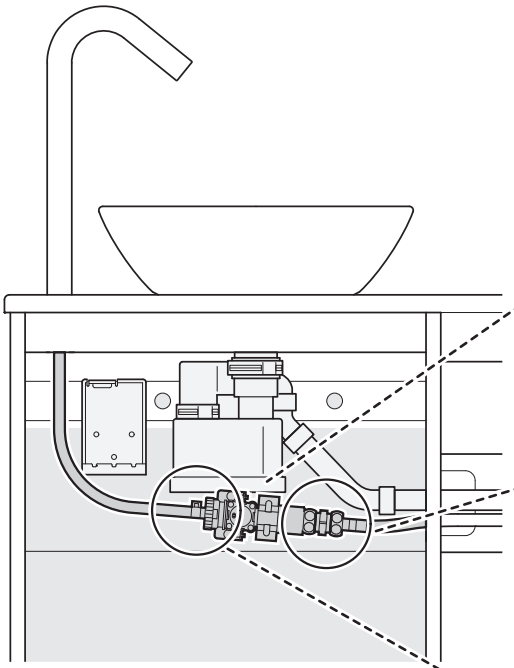
【ハンドル式水栓の場合】



② 手洗器給水ホースを接続する

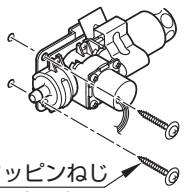
14-M 手洗器（つづき）

【自動水栓･電気温水器付自動水栓の場合】

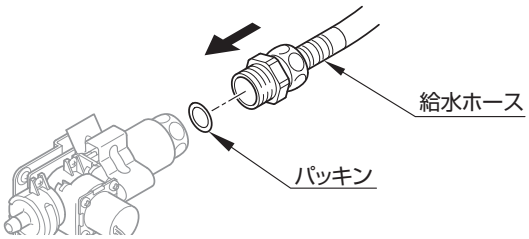


※図は自動水栓の場合

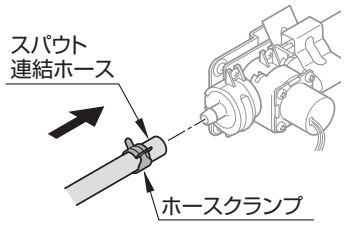
② 自動水栓機能部を後壁の下穴に同梱のねじで固定する



③ 自動水栓機能部に給水ホースを接続する



④ スパウト連結ホースを適切な長さに切断し、接続する

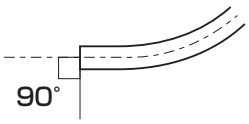


⚠ 注意

必ず守る

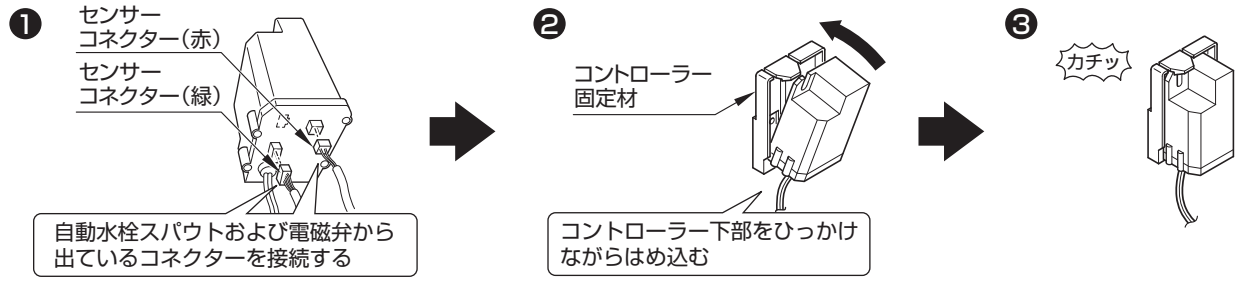
- スパウト連結ホースは、切断面が垂直になるように切断する
- スパウト連結ホース接続後、軽く引っ張り抜けないことを確認する

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



14-M 手洗器（つづき）

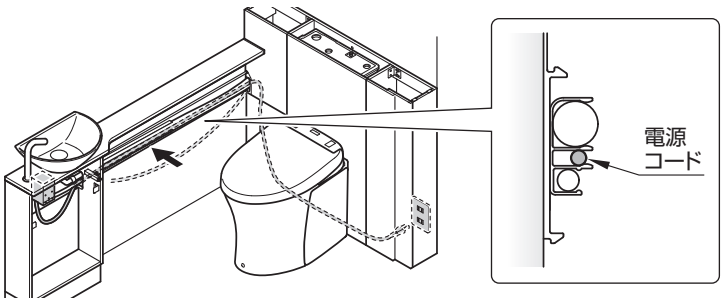
⑤ コントローラーを取り付ける



⑥ 電源コードを配管支持材にはめこむ

プラグを、大便器側のコンセント近傍まで配置しておく

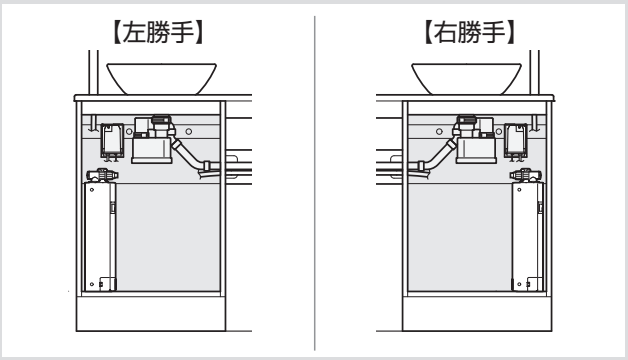
※電気温水器付の場合は、手洗器キャビネット内のコンセントに接続するので不要です。



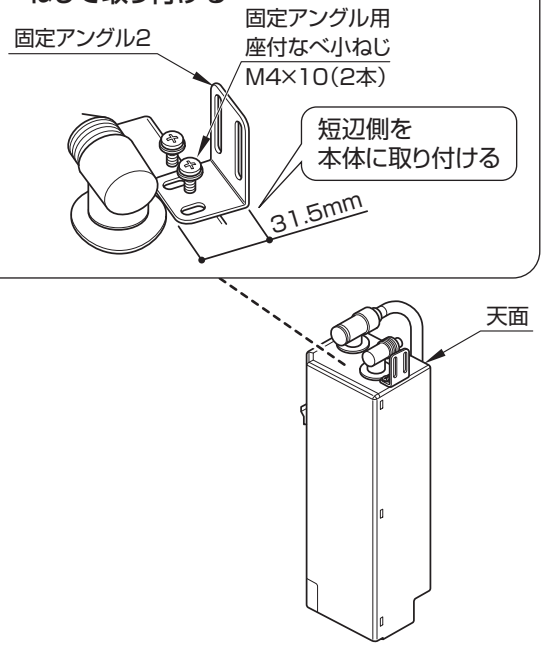
【電気温水器付自動水栓の場合】

参照 詳しくは、電気温水器の施工説明書を参照してください。

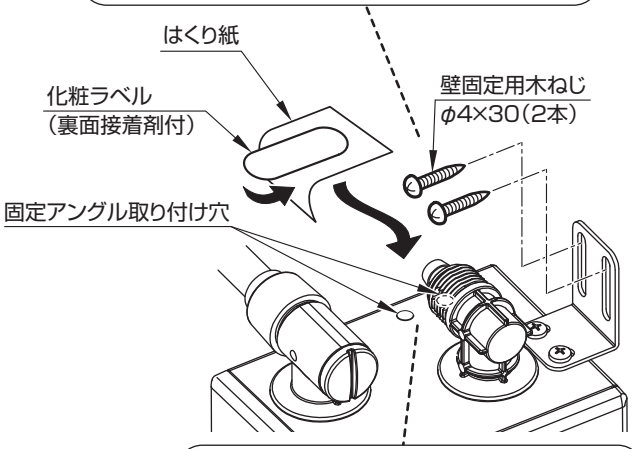
電気温水器取り付け位置



① 電気温水器に固定アングル2を同梱のねじで取り付ける

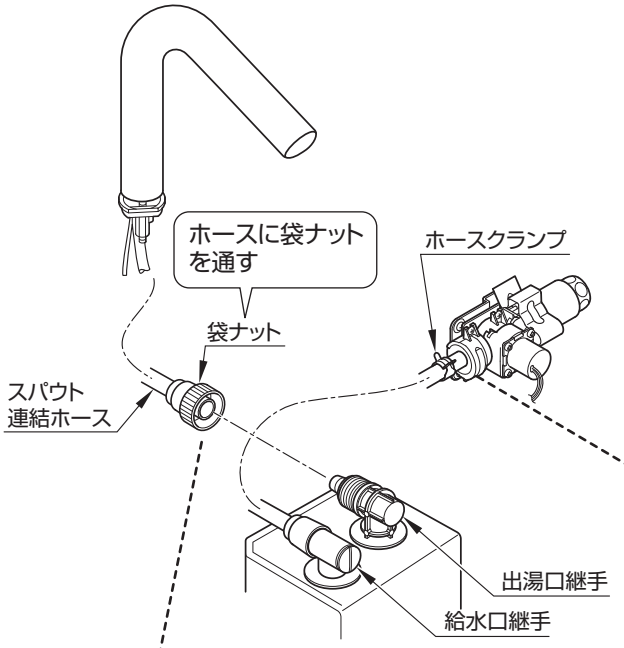


② 本体を同梱のねじで取り付ける



③ 化粧ラベルで電気温水器本体上部の固定アングルを取り付けない方(長辺側)の穴に貼り付けてふさぐ

14-M 手洗器（つづき）



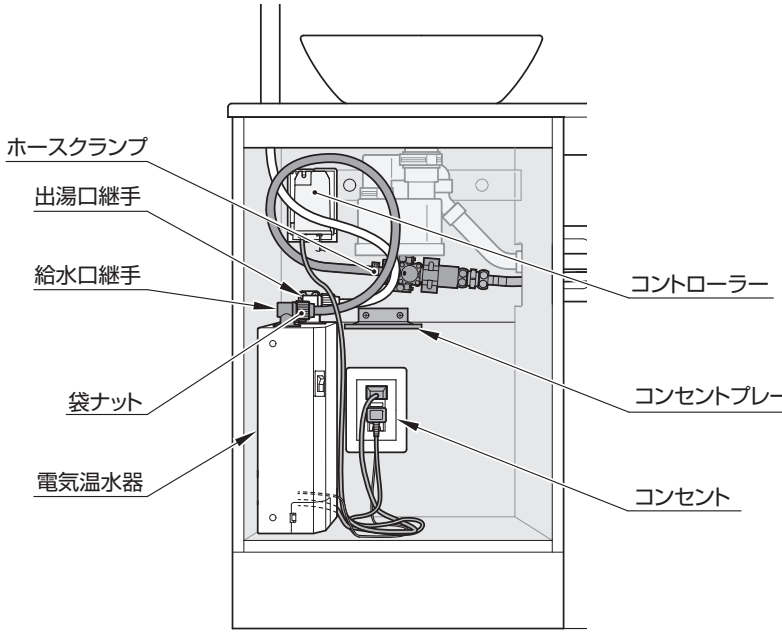
④ホースと機能部をホースクランプで締め付ける

⑤出湯口継手にスパウト連結ホースを差し込み、袋ナットで締め付ける

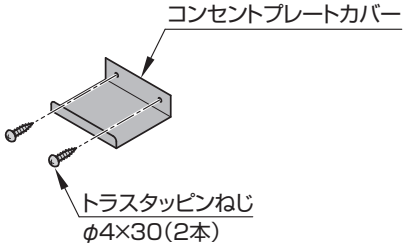
⚠ 注意

必ず守る

ホースは根元までしっかり差し込む
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因になります。



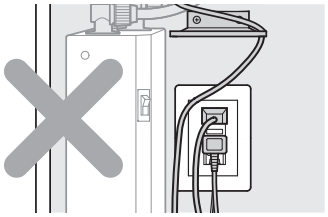
⑥コンセントプレートカバーを取り付ける



⚠ 警告

禁止

電源コードはコンセントプレートカバーの上を通さない
結露水がコードを伝わりコンセントにかかり、火災や感電のおそれがあります。



⚠ 注意

必ず守る

電気温水器の電源コード・アース線は、キャビネットと電気温水器との間や扉に挟まないように取り回す
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

手洗器
Sサイズの場合

12-S 手洗器キャビネット、カウンター 72
13-S 配管ブラケット 77
14-S 手洗器 78

12-S 手洗器キャビネット、カウンター

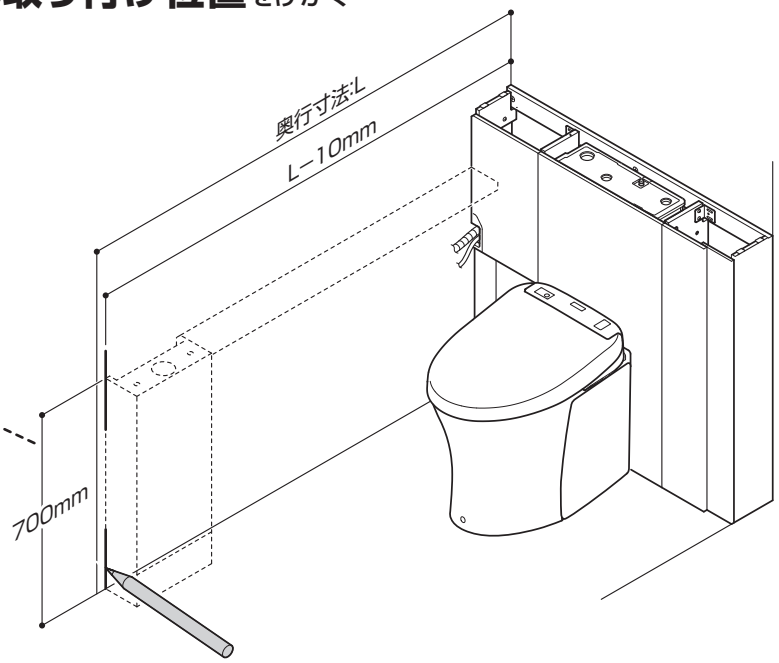
「手洗器カウンター部材、手洗器キャビネット」の部材を使用

1 キャビネット、カウンターの取り付け位置をけがく

① 奥行寸法：Lを決める

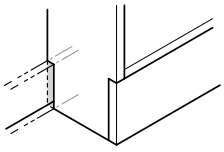
参照 詳しくは、P.6「設置寸法について」を参照してください。

② 次の位置をけがく
・手洗器キャビネット端：L−10mm
・カウンター上端：床から700mm



2 手洗器キャビネットを仮固定する

① 幅木がある場合は重なる部分のキャビネットまたは幅木分だけカット

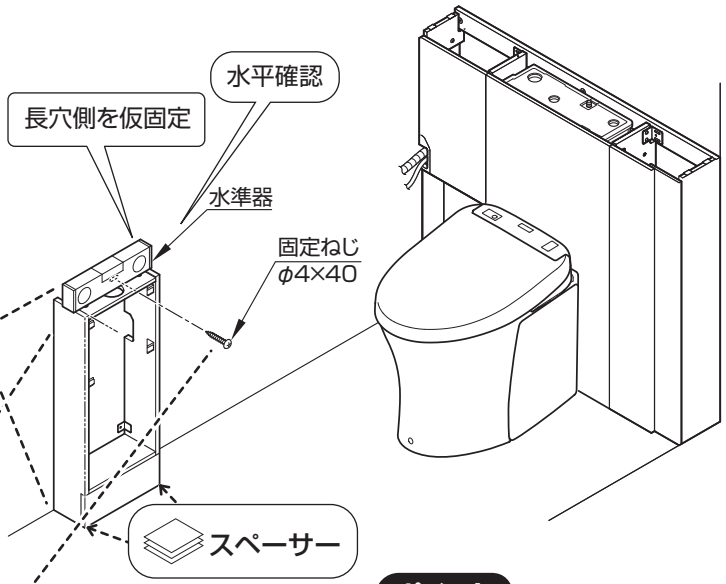


② 手洗器キャビネットを取付位置に仮置きし、水平を確認する

③ 壁に手洗器キャビネット取付穴位置をけがき、下穴(φ3)をあける

※壁裏補強なしの場合はボードアンカー(オプション)を使用する。ボードアンカーの下穴はφ9となります。

④ 同梱のねじで長穴側を仮固定する



ポイント

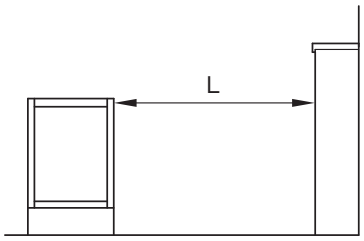
水平が出ていない場合、付属のスペーサーを入れ調節する

12-S 手洗器キャビネット、カウンター（つづき）

3 カウンター類を加工する

【カウンターをカットする場合】

① カウンター・キャビネット間の寸法を確認する



⚠ 注意

必ず守る

カットした面は滑らかに仕上げる

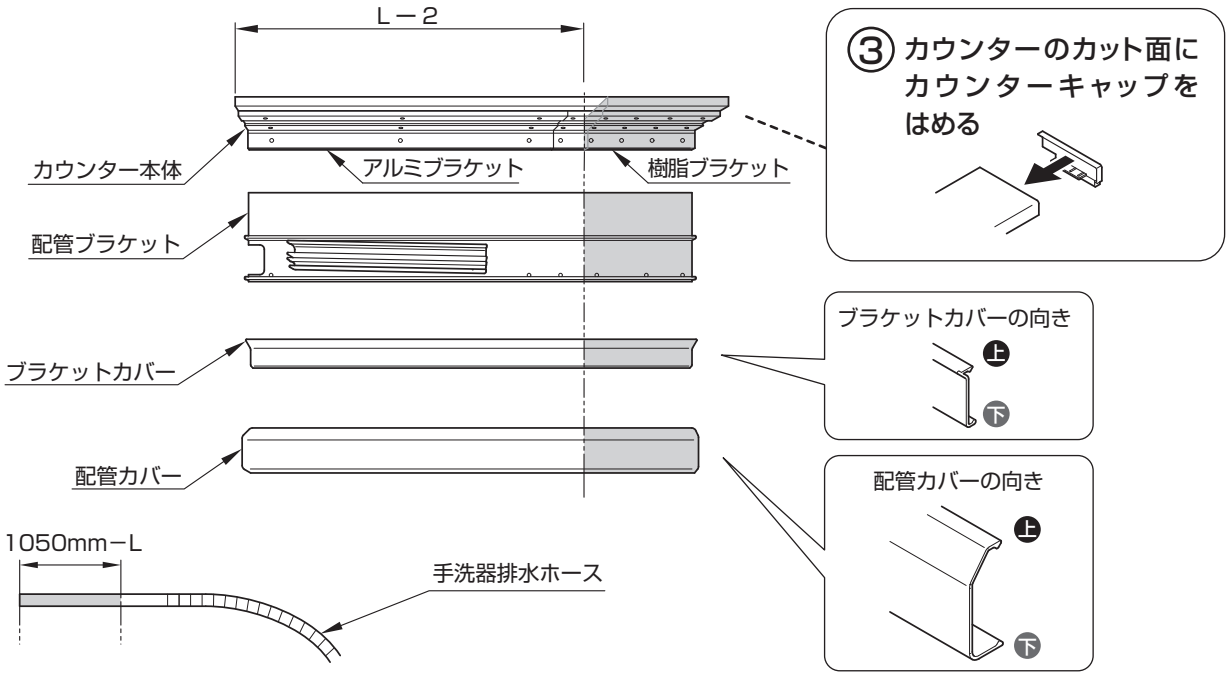
お客様の手が触れ、けがをするおそれがあります。

② カウンター本体、配管ブラケット、配管カバー、ブラケットカバー、手洗器排水ホースをカットする

※樹脂ブラケット側をカットする

キャビネット上端の高さにて大便器キャビネットと手洗器キャビネット側板までの寸法Lを測り、L−2mmの寸法にカウンター・配管ブラケット・配管カバー・ブラケットカバー・手洗器排水ホースをカットする。

L：カウンター寸法（奥壁からキャビネットまでの長さ）



⚠ 注意

必ず守る

手洗器排水ホースをカットする際、押切タイプのパイプカッターは使用しない

手洗器排水ホースの断面が変形し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

ポイント

手洗器排水ホースは斜めにカットしない

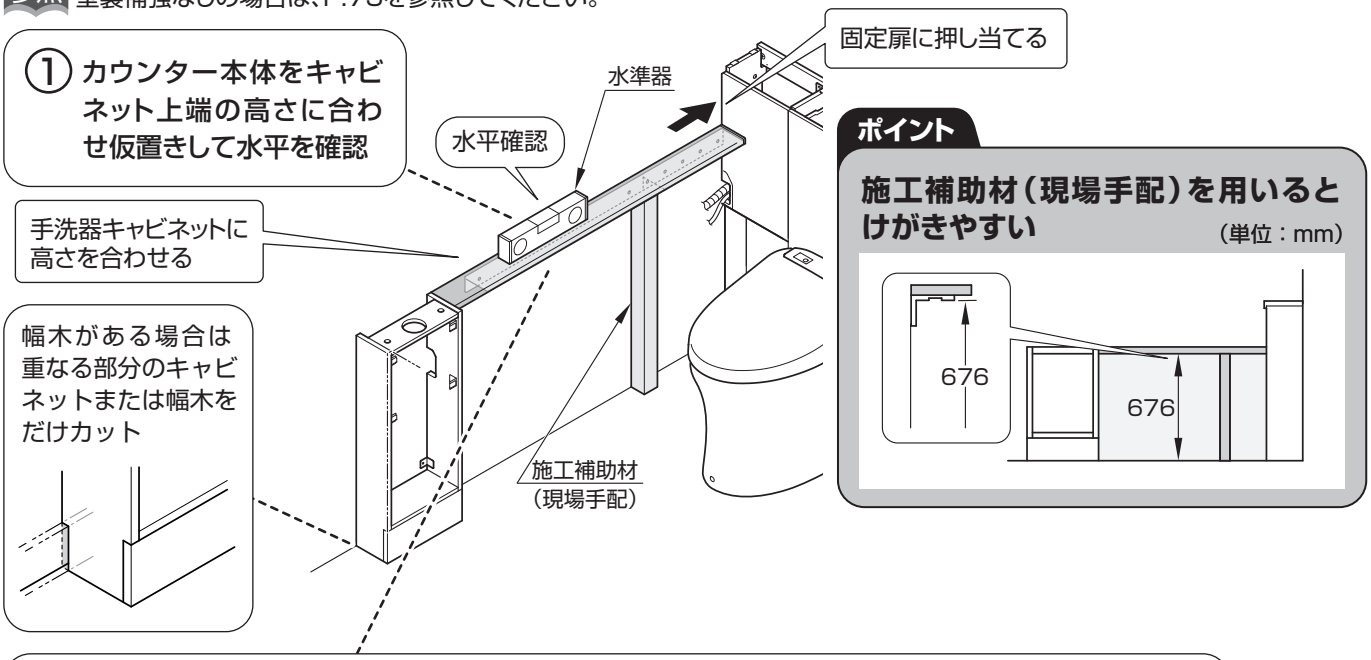
12-S 手洗器キャビネット、カウンター（つづき）

4 カウンター、手洗器キャビネットを取り付ける

壁裏補強ありの場合

参照 壁裏補強なしの場合は、P.75を参照してください。

① カウンター本体をキャビネット上端の高さに合わせ仮置きして水平を確認

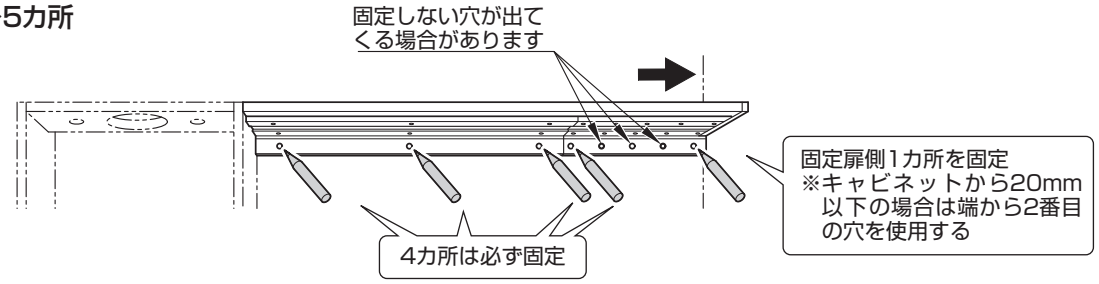


ポイント

施工補助材（現場手配）を用いるとけがきやすい

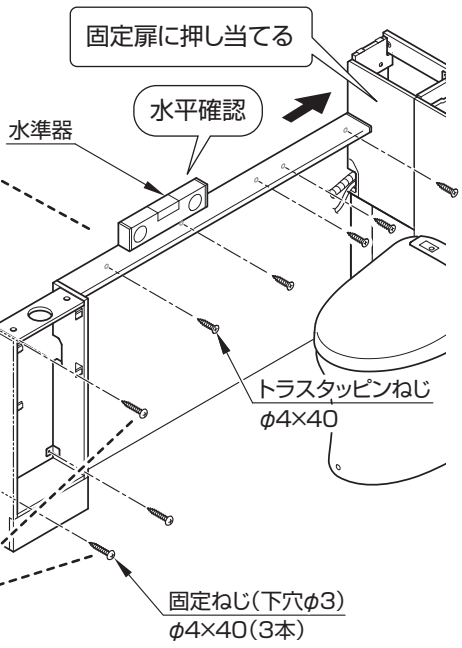
（単位：mm）

② 取付穴位置をけがき、下穴（φ3）をあける
4〜5カ所

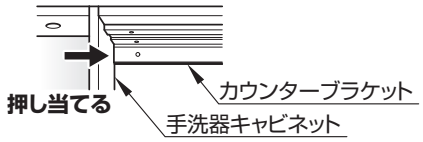


※固定用穴が5カ所以上ある場合、5カ所固定してください。

③ カウンターの水平を確認し、大便器固定扉に押し当て同梱のねじで固定する



④ 仮止めしていた手洗器キャビネットをカウンターに押し当て同梱のねじで本固定する



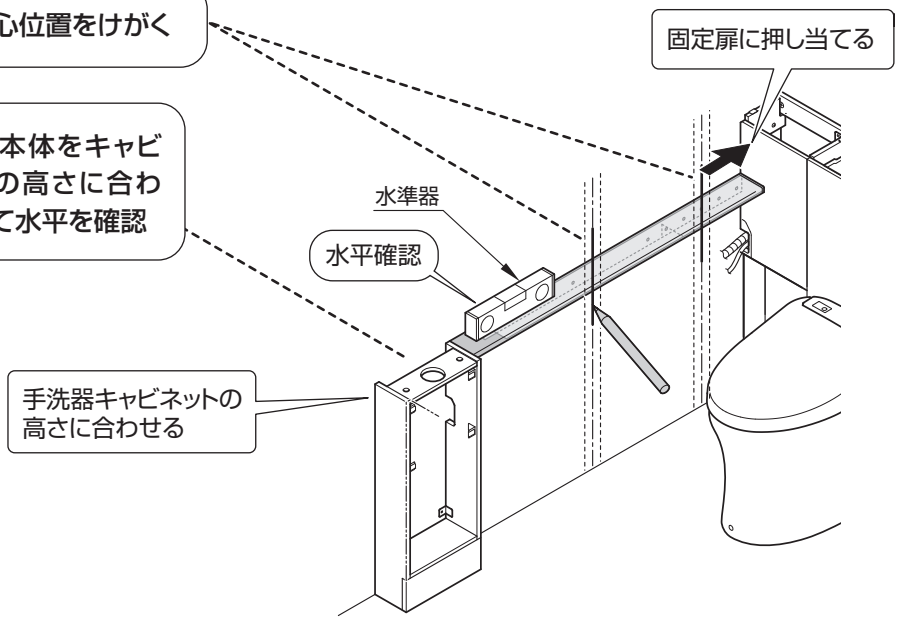
12-S 手洗器キャビネット、カウンター（つづき）

4 カウンター、手洗器キャビネットを取り付ける

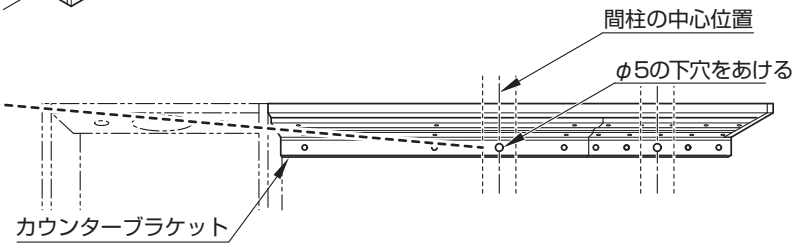
壁裏補強なしの場合

① 壁に間柱中心位置をけがく

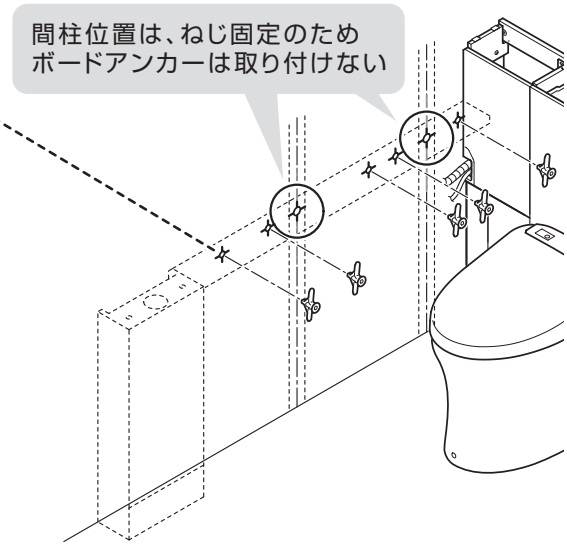
② カウンター本体をキャビネット上端の高さに合わせ仮置きして水平を確認



③ カウンターブラケットに間柱の位置をけがき、貫通穴（φ5）をあける

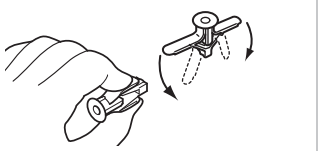


④ 壁にカウンターブラケットの取付位置をけがき、下穴（ねじ取付用：φ3、ボードアンカー用：φ9）をあけて壁ボードアンカー（オプション）を取り付ける



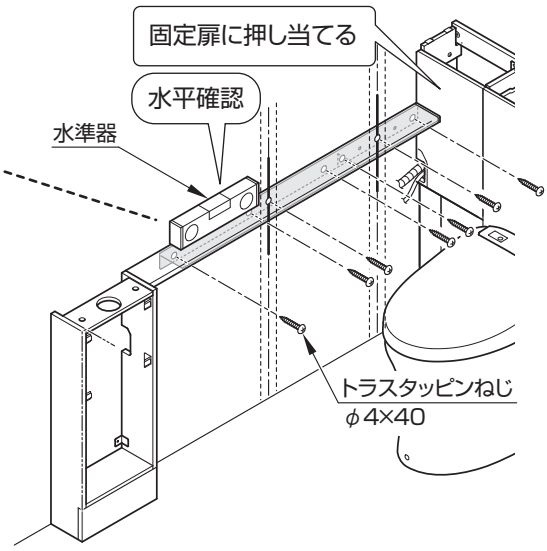
ポイント

ボードアンカーは羽を折りたたんで差し込む

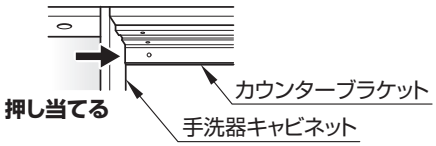


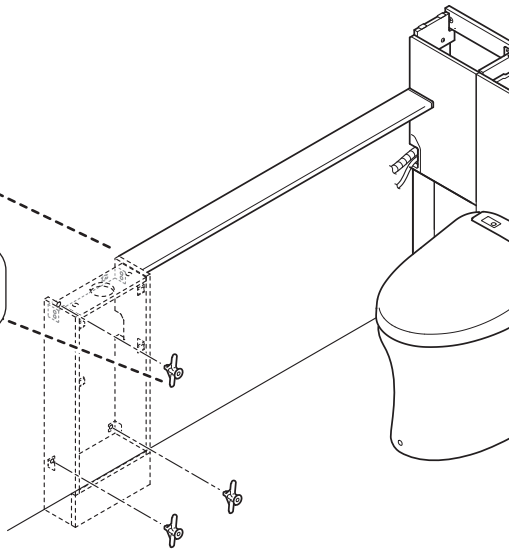
12-S 手洗器キャビネット、カウンター（つづき）

⑤ キャビネットの高さに合わせカウンターの水平を確認し、大便器固定扉に押し当て同梱のねじで固定する



⑥ 手洗器キャビネットをカウンターに押し当て取付位置をけがき、いったんキャビネットを外したあと下穴（ボードアンカー用：φ9）をあける

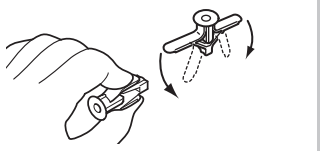


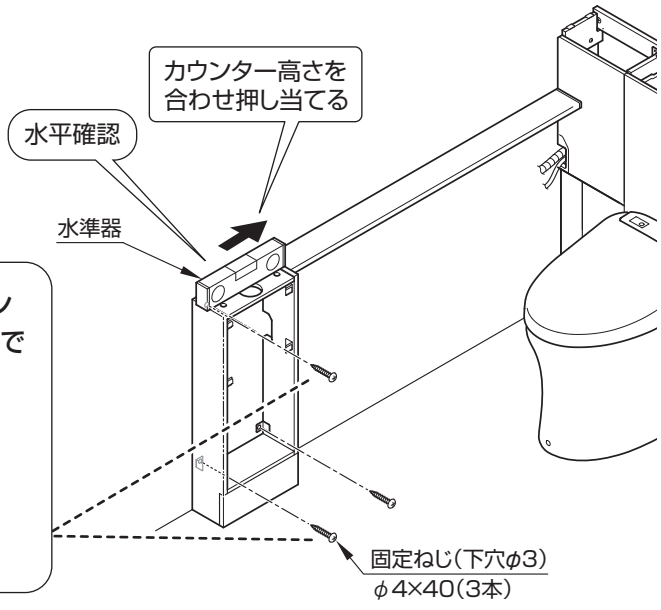


⑦ 壁にボードアンカー（オプション）を取り付ける

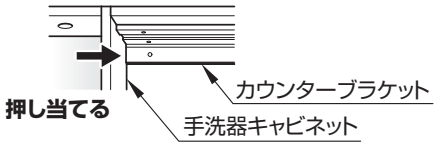
ポイント

ボードアンカーは羽を折りたたんで差し込む





⑧ 手洗器キャビネットを右図のようにカウンターに押し当て高さを調整し、同梱のねじで本固定する



13-S 配管ブラケット

「手洗器カウンター部材」の部材を使用

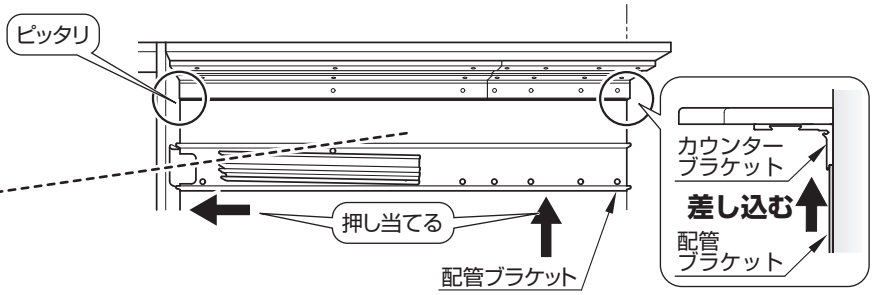
1 配管ブラケットを取り付ける

① 配管ブラケットをカウンターと手洗器キャビネットに押し当てる

ポイント

取り付け時の注意点

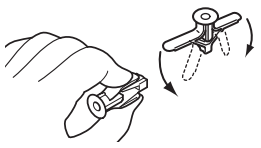
この位置がずれると正しい位置に取り付けができません。

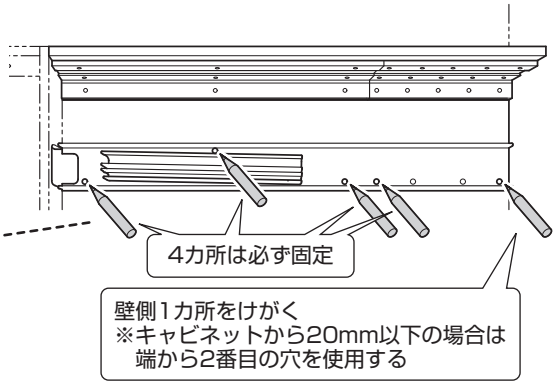


② 壁に取付穴位置をけがき、下穴（φ3）をあける
【補強材なしの場合】
ボードアンカー用下穴（φ9）をあけ、ボードアンカー（オプション）を取り付ける

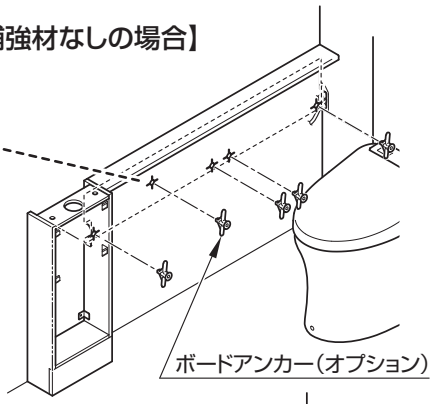
ポイント

ボードアンカーは羽を折りたたんで差し込む

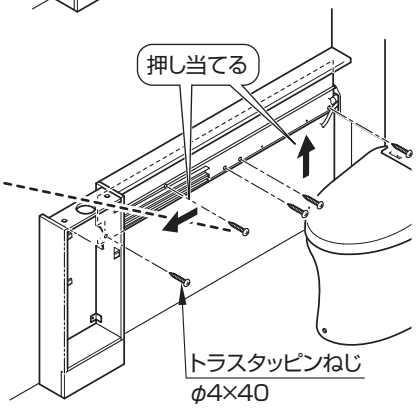




【補強材なしの場合】



③ 配管ブラケットをカウンターと手洗器キャビネットに押し当てながら、同梱のねじで固定する

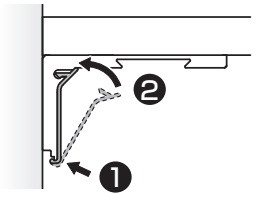


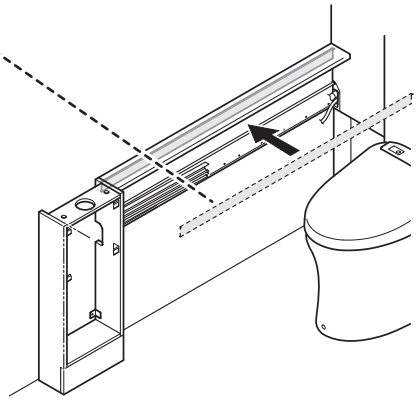
④ ブラケットカバーを取り付ける

ポイント

ブラケットカバーをはめ込む

カウンターに引っ掛けるようにブラケットカバーをセットする





14-S 手洗器

「手洗器、手洗器キャビネット、手洗器キャビネット部材」の部材を使用

1 排水金具を取り付ける

① 右図のように排水金具を手洗器にセットする。
ねじ部にシリコーン系シール剤を塗布し、接続管を締める。

ポイント

締め付け力の目安としては、手締めで止まる位置まで回し、工具にて半回転締め付けるくらいが適切です。

⚠ 注意

必ず守る

排水金具ねじ部には、必ずシリコーン系シール剤を塗布する

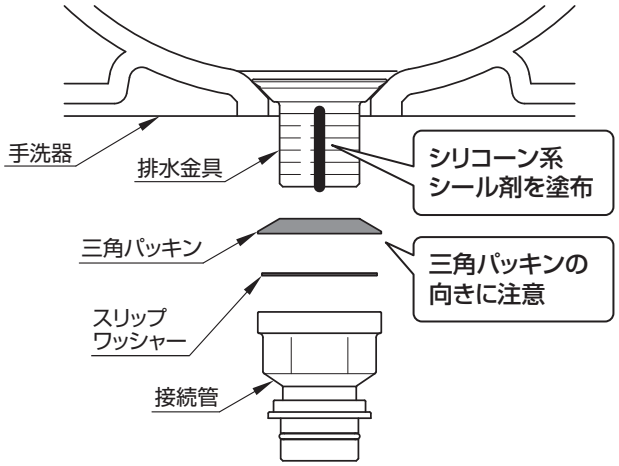
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

⚠ 注意

禁止

接続管を締め過ぎない

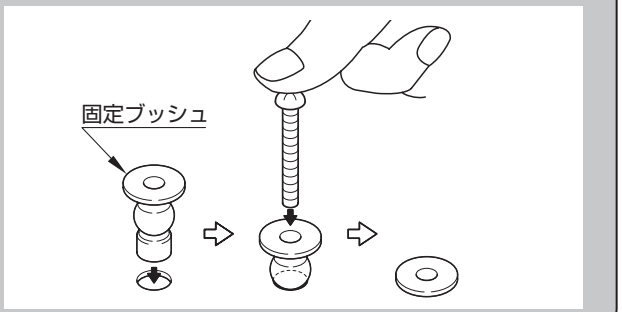
排水金具が破損し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

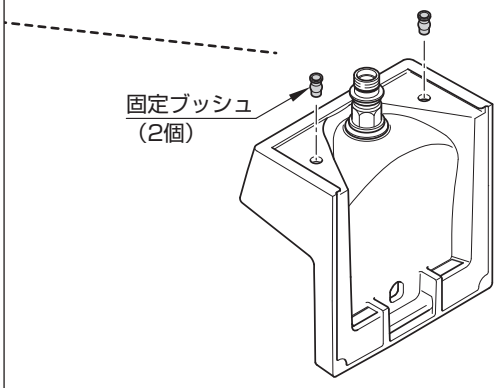


② 手洗器裏面の穴に固定ブッシュを2個取り付ける

ポイント

取付けねじで押すと容易に挿入できます。

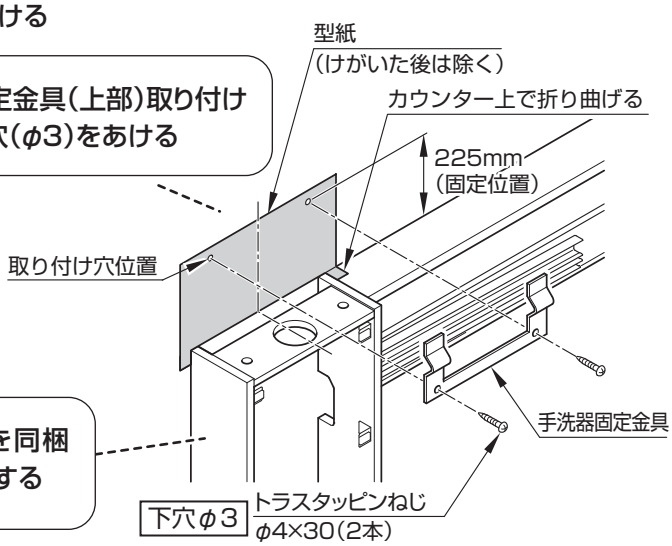




2 手洗器を取り付ける

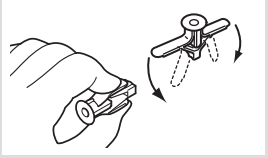
① 型紙で、手洗器固定金具(上部)取り付け位置をけがき、下穴(φ3)をあける

② 手洗器固定金具を同梱のねじで壁に固定する



【下地が石こうボードの場合】
下穴(φ9)をあけ、
ボードアンカーを入れる

ボードアンカー(オプション品)の羽を折りたたんで下穴(φ9)に差し込む



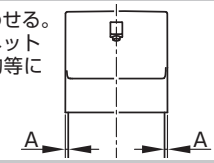
14-S 手洗器（つづき）

④ 手洗器を手洗器固定金具に差し込む

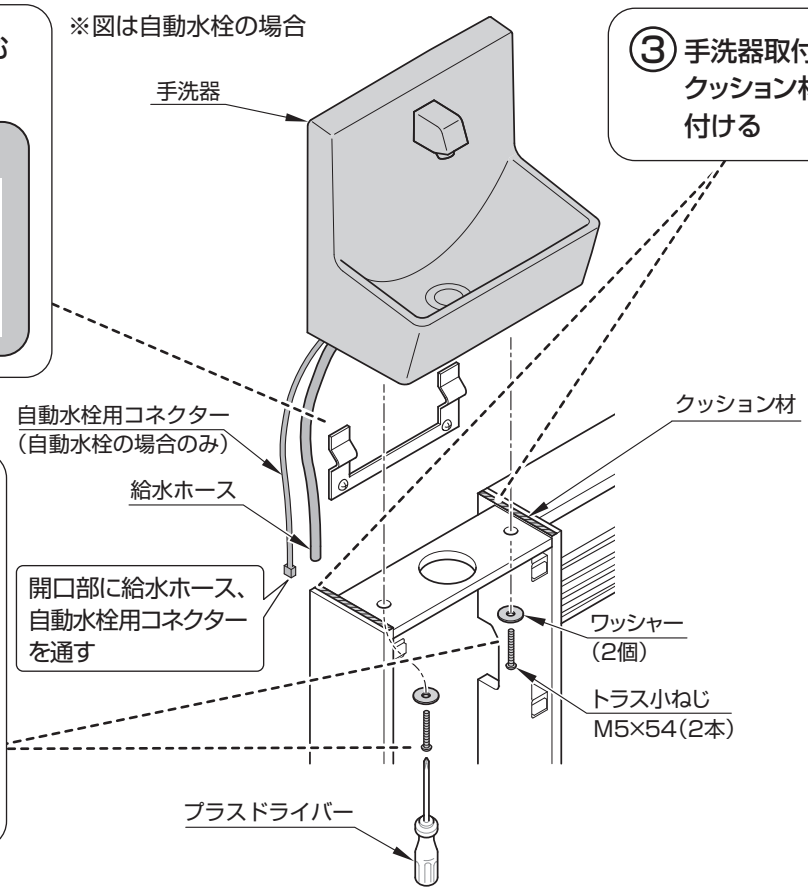
ポイント

手洗器を図のように合わせる

左右のチリを合わせる。
手洗器とキャビネットの段差「A」が均等になるようにする。



※図は自動水栓の場合



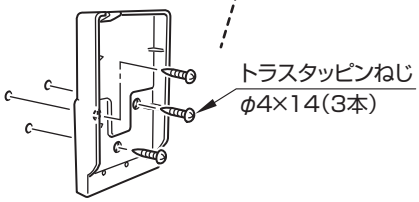
③ 手洗器取付け前にクッション材を取り付ける

⑤ 手洗器キャビネットの下からトラス小ねじM5×54（2本）とワッシャー（2個）で固定する。
※トラス小ねじは回らなくなるまでしっかり締め付けてください。

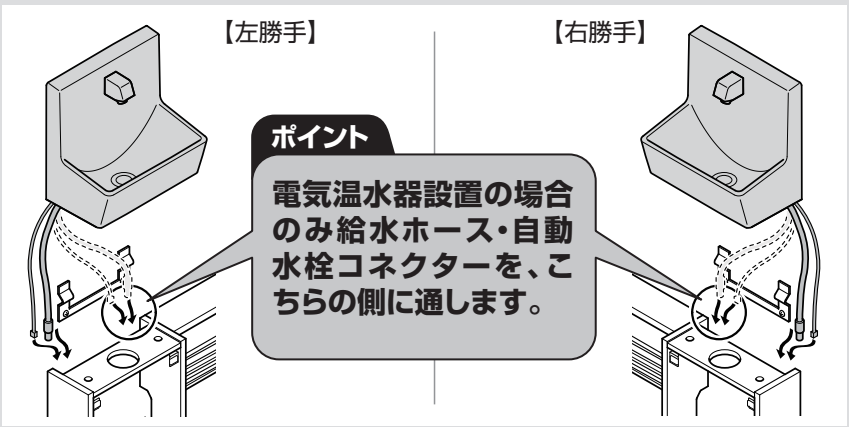
ポイント

手締めすること

⑥【自動水栓の場合のみ】
側板の下穴に合わせて、コントローラー固定材を取り付ける



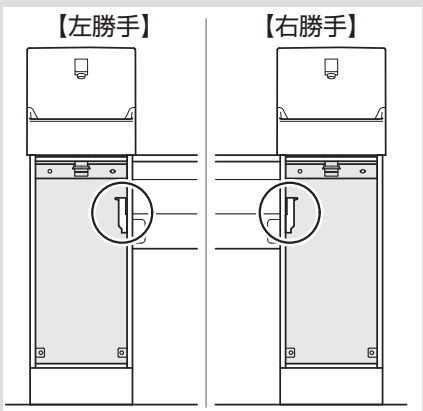
キャビネット開口部にホース類を通す際の注意点



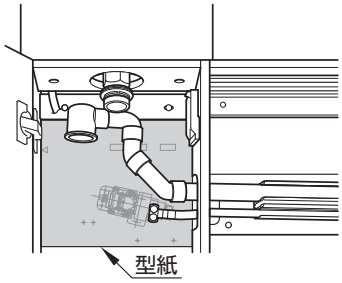
ポイント

電気温水器設置の場合のみ給水ホース・自動水栓コネクターを、こちらの側に通します。

コントローラー固定材の取り付け位置

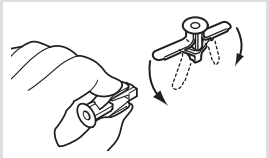


⑦【自動水栓の場合のみ】
後壁に型紙で取付位置をけがき下穴（φ3）をあける
自動水栓：2カ所
電気温水器付自動水栓：6カ所



【下地が石こうボードの場合】
下穴（φ9）をあけ、
ボードアンカーを入れる

ボードアンカー（オプション品）の羽を折りたたんで下穴（φ9）に差し込む



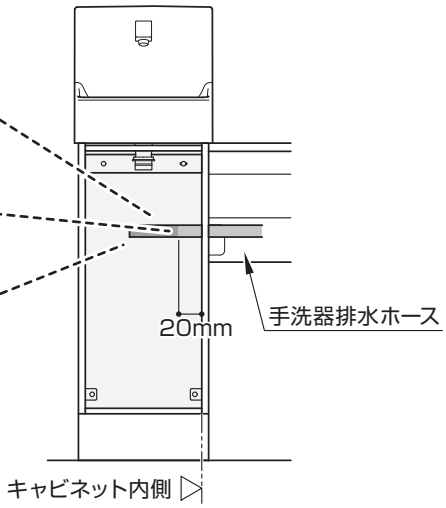
14-S 手洗器（つづき）

3 手洗器排水ホースの仮組み、カット

① 手洗器排水ホースを仮組みする

② カット位置をけがく

③ 手洗器排水ホースを外して
カットする



⚠ 注意

必ず守る

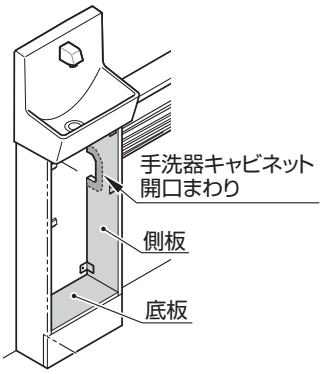
手洗器排水ホースをカットする際、押切タイプのパイプカッターは使用しない

手洗器排水ホースの断面が変形し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

4 排水トラップの取り付け

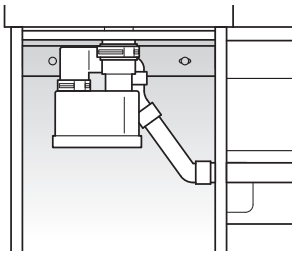
ポイント

- **接着剤を塗る前に、壁・手洗器キャビネット内面の側板・底板を養生する**
  接着剤が壁・手洗器キャビネットに付着し、汚れます。
- **手洗器キャビネットの開口まわり（手洗器キャビネットの内側と外側）をマスキングテープで養生する**

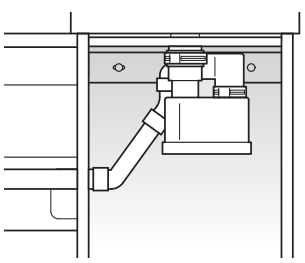


排水トラップ取り付け例

【左勝手】

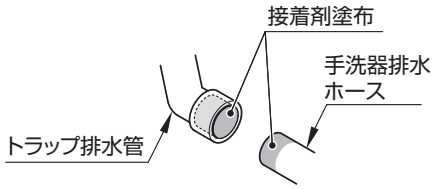


【右勝手】

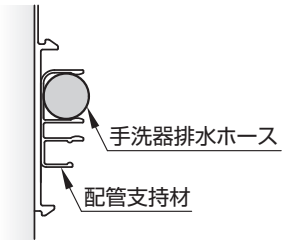


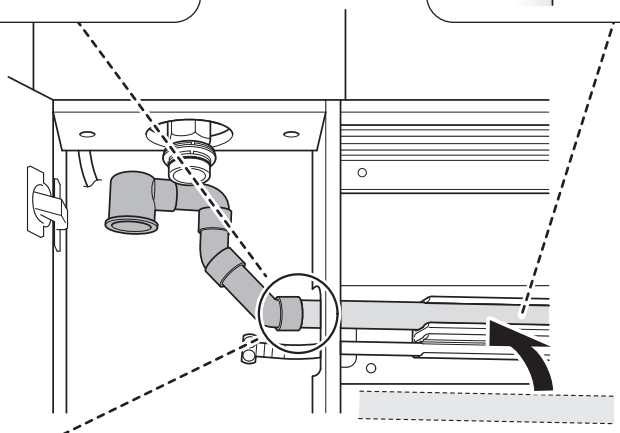
14-S 手洗器（つづき）

① 手洗器排水ホースを配管支持材から外し、手洗器排水ホースの先端とトラップ排水管に塩ビ系接着剤を塗布する

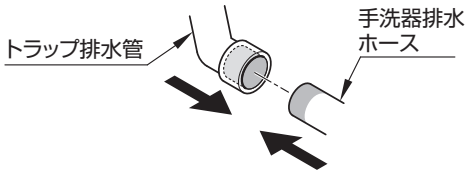


② 手洗器排水ホースを配管支持材にはめ込む



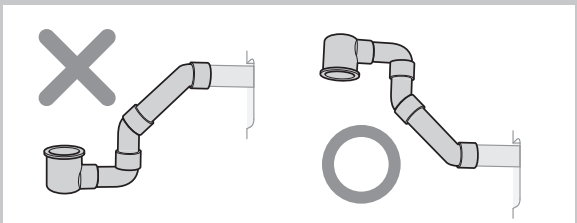


③ 手洗器排水ホースをスライドさせて、手洗器キャビネット内へ入れ、トラップ排水管を接続する

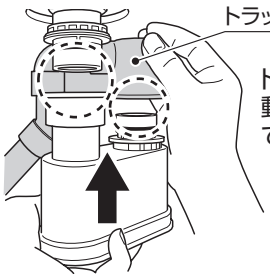


ポイント

接着する際には向きに注意



④ 2カ所を同時にまっすぐ差し込む

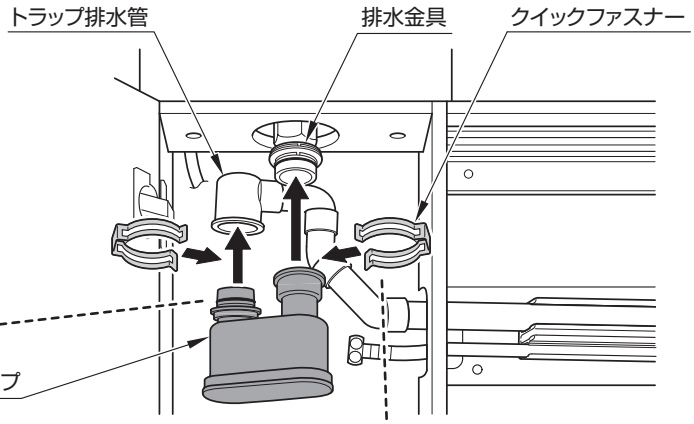


⚠ 注意

斜めに差し込まない

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

禁止



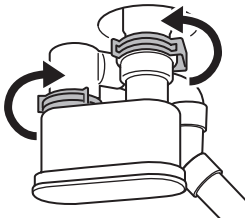
⑤ クイックファスナーにて固定

14-S 手洗器（つづき）

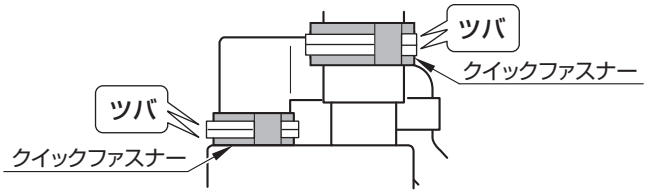
⚠ 注意

必ず守る

クイックファスナーが正しく固定されていることを確認する



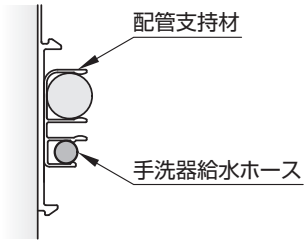
クイックファスナーの全周にツバがかかっていることを確認する

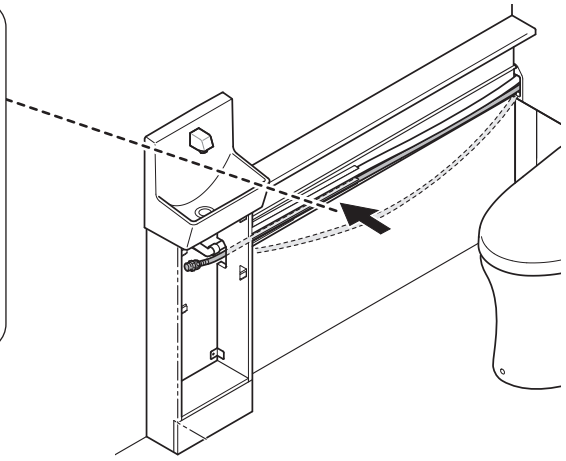


水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

5 手洗器給水ホースの接続

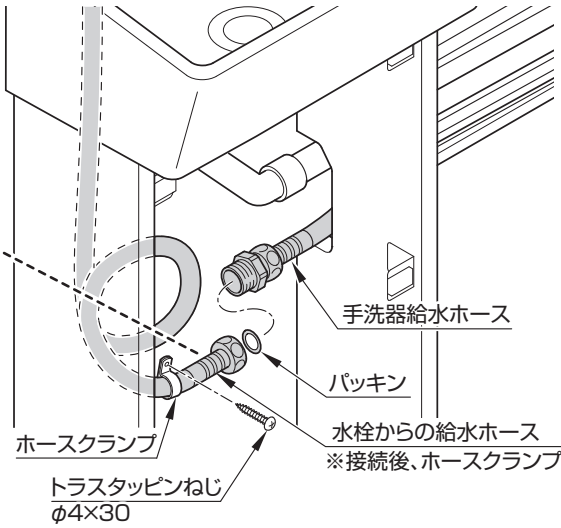
① 手洗器給水ホースを配管支持材にはめ込む





【ハンドル式水栓の場合】

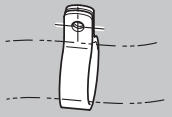
② 手洗器給水ホースを接続する



注 意

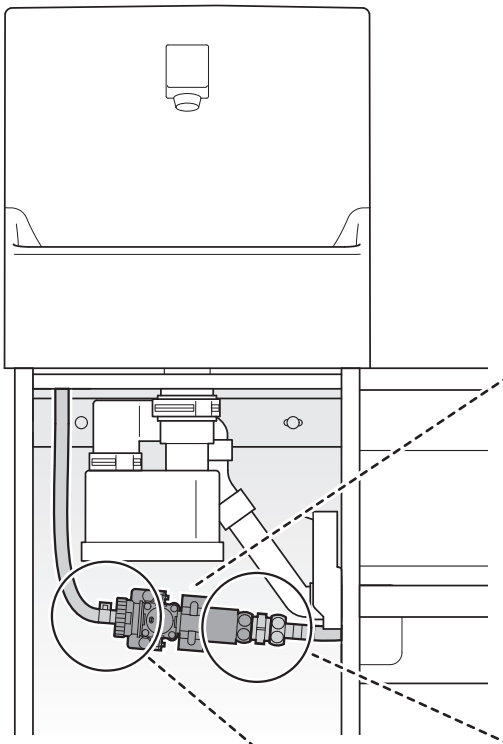
ホースクランプの向きに注意

ねじが上になるように固定してください。



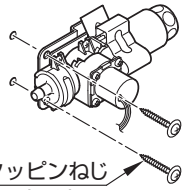
14-S 手洗器（つづき）

【自動水栓･電気温水器付自動水栓の場合】

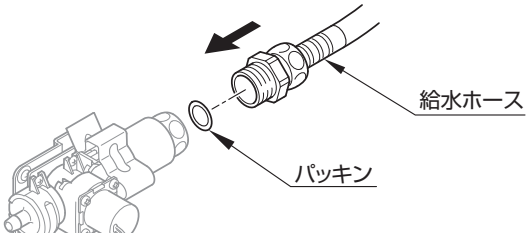


※図は自動水栓の場合

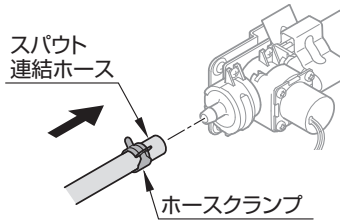
② 自動水栓機能部を後壁の下穴に同梱のねじで固定する



③ 自動水栓機能部に給水ホースを接続する



④ スパウト連結ホースを適切な長さに切断し、接続する

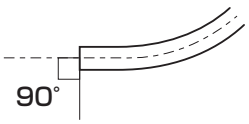


⚠ 注意

必ず守る

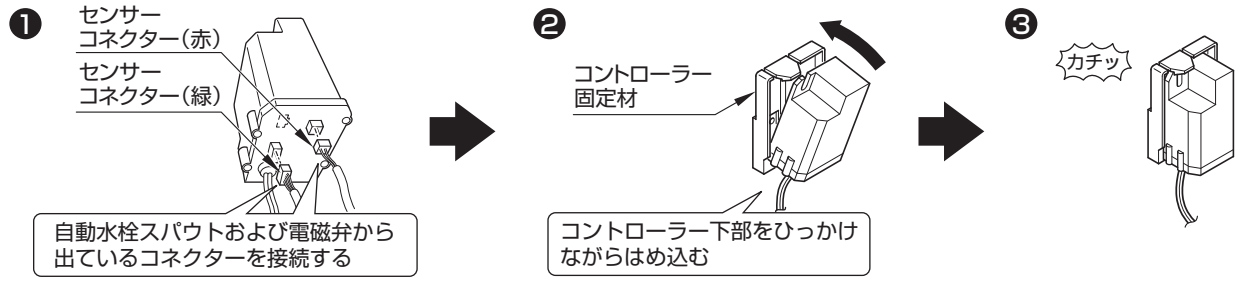
- スパウト連結ホースは、切断面が垂直になるように切断する
- スパウト連結ホース接続後、軽く引っ張り抜けないことを確認する

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



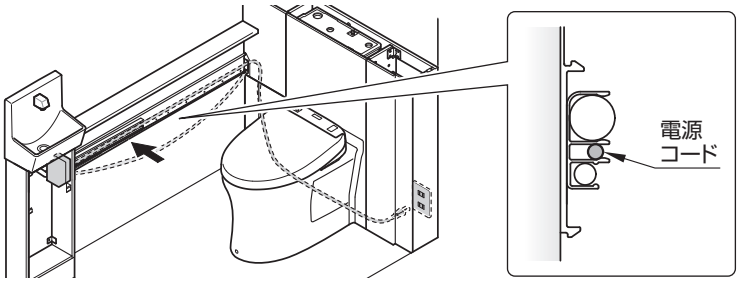
14-S 手洗器（つづき）

⑤ コントローラーを取り付ける



⑥ 電源コードを配管支持材にはめこむ
プラグを、大便器側のコンセント近傍まで配置しておく

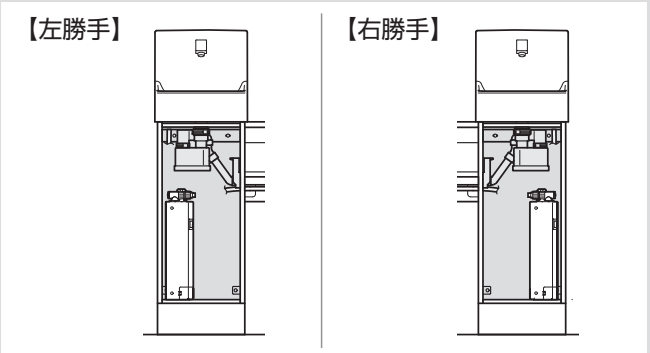
※電気温水器付の場合は、手洗器キャビネット内のコンセントに接続するので不要です。



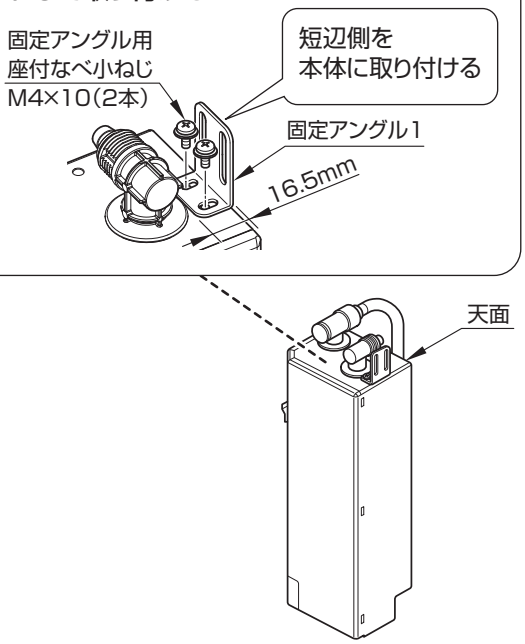
【電気温水器付自動水栓の場合】

参照 詳しくは、電気温水器の施工説明書を参照してください。

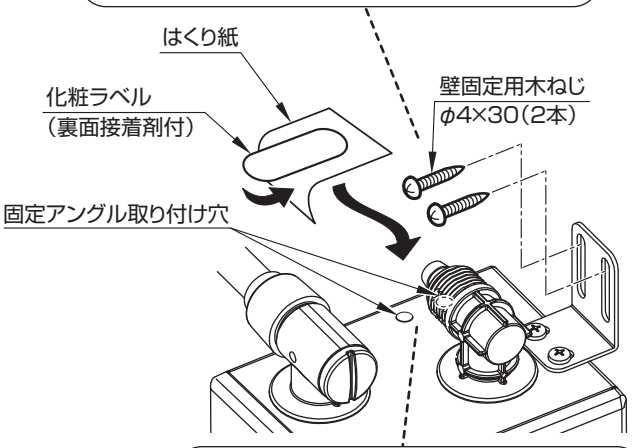
電気温水器取り付け位置



① 電気温水器に固定アングル1を同梱のねじで取り付ける

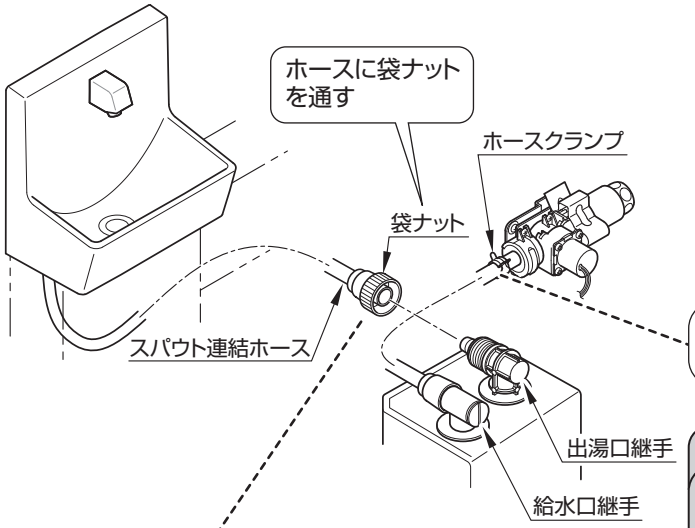


② 本体を同梱のねじで取り付ける



③ 化粧ラベルで電気温水器本体上部の固定アングルを取り付けない方(長辺側)の穴に貼り付けてふさぐ

14-S 手洗器（つづき）



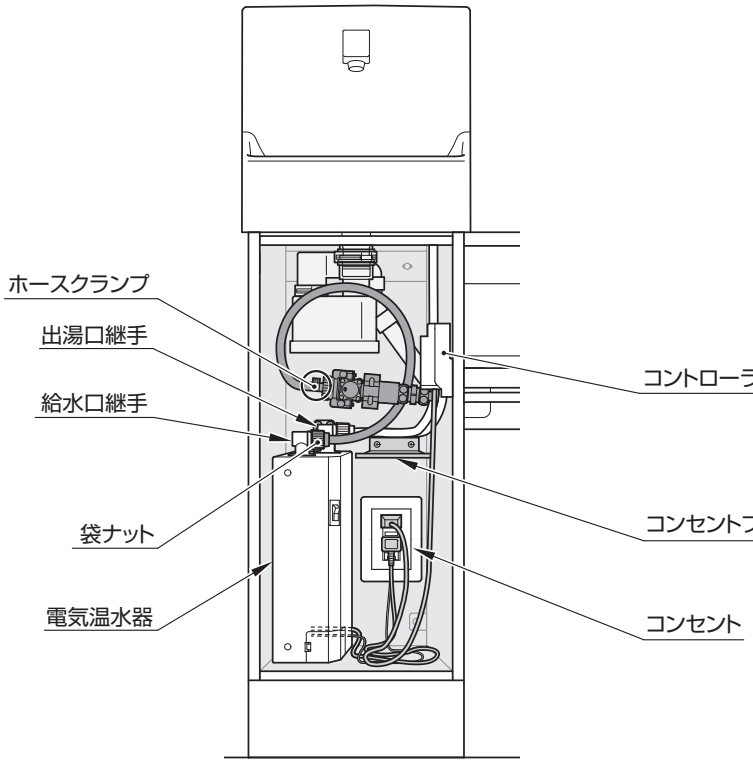
④ホースと機能部をホースクランプで締め付ける

⚠ 注意

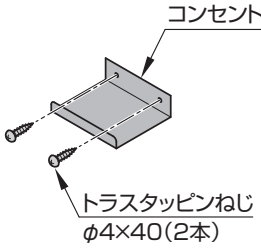
必ず守る

ホースは根元までしっかり差し込む
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因になります。

⑤ 出湯口継手にスパウト連結ホースを差し込み、袋ナットで締め付ける



⑥ コンセントプレートカバーを取り付ける



⚠ 注意

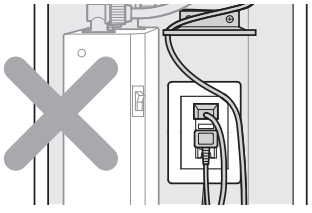
必ず守る

電気温水器の電源コード･アース線は、キャビネットと電気温水器との間や扉に挟まないように取り回す
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

⚠ 警告

禁止

電源コードはコンセントプレートカバーの上を通さない
結露水がコードを伝わりコンセントにかかり、火災や感電のおそれがあります。



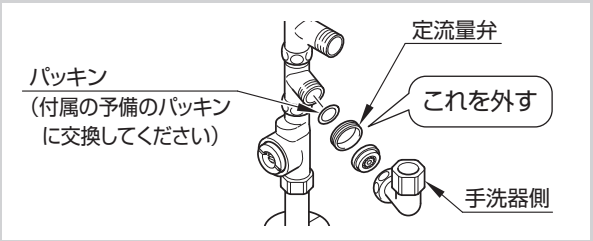
15 試運転・確認

試運転をする前に

試運転をする前に、止水栓を開けてください。
確認後は、止水栓を閉めてください。

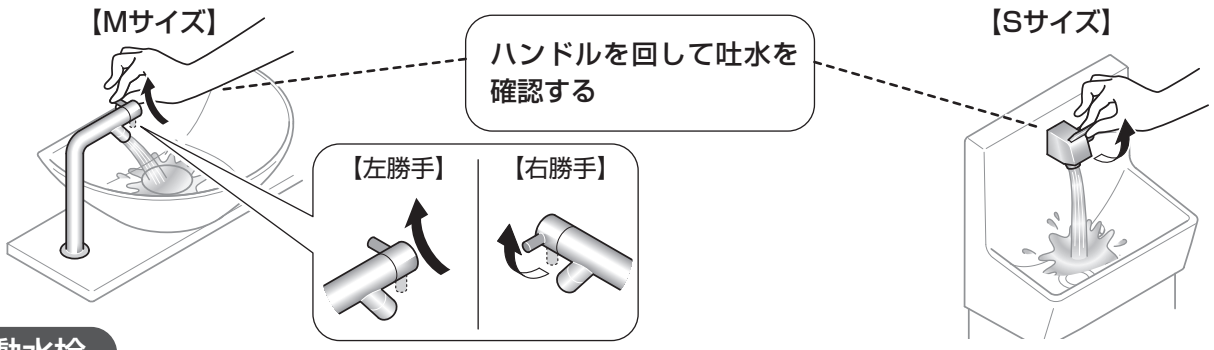
注 意

吐水量が少ない場合は、分岐金具の手洗器側を外して定流量弁を外してください。
必要に応じて止水栓にて流量を調整してください。



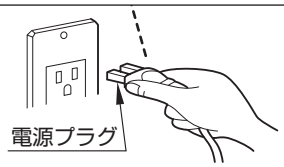
1 水栓

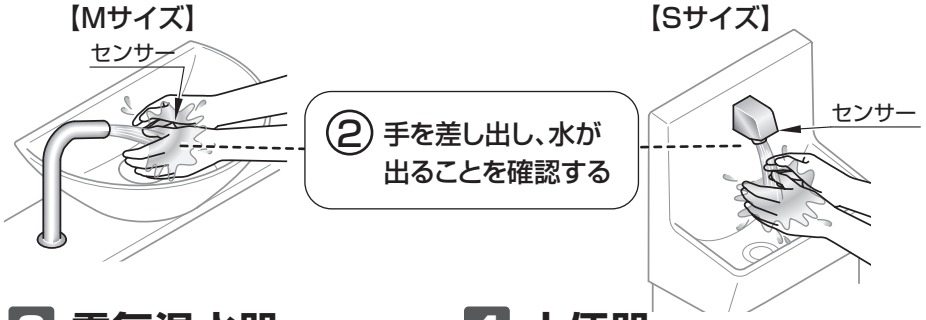
ハンドル式水栓



自動水栓

① コンセントに電源プラグを差し込む





2 ウォシュレット

ウォシュレットに同梱されている施工説明書の手順に従って、吐水確認をする。

3 電気温水器

電気温水器に同梱されている施工説明書の手順に従って、吐水確認をする。

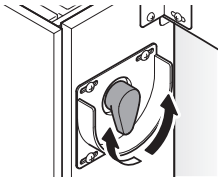
4 大便器

2～3度洗浄させて、便器･タンク内外への水漏れなどの異常がないことを確認する。

5 洗浄レバー

① 手動で確認する

洗浄レバーを手で操作して、便器洗浄が大･小洗浄とも正常に行われることを確認する。
洗浄レバーが、スムーズに回転することを確認する。
（キャビネットとの干渉がないこと）



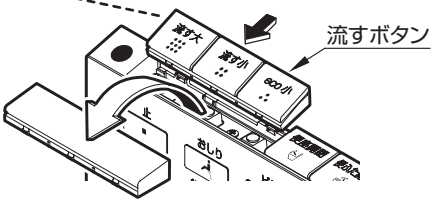
スムーズに動くことを確認

注 意

正常に作動しない場合、洗浄レバーカバーの取り付け位置を確認してください。

② リモコンに流すボタンが取り付けられているか確認する

流すボタンの取付方法は流すボタン取付説明書を参照してください。

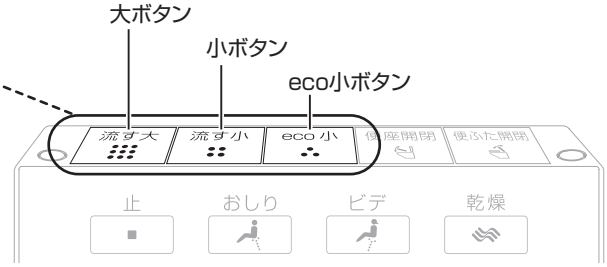


15 試運転・確認（つづき）

③ リモコンで便器洗浄を確認する

「大」・「小」「eco小」のボタンを押して、それぞれ「大」・「小」「eco小」の洗浄を行うことを確認する。
※連続して押すと作動しません
　約10秒たってからもう一度ボタンを押してください

流す大	→	洗浄レバーが大側に回転する
流す小	→	洗浄レバーが小側に回転する
eco小	→	洗浄レバーが小側に回転し約3秒間停止後戻る（重要）

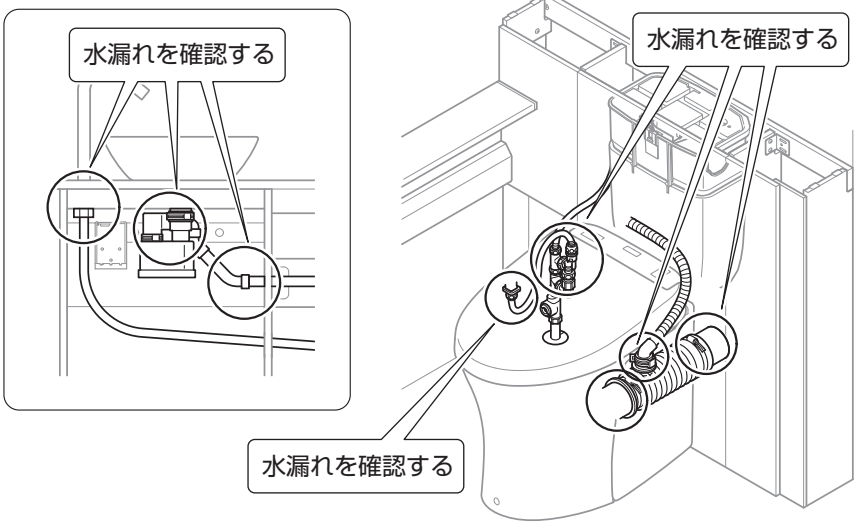


※機種によっては、ボタンのレイアウトやリモコンのデザインなどが異なります。

試運転が完了したら「運転入/切」が、「入」になっていることを確認してください。（「入」のときは、「運転ランプ」が点灯します）
「運転入/切」が「切」のときは、電源プラグをコンセントに差し込んでもウォシュレットは作動しません。
※お客様に引き渡すまでに時間があっても「運転入/切」を切らないでください。

6 給・排水の水漏れ確認

2～3度洗浄させて、給水管や排水管の接合部から水漏れなどの異常がないことを確認する。

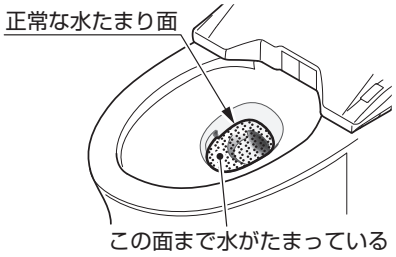


試運転で必ず実施してください

大洗浄をしたあと、水たまり面の状態を確認してください。

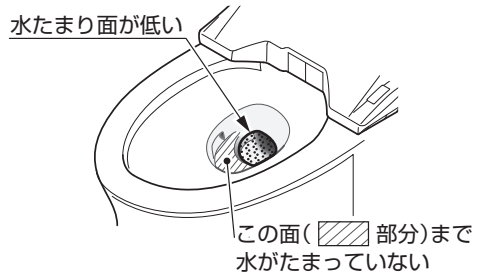
正常な状態

設定変更は不要です。
（設定を行うと、洗浄不良になる場合があります。）



水たまり面が低い状態

設定変更を行ってください。
（洗浄水量を変えずに水たまり面を正常な状態にすることができます。）

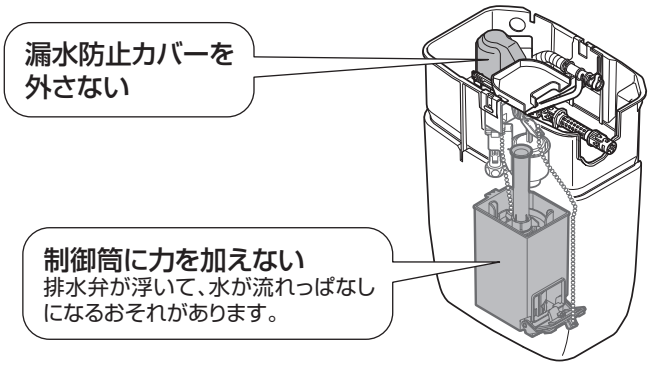


〈水たまり面の判断に迷ったときは…〉
ペットボトルやバケツなどで徐々に水をたし、水たまり面が上昇しない場合は正常です。

※水たまり面が低いと汚物付着の原因になります。
排水管に曲がりが多かったり、通気が不十分だったりすると、水たまり面が低下する場合があります。

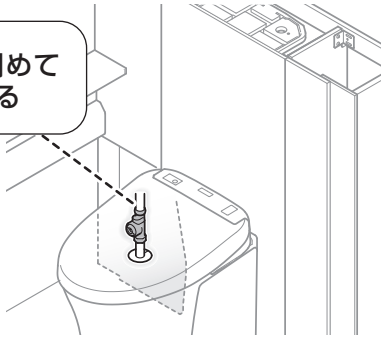
15 試運転・確認（つづき）

タンク内を調整する際のご注意

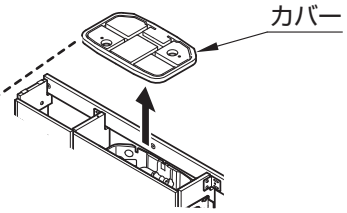


水たまり面が低い場合の対応方法

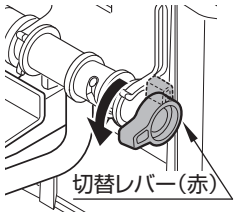
① 止水栓を閉めて
給水を止める

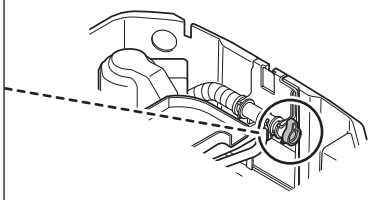


② カバーを外す

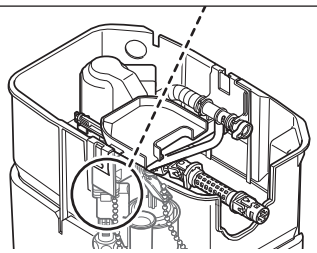


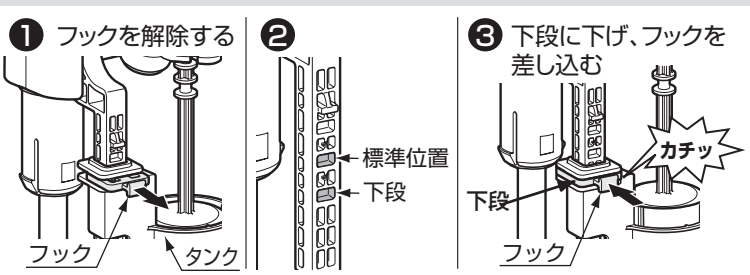
③ 切替レバー(赤)を手
前に90°回転させ、
そのままにしておく





④ フックを解除し、ボールタップの
タンク取付位置を下段に変更する

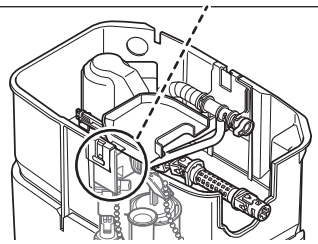




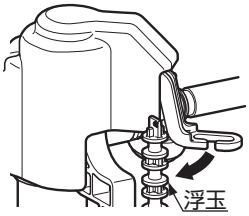
位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

15 試運転・確認（つづき）

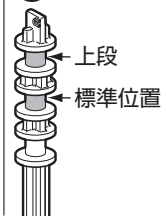
⑤ ボールタップの浮玉取付位置を、上段の凹部に変更する



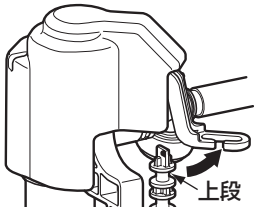
❶ 浮玉を外す



❷

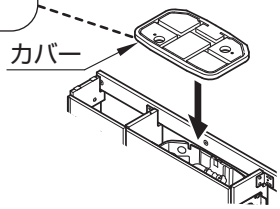


❸ 上段の凹部を取り付ける



位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

⑥ カバーを元に戻す



⑦ 取り付け完了後の確認

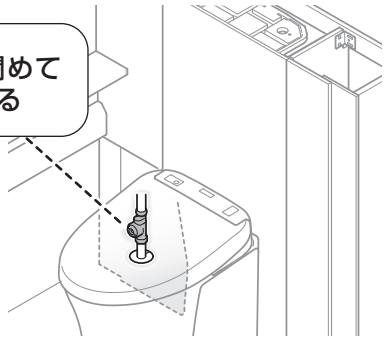
- 止水栓を開け、2～3度洗浄させて、便器・タンク内外への水漏れなどの異常がないことを確認する
- 正常に洗浄するか確認する
- **洗浄終了時、水たまり面が低下していないことを確認する**

自治体によって洗浄水量の規制がある場合

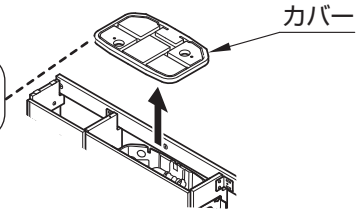
大洗浄4.8L、小洗浄3.6L、eco小洗浄3.4L仕様を「大洗浄6Ｌ、小洗浄4.8Ｌ、eco小洗浄4.6Ｌ仕様」または「大洗浄8Ｌ、小洗浄6Ｌ、eco小洗浄5.5Ｌ仕様」に変更することができます。

大洗浄6Ｌ、小洗浄4.8Ｌ、eco小洗浄4.6Ｌ仕様への切替方法

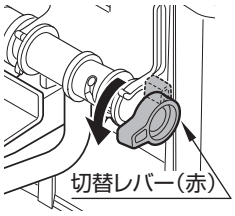
① 止水栓を閉めて給水を止める

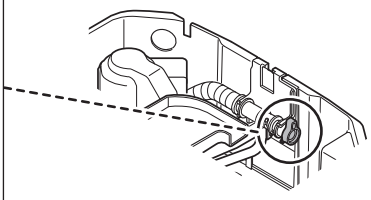


② カバーを外す

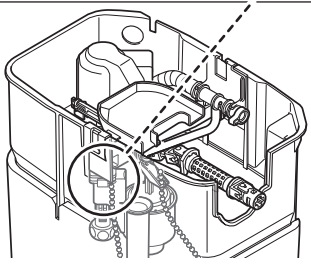


③ 切替レバー（赤）を手前に90°回転させ、そのままにしておく

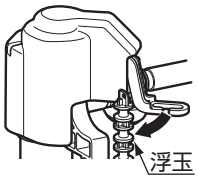




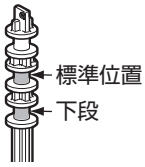
④ ボールタップの浮玉取付位置を、下段の凹部に変更する



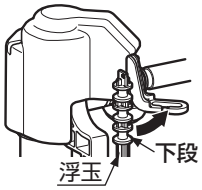
❶ 浮玉を外す



❷



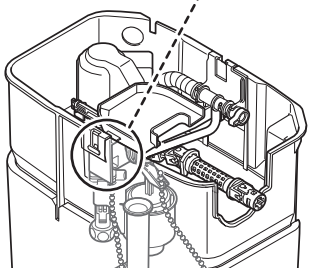
❸ 下段の凹部を取り付ける



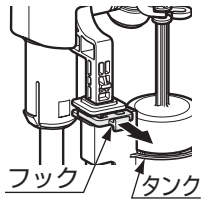
位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

15 試運転・確認（つづき）

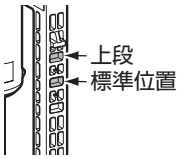
⑤ フックを解除し、ボールタップのタンク取付位置を上段に変更する



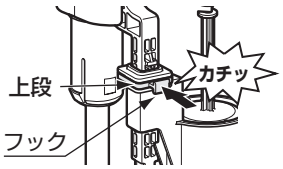
❶ フックを解除する



❷

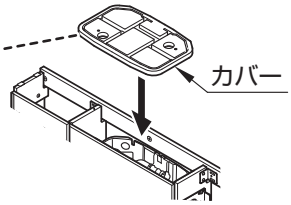


❸ 上段に上げ、フックを差し込む



位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

⑥ カバーを元に戻す

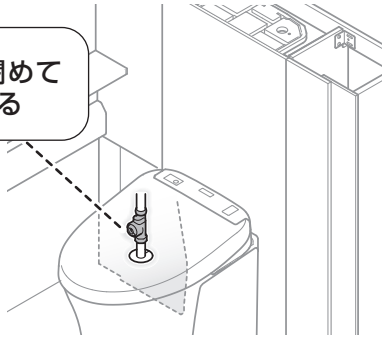


⑦ 取り付け完了後の確認

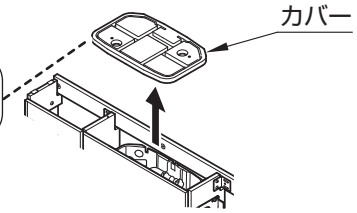
- 止水栓を開け、2～3度洗浄させて、便器・タンク内外への水漏れなどの異常がないことを確認する
- 正常に洗浄するか確認する
- **洗浄終了時、水たまり面が低下していないことを確認する**

大洗浄8Ｌ、小洗浄6Ｌ、eco小洗浄5.5Ｌ仕様への切替方法

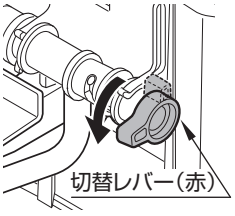
① 止水栓を閉めて給水を止める

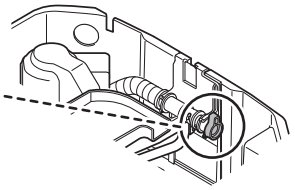


② カバーを外す

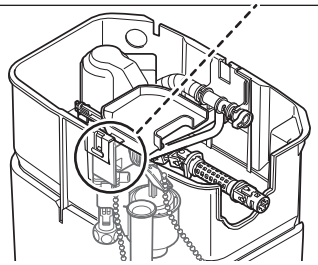


③ 切替レバー(赤)を手前に90°回転させ、そのままにしておく

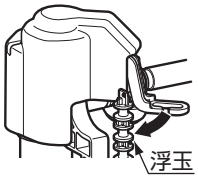




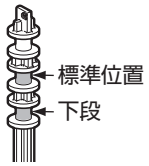
④ ボールタップの浮玉取付位置を、下段の凹部に変更する



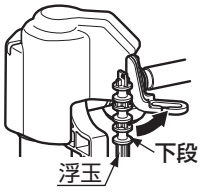
❶ 浮玉を外す



❷



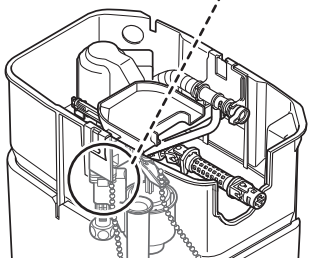
❸ 下段の凹部を取り付ける



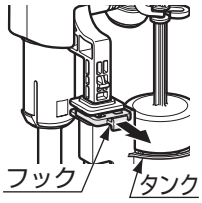
位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

15 試運転・確認（つづき）

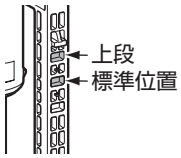
⑤ フックを解除し、ボールタップのタンク取付位置を上段に変更する



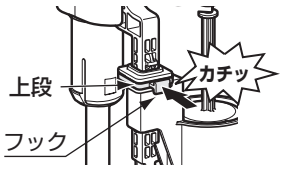
❶ フックを解除する



❷

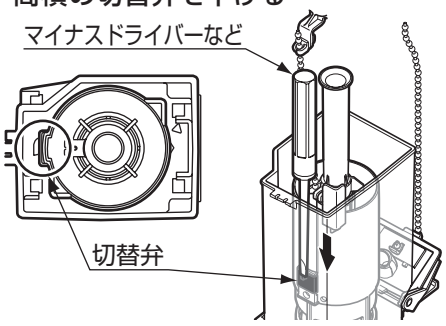


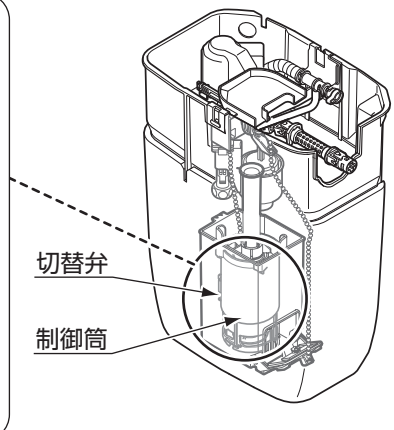
❸ 上段に上げ、フックを差し込む



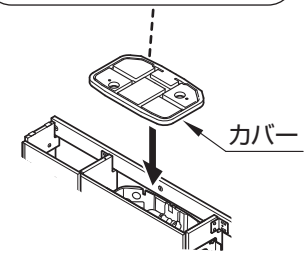
位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

⑥ 先の長いマイナスドライバーを排水弁の上方から差し込み、制御筒横の切替弁を下げる





⑦ カバーを元に戻す

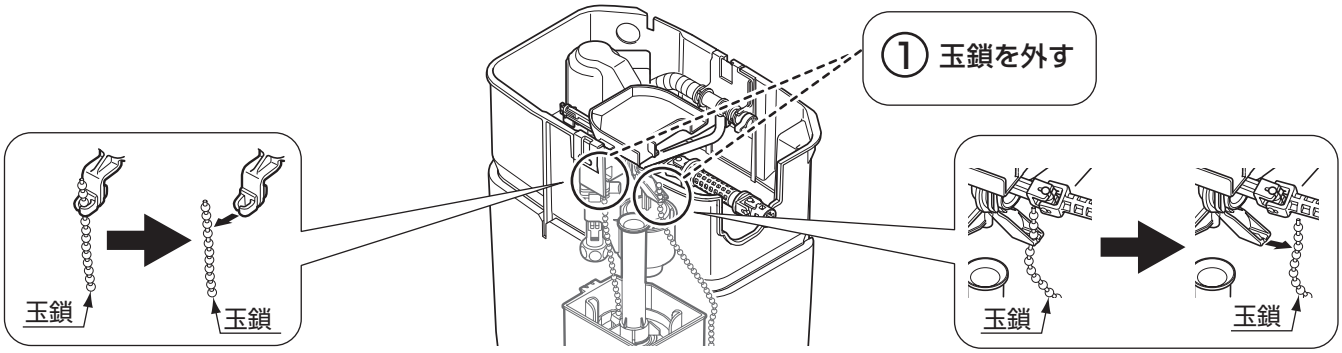


⑧ 取り付け完了後の確認

・止水栓を開け、2～3度洗浄させて、便器・タンク内外への水漏れなどの異常がないことを確認する
・正常に洗浄するか確認する
・洗浄終了時、水たまり面が低下していないことを確認する

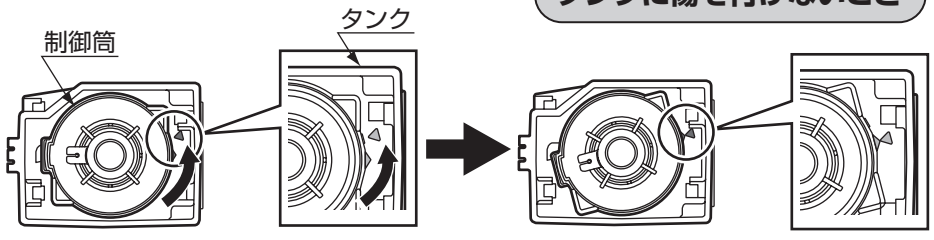
●制御筒横の切替弁を下げることができなかった場合

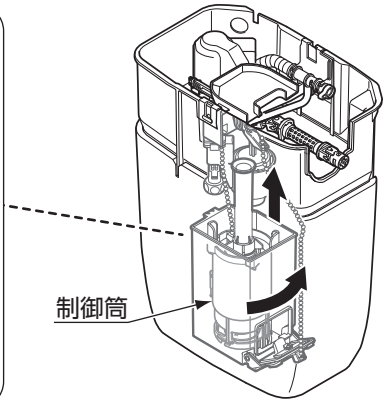
① 玉鎖を外す



② 制御筒を反時計回りに回し外す
制御筒の矢印とタンクの矢印を合わせる

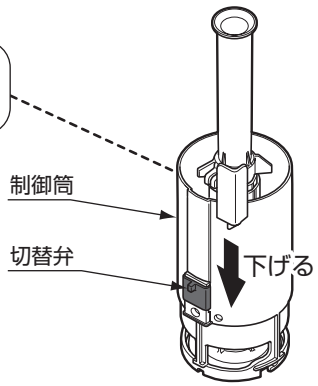
注 意
制御筒の取り外し時に樹脂タンクに傷を付けないこと



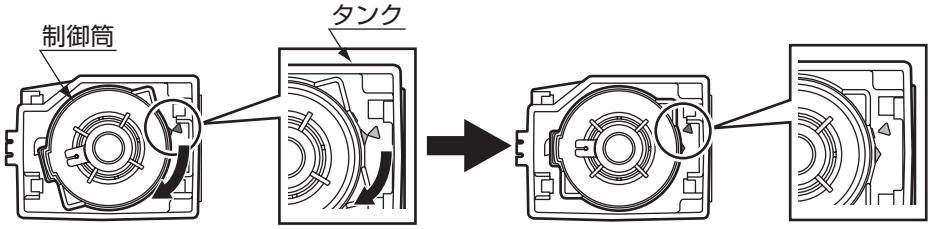


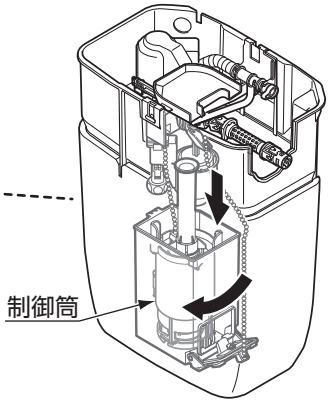
15 試運転・確認（つづき）

③ 制御筒横の切替弁を下げる

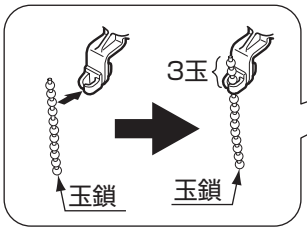


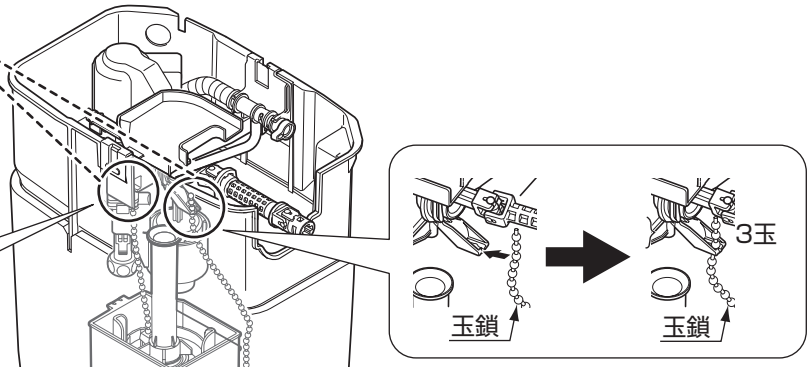
④ 制御筒を時計回りに回し取り付ける



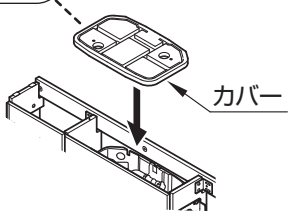


⑤ 玉鎖を3玉余し取り付ける
正しく取り付けないと止水不良になります





⑥ カバーを元に戻す



⑦ 取り付け完了後の確認

- 止水栓を開け、2～3度洗浄させて、便器・タンク内外への水漏れなどの異常がないことを確認する
- 正常に洗浄するか確認する
- **洗浄終了時、水たまり面が低下していないことを確認する**

16 天板

「天板セット、大便器キャビネット部材」の部材を使用

まるごと収納タイプの場合

1 天板を加工する

ポイント

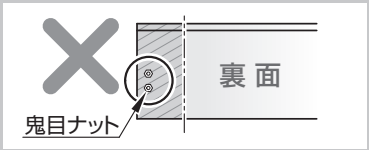
チッピングを起こさないようにする

のこぎり：表面を上にしてカット

電動丸のこぎり：裏面を上にしてカット

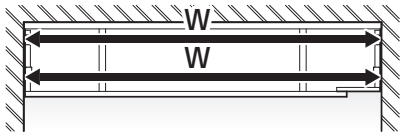
ポイント

まるごと収納タイプの場合、カットする位置に注意する

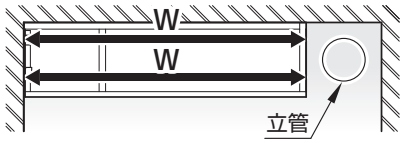


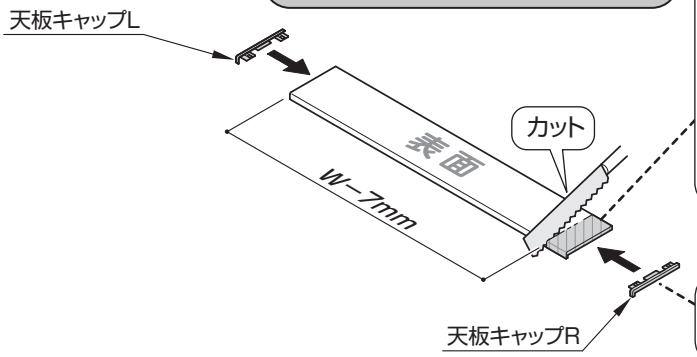
① 奥側と手前の寸法Wを測り、狭い方を基準にして、天板をW−7mmの寸法にカットする

※「間口寸法Wの測定範囲」(P33)参照



【立管対応露出タイプの場合】

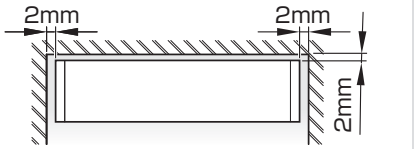




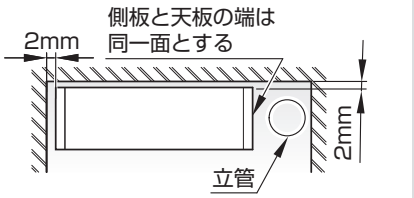
② 天板キャップをはめる
（ここではねじ固定しない）

2 天板を取り付ける

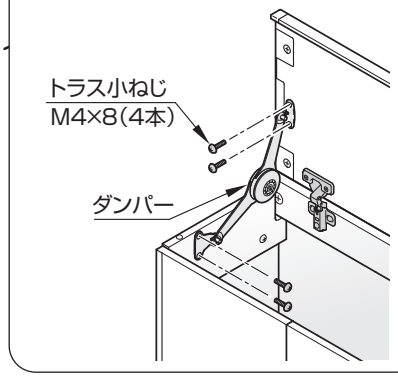
仕上げ状態（目安）

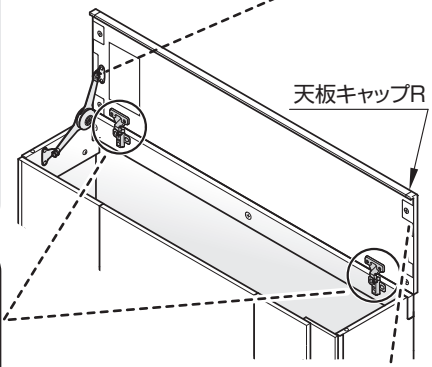


【立管対応露出タイプの場合】

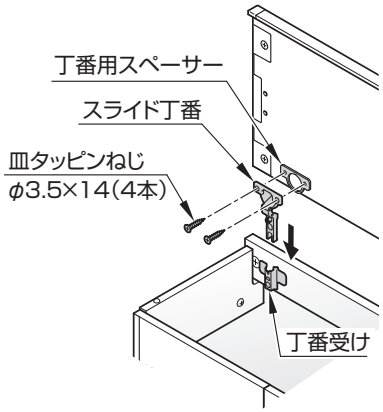


④ ダンパーを同梱のねじで取り付ける





① 丁番用スペーサー・スライド丁番を同梱のねじで天板に 取り付ける

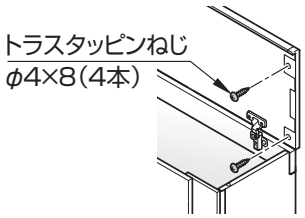


② 天板を横桟に取り付ける

ポイント

- **ねじは手締めで行うこと**
- **天板の両端が壁をこすらないこと**
- **ダンパーが側板と干渉しないこと**

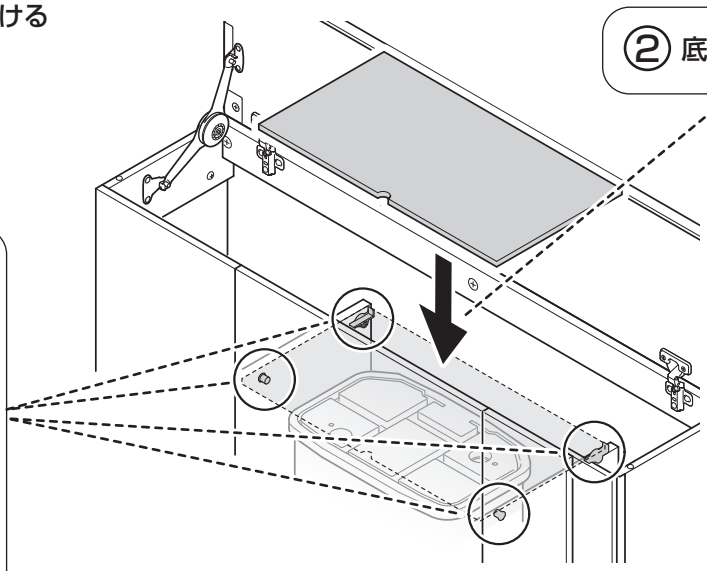
③ 天板キャップを左右調整し、ねじで固定する



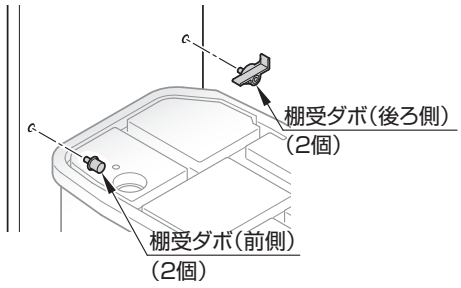
16 天板（つづき）

3 タンク上収納底板を取り付ける

② 底板をのせる

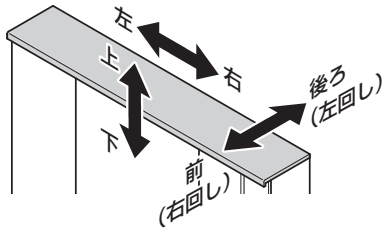


① コアキャビネットの側板に棚受ダボを取り付ける

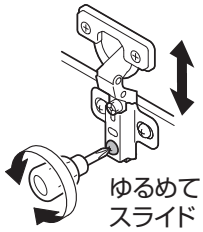


4 天板の調整をする

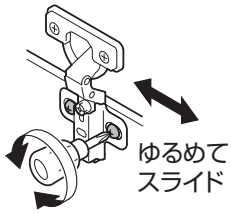
スライド丁番



【上下調整】

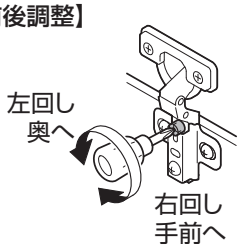


【左右調整】

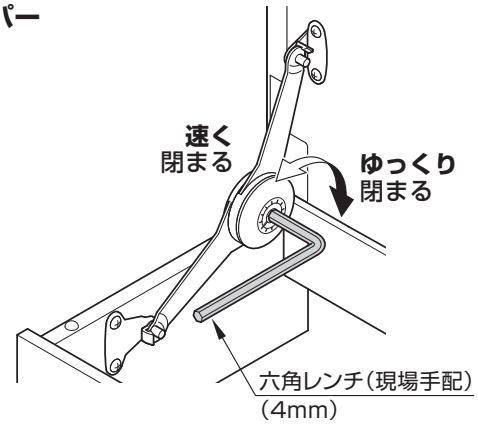


ねじを回しすぎると
ねじがきかなくなります

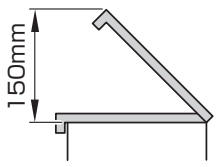
【前後調整】



ダンパー



前板上端150mmの高さから自然に閉じ始める固さに調整する



16 天板（つづき）

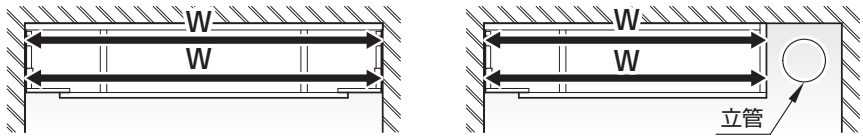
収納タイプの場合

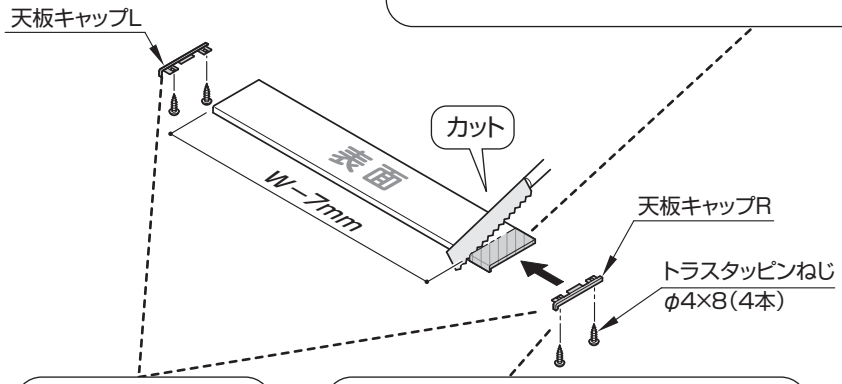
1 天板を加工する

ポイント

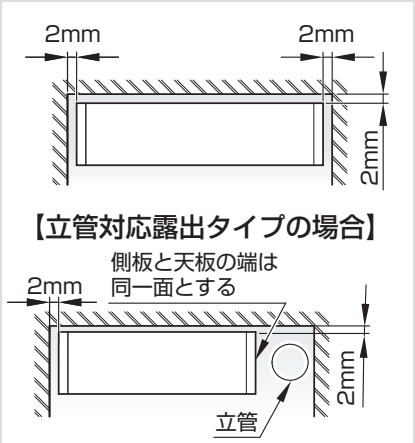
チッピングを起こさないようにする
のこぎり：表面を上にしてカット
電動丸のこぎり：裏面を上にしてカット

① 奥側と手前の寸法Wを測り、狭い方を基準にして、天板をW−7mmの寸法にカットする
※「間口寸法Wの測定範囲」(P33)参照





仕上げ状態（目安）



② 天板キャップをはめる

③ 天板を仮置きし、左右を調整し、天板キャップをねじで固定する

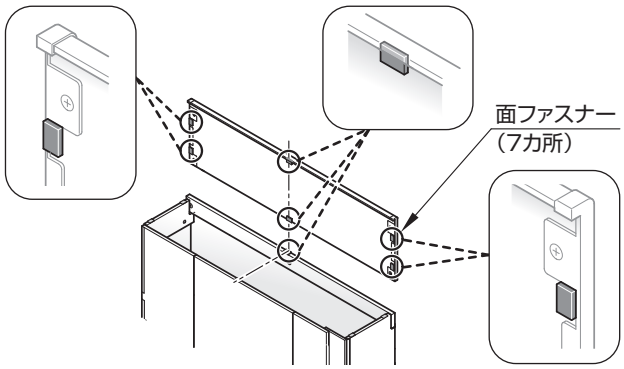
ポイント

ねじは手締めで行うこと

④ 天板裏と横桟に付属の面ファスナーを貼る(7カ所)

注　意

- **面ファスナーの向き(縦横)に注意する**
- **面ファスナーが天板キャップにかからないこと**



2 天板を取り付ける

天板をキャビネットに固定する

ポイント

面ファスナーとしっかりかみ合うように押し込む

上から強く押さえ側板、前板、コアキャビネットについている面ファスナーとしっかりかみ合うように押し込む。

注　意

シール剤は打たない
点検・洗浄レバーの操作などで開けることがあります。

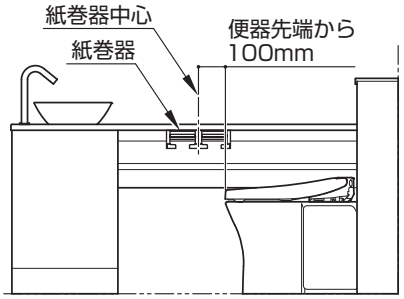
4 器具類の取り付け

1 紙巻器

「紙巻器」の部材を使用

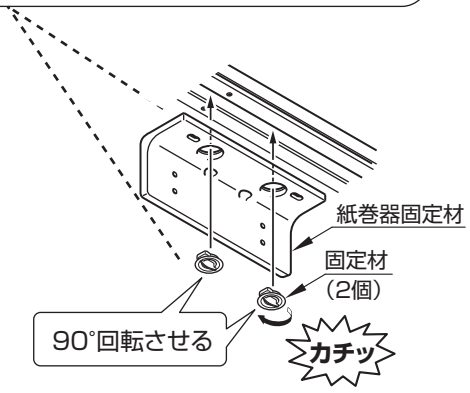
紙巻器取り付け推奨位置

紙巻器の取り付けは、図の位置をおすすめします。
※カウンターの長さによっては、推奨位置に取り付かない場合があります。お客様の使いやすい位置に取り付けてください。



【メタル製紙巻器の場合】

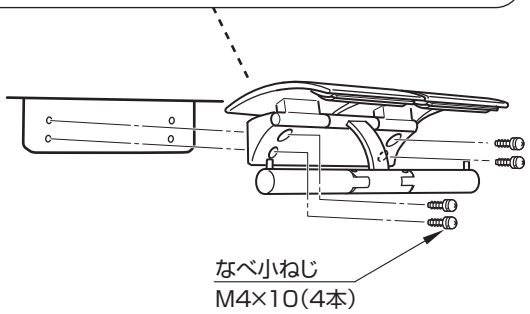
① 紙巻器固定材をカウンター裏面に押し当て、固定材を90°回転させ取り付ける



② 紙巻器本体を、同梱のねじで紙巻器固定材に取り付ける

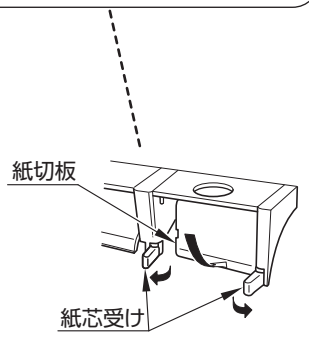
ポイント

ドライバーにて手締めすること



【樹脂製紙巻器の場合】

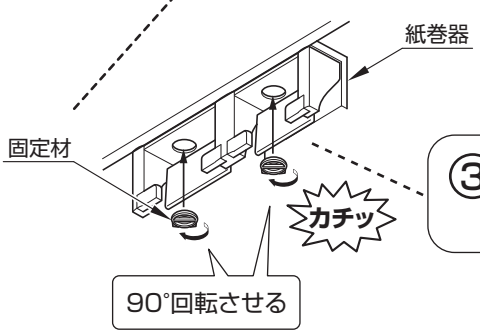
① 紙芯受けを外側に開き、紙切板を奥に倒す
(紙切板は外さない)



② 紙巻器を設置部に押し当て、固定材を90°回転させ取り付ける

ポイント

固い場合は、当て布をしてペンチ等で回転させる



③ 紙切板を元に戻す

2 タオル掛け

「タオル掛け」の部材を使用

■手洗器下取り付けタイプ

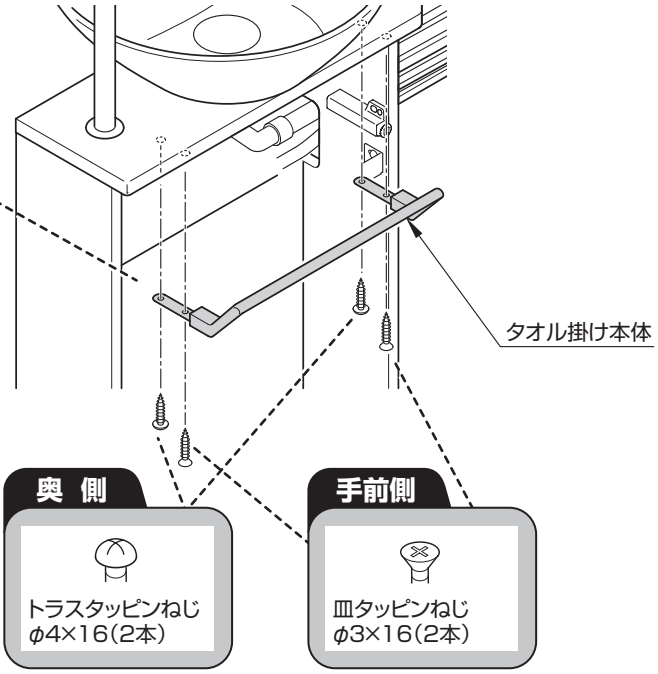
【手洗器Mサイズの場合】

カウンター裏面の下穴に同梱のねじで固定する

ポイント

ドライバーにて手締めすること

ねじの取付位置を間違えると、扉に傷がつきます。



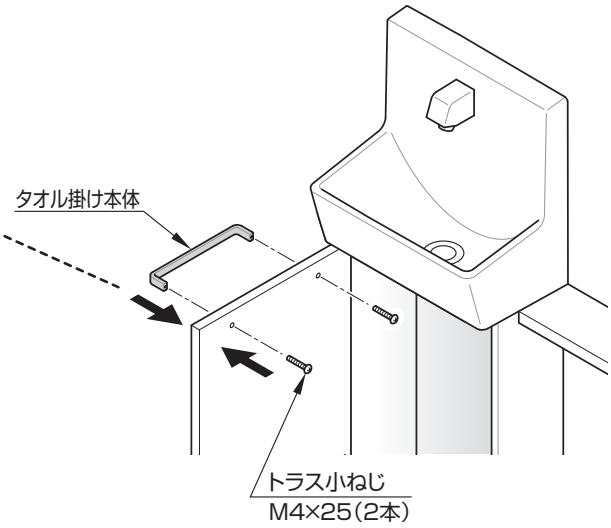
【手洗器Sサイズの場合】

扉に下穴をあけタオル掛けを取付する

参照 詳しくは、専用の施工説明書を参照してください。

ポイント

ドライバーにて手締めすること



■壁取り付けタイプ

参照 詳しくは、専用の施工説明書を参照してください。

3 リモコン

「ウォシュレット」の部材を使用

参照 詳しくは、ウォシュレットの施工説明書を参照してください。

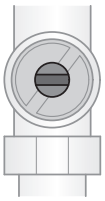
5 部材の取り付け②

1 リモコンの作動確認

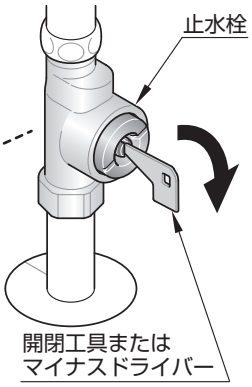
正常に便器洗浄するか確認する。詳しくは本書87ページを参照してください。

2 給水フィルターの清掃

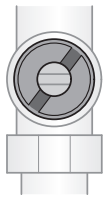
① 止水栓を閉める



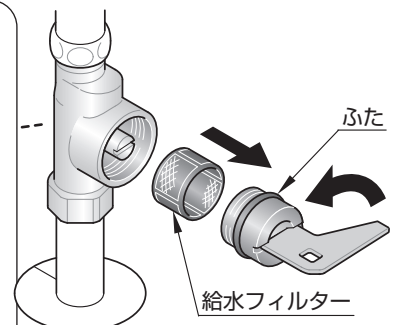
※内側だけを回すこと



② ふたを開け、給水フィルターを取り外す



※外側だけを回すこと

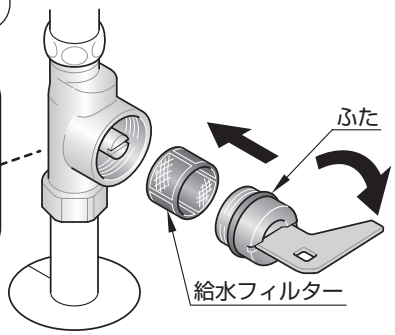


③ 給水フィルターの清掃を行う

ポイント

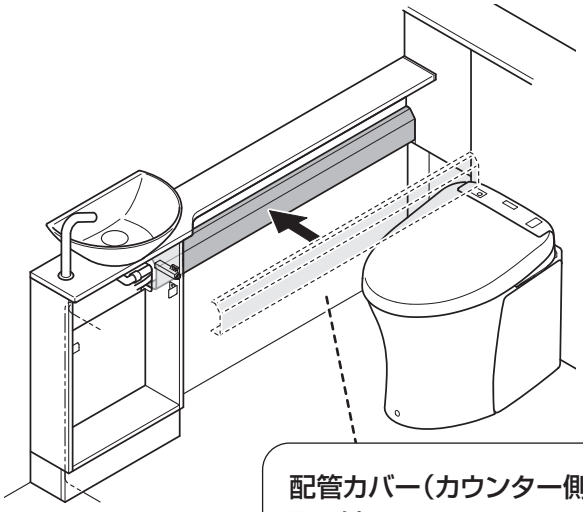
給水フィルターの清掃は必ず実施する

④ 給水フィルターを元の位置に取り付け、ふたを開閉工具で締め付ける



3 カバー類の取り付け 「手洗器カウンター部材、手洗器用キャビネット」の部材を使用

1 配管カバーを取り付ける

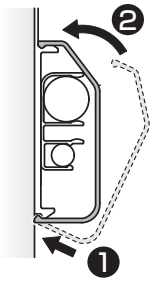


配管カバー（カウンター側）を取り付ける

ポイント

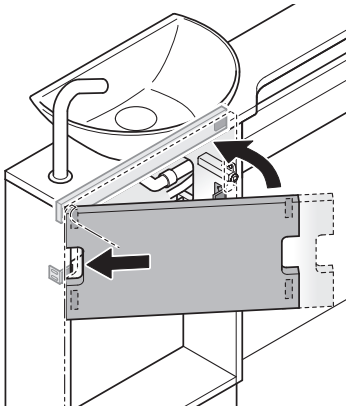
配管カバーをはめ込む

配管ブラケットに引っ掛けるように配管カバーをセットする



2 キャビネットカバーを取り付ける

【手洗器Mサイズ】



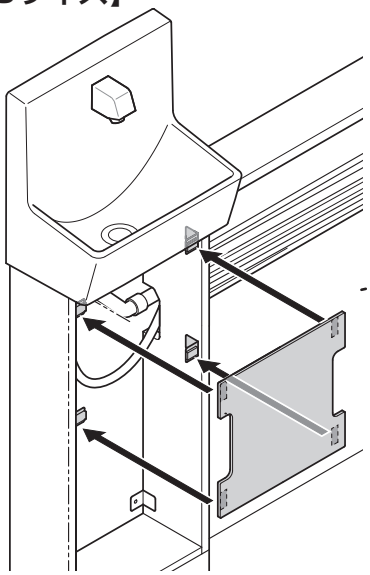
キャビットカバーとキャビネットの面ファスナーをしっかりはり合わせる

⚠ 注意

必ず守る

取り付け時は強く押し込む
落下してけがの原因となります。

【手洗器Sサイズ】



キャビットカバーとキャビネットの面ファスナーをしっかりはり合わせる

⚠ 注意

必ず守る

取り付け時は強く押し込む
落下してけがの原因となります。

4 シリコーン系シール剤の塗布

【手洗器 Mサイズ】

手洗器と壁･カウンターに接する面および手洗器とバックパネルの間にシリコーン系シール剤（別途手配）を塗布します。

⚠ 注意

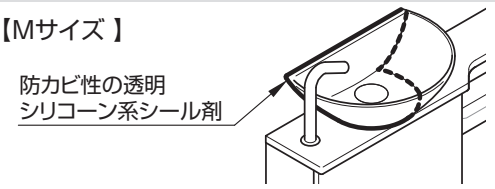
必ずシリコーン系シール剤を塗布すること

水が浸入し、壁のいたみ、カビの発生などの原因となります。

必ず守る

シリコーン系シール剤塗布位置

【Mサイズ 】



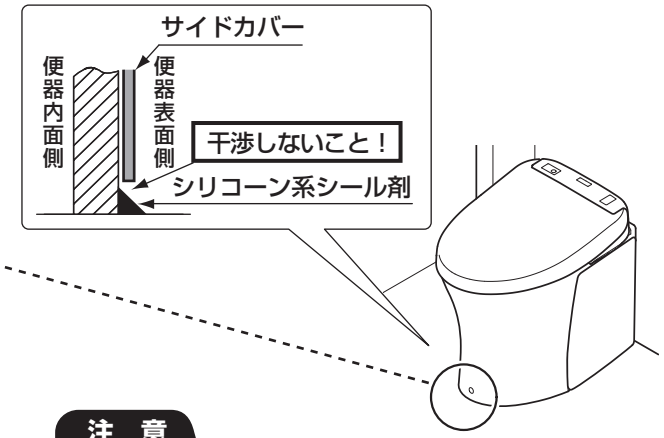
※TOTOおすすめシリコーン系シール剤（別途手配）
メジシール（クリア）：YG903S

【大便器】

便器床接地部周囲に防カビ性の透明シリコーン系シール剤を塗布する

水や小水の浸入を防止することをおすすめします。

トイレ床材に防水加工がされていないフローリング(木質系)を使用すると、こぼれた小水や結露水等が便器と床材のすき間に入り込み、床シミが発生することがありますので、おすすめできません。フローリング(木質系)を使用される場合は、便器袴下部周囲に防カビ性の透明シリコーン系シール剤を塗布することをおすすめします。



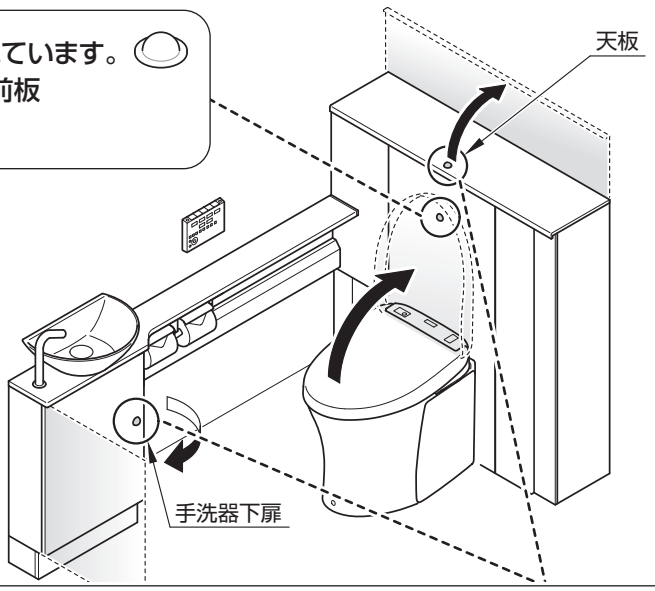
注 意

塗布したシリコーン系シール剤がサイドカバーに当たらないよう注意する

シリコーン系シール剤にサイドカバーが干渉するとサイドカバーが取り付けできなくなるおそれがあります。

5 クッションの貼り付け

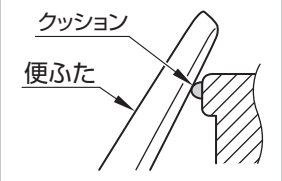
ウォシュレットに同梱されています。
・まるごと収納タイプ：前板
・収納タイプ：天板前面



ポイント

クッションに便ふたが当たることを確認する

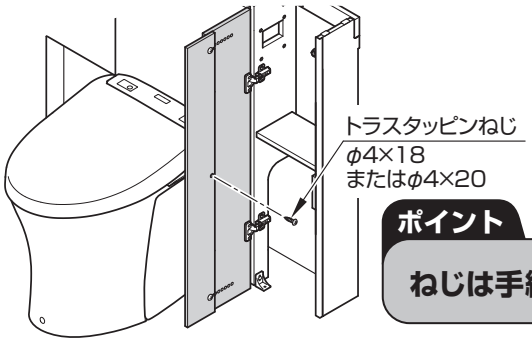
貼付面は水拭きし、乾燥後貼り付ける



施工説明書に同梱されています。
天板や扉を開けた時、壁と当たる場合は、付属のクッションを貼り付けてください。
※お使いにならない場合は、取扱説明書と一緒にお客様に渡してください。

6 扉の本固定と調整

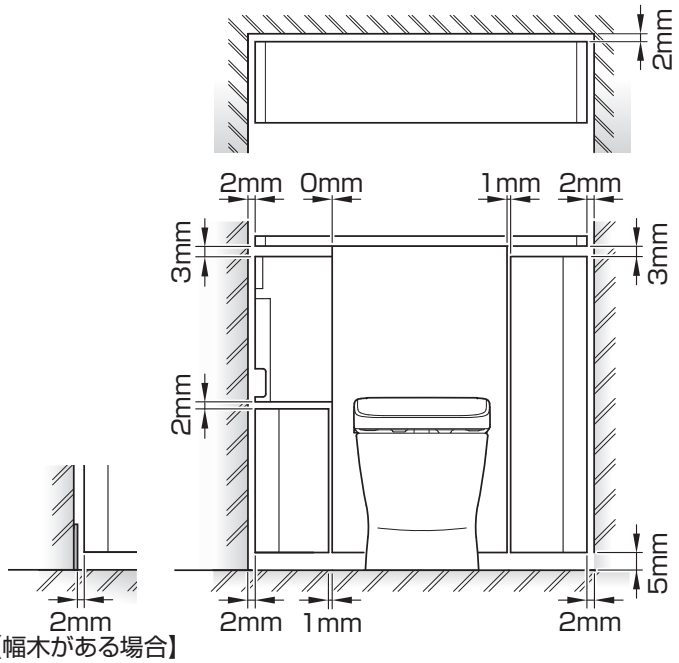
1 扉を本固定する



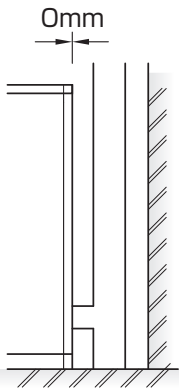
ポイント

ねじは手締めで行うこと

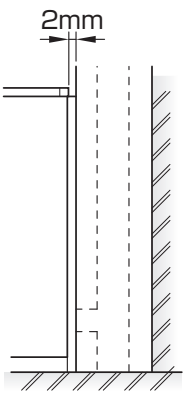
仕上げ状態（目安）



【幅木がある場合】



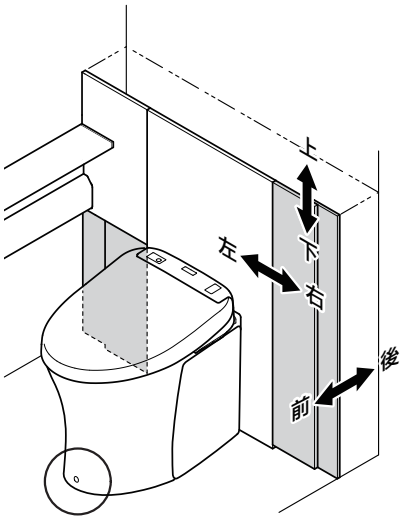
【立管対応 露出タイプ】



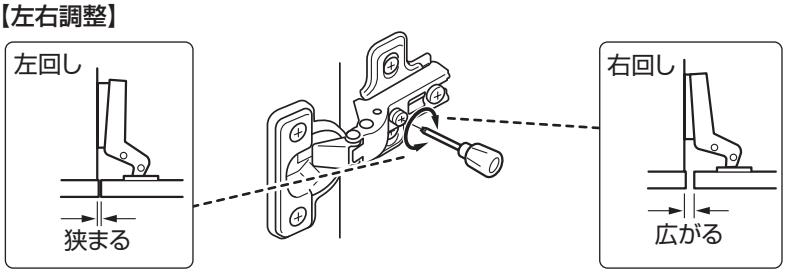
【立管対応 隠ぺいタイプ】

6 扉の本固定と調整（つづき）

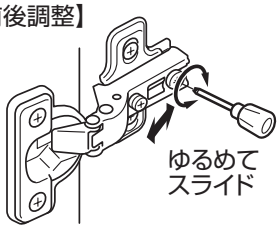
扉の調整方法



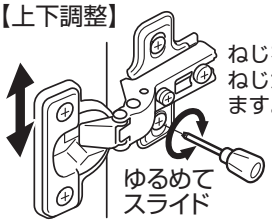
【左右調整】



【前後調整】

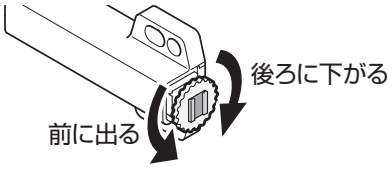


【上下調整】



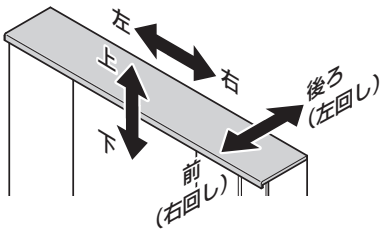
ねじを回しすぎると、ねじがきかなくなります。

※プッシュラッチ部も前後調整することができます。

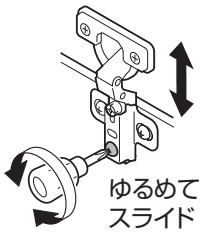


天板の調整方法

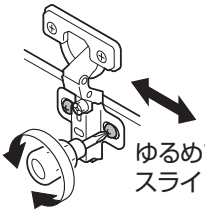
スライド丁番



【上下調整】

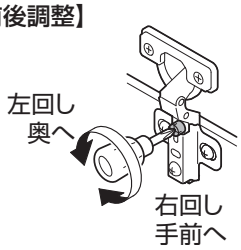


【左右調整】

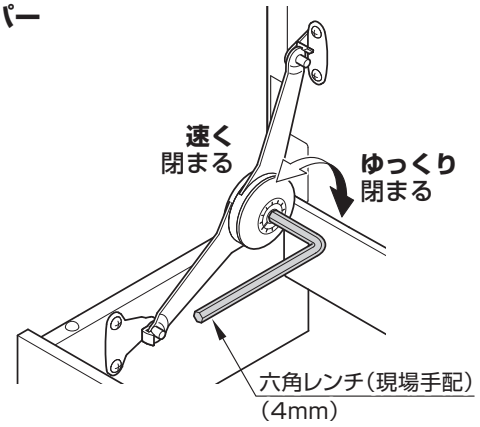


ねじを回しすぎると、ねじがきかなくなります。

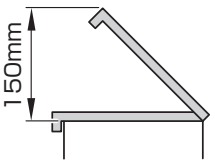
【前後調整】



ダンパー



前板上端150mmの高さから自然に閉じ始める固さに調整する



工事店様へ

このたびはレストパルを施工いただき、ありがとうございました。

UGX1074Z